市町村立圖書館設置要項

一、設置及經營

一、市町村ヲ單位トシテ一ケ所ヲ設クルヲ本體トス

二、市町村立圖書館ハ獨立ノ建物トシテ閱覽室書庫及事務室ニ區分スルヲ可トス但シ土他ノ狀況ニ依リ學校役場青年會館公會堂等ヲ利用スルモ妨ナシ

三、閱覽ハ館內及館外ノ二種トス

四、館內閱覽ハ閱覽票ニヨリ館外閱覽ハ貸出帳ニ記入セシム

五、適當ナル方法ニ依リ巡回文庫ヲ備付クルヲ可トス

六、市町村內適當ノ場所ヲ撰ヒ揭示板ヲ設ケ圖書館ニ關スル報導ノ機關トナスヲ可トス

二、經　費

一、創設費ハ建築費ヲ除キ少クトモ參百圓ヲ下ラサルコト但シ既設文庫其ノ他ノ圖書備品ヲ受入ルル場合ニアリテハコノ限ニアラス

二、經費ハ每年度少クトモ貳百圓以上タルヘシ

三、經費ハ大凡總額ノ六割ヲ圖書購入費ニ二割ヲ館員手當ニ二割ヲ其ノ他諸費ニ配當スルヲ可トス

三、圖書ノ選擇備付

一、圖書ハ左記要目ニ基ツキ土地ノ狀況ニ適スルモノヲ選擇スルト共ニ一部門ニ偏セサル樣留意スルコト

(一)國民道德ノ振興ニ資スヘキモノ

(二)日常生活ノ指針トナルヘキモノ

(三)科學智識ノ普及ニ資スヘキモノ

(四)產業及經濟ノ發達ニ資スヘキモノ

(五)自治ノ振興ニ資スヘキモノ

(六)健全ナル讀書趣味高尙ナル娛樂ニ適スルモノ

(七)生徒兒童ノ課外讀物ニ適スルモノ

(八)青年男女竝家庭讀物ニ適切ナルモノ

(九)體育ノ振興ニ資スヘキモノ

二、鄕土ニ關スル資料ハ可成蒐集ニ努ムルコト

三、代表的新聞雜誌ヲ備付クルコト

四、圖書選擇ノ場合ハ文部省編纂圖書館書籍標準目錄日本圖書館協會選定新刊圖書目錄其ノ他ヲ參考ヲスルコト

五、圖書ノ購入ハ成ルヘク其ノ度數ヲ多クシ常ニ新書ノ備付ニ努ムルコト

六、有志者ヲシテ圖書ノ寄贈又ハ委託ヲ爲サシムルニ努ムルコト

四、圖書整理ト帳簿

一、購入又ハ寄贈ノ圖書ハ直ニ之ヲ圖書原簿ニ登錄シ一貫セル番號ヲ附スルコト

二、原簿ニ登錄ヲ了シタル圖書ハ之ヲ分類シ分類目錄ニ記入スルコト

三、圖書ハ左ノ部門ニ分類スルヲ可トス

〇一般書類附鄉土(叢書　類書　辭彙　新聞雜誌　統計　鄉土資料)

(一)宗教哲學(宗教一般　神書　佛教其ノ他諸宗教　哲學一般　論理學　心理學等)

(二)倫理教育(倫理一般　修養　儀式作法　教育一般　普通教育　專門教育　特殊教育　社會教育等)

(三)文學語學(文學一般　詩歌　小說　言語學　修辭學等)

(四)歷史地理(歷史一般　年表　系譜　傳記　地誌　紀行　地圖等)

(五)法制經濟(政治一般　法律一般　外交　殖民　經濟一般　貨幣　保險　土地　人口　財政　一般)

(六)社會家庭(社會學　社會問題　犯罪　風俗　家政一般　裁縫　手藝　料理等)

(七)理學醫學工學(理學一般　數學　物理　化學　天文　地文　博物一般　人種學　生理衞生　藥學　土木工學　機械工學　電氣工學等)

(八)兵　事(兵制　武術　戰術等)

(九)美術諸藝(美術一般　書畫　彫刻　印刷　寫眞　音樂　演劇　遊戲等)

(一〇)產業交通(產業一般　農作　園藝　山林　牧畜　水產業　蠶業　商業一般　郵便電信等)

四、兒童用圖書目錄ハ別冊トナスヲ可トス

五、圖書ハ分類番號冊數ヲ記入ノ上書架ニ排列スヘシ

五、圖書ノ活用

一、圖書ノ閱覽ハ館外携出ヲ重視スルコト

二、圖書ノ閱覽ハ出來得ル限リ簡易ナル方法ニ依ルヲ旨トスルコト

三、圖書ノ活用ニ就テハ充分ノ考究ヲ重ネソノ職業趣味ニ適スヘキ圖書ヲ配付閱覽セシムル如キ施設ヲ講シ常ニ積極的ノ方法ヲ採ルコト

六、巡回文庫

一、市町村内ニ若干ノ閱覽所ヲ設ケ定期又ハ臨時ニ巡回文庫ノ回付ヲナスコト

二、巡回文庫ノ回付ヲ受ケタルトキハ閱覽期間ヲ嚴守セシムル樣留意スルコト

市町村立圖書館準則

三重縣何市町村立圖書館々則　（昭和何年何月何日設立）（改正）

第一條　本館ハ（何）市町村立圖書館ト稱シ（何）市町村大字　番地ニ置ク

第二條　本館ハ良書ヲ公衆ノ閲覽ニ供シ社會教育ニ資スルヲ以テ目的トス

第三條　本館ニ左ノ職員ヲ置ク

一、館　長

二、司　書「何」名

三、書　記「何」名

第四條　館長ハ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

司書ハ館長ノ指揮ヲ承ケ圖書ノ整理保存及閲覽ニ關スル事務ヲ掌ル

書記ハ館長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　閲覽料ハ之ヲ徵收セス

第六條　本館ニ圖書ヲ寄贈又ハ委託セムトスル者ハ其ノ旨館長ニ申出ツヘシ

寄贈ノ圖書ニハ寄贈者ノ氏名ヲ記載シ其ノ篤志ヲ表示ス

受託ノ圖書ハ本館所藏ノ圖書ト同一ノ取扱ヲ爲シ火災其ノ他不可抗力ニ因リ損害ヲ生スルコトアルモ其ノ責ニ任セス

第七條　圖書ノ整理保存及閲覽ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

何町村市立圖書館細則

第一條　本館ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ圖書ノ增減館務ノ經過ヲ明ニスルモノトス

一、圖書原簿（第一號樣式）

一、圖書分類簿（第二號樣式）

一、受託圖書臺帳（第三號樣式）

一、館內閲覽簿（票）（第四號樣式）

一、館外閲覽簿（票）（第五號樣式）

一、巡回文庫廻付臺帳（第六號樣式）

一、巡回文庫圖書臺帳（第七號樣式）

一、巡回文庫圖書閲覽簿（第八號樣式）

一、寄贈者名簿

一、日　誌

第二條　本館ハ休館日ヲ除キ每日午前何時開館午後何時閉館トス但シ時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第三條　休館日左ノ如シ但シ臨時休館スルコトアルヘシ

年　始　一月一日ヨリ一月五日迄

紀元節　二月十一日

天長節　四月二十九日

明治節　十一月三日

圖書整理期　十月中三日乃至五日間

年　末　十二月二十五日ヨリ三十一日迄

第四條　閲覽ヲ爲サムトスルトキハ圖書分類簿又ハ書架ニツキ檢索シ館内閲覽ニ在リテハ館内閲覽簿（票）館外閲覽ニ在リテハ館外閲覽簿（票）ニ所要ノ事項ヲ記入シ圖書ヲ借リ受クヘシ

第五條　一時ニ貸付スヘキ圖書ハ館内ニ在リテハ二冊以内館外閲覽ニ在リテハ一冊トシ其ノ携出期間ハ七日以内トス但シ返納期日カ休館日ニ當ルトキハ次ノ開館日迄之ヲ延長スルコトヲ得

第六條　本館ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ圖書又ハ期間ヲ限リ館外閲覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第七條　圖書ハ丁寧ニ取扱ヒ讀了セルトキハ速ニ之ヲ返納スヘシ

第八條　圖書ハ轉貸スルコトヲ許サス

第九條　圖書ヲ汚損又ハ亡失シタルトキハ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十條　閲覽室ニ於テハ喫煙談話又ハ音讀其ノ他喧噪ニ渉ル行爲アルヘカラス

第十一條　本則又ハ館員ノ指示ニ違反シタル者ハ之ヲ退館セシメ又ハ閲覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第一號様式

圖書原簿

受入年月日	登錄番號	書名	著者名	冊數	發行年月	代價	分類號	圖書番號	備考

備考

一、「受入年月日」欄ニハ購入又ハ寄贈ノ年月日ヲ順次記入スルコト

二、「登錄番號欄」ニハ順次一貫セル番號ヲ記入スルコト

三、「書名」欄ニハ

1　寄贈ノ圖書ニハ「寄贈」ト附記スルコト

2　書名ハ主トシテ卷頭（本文第一頁）ニ在ルモノヲ記入スルコト

3　叢書全集類ハ其ノ叢書名全集名ヲ記入シ其ノ細目ヲ附記スルコト

四、「著者名」欄ニハ

1　著、編、譯等ヲ記入スルコト

2　二名ノ合著、編、譯等ニ係ルモノハ二名ヲ三名以上ノ場合ハ最初ノ一名ヲ採リ「外何名」ト記入スルコト

3　飜譯註釋書ハ原著者ノ外飜譯者註釋者ヲ記入スルコト

五、發行年月欄ニハ最新ノ發行年月ヲ採リ版數ヲ併記スルコト

六、分類番號圖書番號欄ニハ圖書分類簿ニ記入セルモノヲ轉載スルコト

七、「備考」欄ニハ購入先寄贈者氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スルコト

第二號樣式

圖書分類簿

書名	著者名	冊數	發行年月	分類番號	圖書番號	圖書原簿登錄番號	備考

備考

一、圖書分類簿ハ分類番號毎ニ口座ヲ設ケ各口座毎ニ同種ノモノヲ記入スルコト

二、「書名」「著者名」「冊數」「發行年月」欄ハ圖書原簿ノ例ニヨルコト

三、「分類番號」「圖書番號」欄ニハ

1　上段ニハ分類番號ヲ下段ニハ其ノ同種ニ屬スル圖書番號ヲ順次ニ記入スルコト

2　叢書全集其ノ他一部二冊以上ノ圖書ニ在リテハ二回以上ニ亘リ受入ルル場合ニ於テモ同一番號ヲ附スルコト

四、「圖書原簿登錄番號」欄ニハ圖書原簿ノ登錄番號ヲ轉載スルコト

第三號樣式

受託圖書臺帳

受託年月日 返付年月日	登錄番號	書名	著者名	冊數	發行年月	代價	分類番號	圖書番號	住所	氏名

備考

一、「受託返付年月日」欄ニハ受託ノ際ハ其ノ年月日ヲ右側ニ返付ノ際ハ年月日ヲ左側ニ記シ且朱線ニテ書名ヲ抹消スルコト

二、其ノ他ハ圖書原簿ノ例ニ據ルコト

第四號樣式(其ノ一)

館內閱覽簿

年月日	受取印	書名	冊數	分類番號	圖書番號	住所	職業	氏名

備考

一、兒童用圖書ヲ別ニ整理スル場合ハ其ノ閱覽簿ヲ別冊ト爲スコト

二、「受取印」欄ニハ返納ノ際係員認印スルコト
三、「職業」欄ニハ左ノ區別ニ從ヒ記入セシムルヲ便トス

1　學　生（生徒兒童）
2　農
3　官　吏（公吏軍人等）
4　教　員（記者）
5　雜

第四號樣式（其ノ二）

館內閱覽票

No.	圖書館館內閱覽票						
月日	住所		職業		氏名		
受取印	書名			冊數	分類番號	圖書番號	

備考

第四號樣式（其ノ一）ノ例ニ據ルコト

第五號樣式（其ノ一）

館外閱覽簿

携出月日	返納スベキ月日	返納月日	受取印	書名	冊數	分類番號	圖書番號	住所	職業	氏名

備考

第四號樣式（其ノ一）ノ例ニヨルコト

第五號樣式（其ノ二）

館外閱覽票

No.	圖書館携出閱覽票						
住所		職業		氏名			
携出月日	返納スベキ月日	返納月日	受取印	書名	冊數	分類番號	圖書番號

備考

第四號樣式(其ノ一)ノ例ニヨルコト

第六號樣式

巡廻文庫廻付臺帳

廻付年月日	原簿登錄番號	書名	著者名	冊數	發行年月日	代價	分類圖書番號	廻付圖書通番號	備考

第七號樣式

巡廻文庫圖書臺帳

廻付年月日	廻付圖書通番號	書名	著者名	冊數	發行年月日	備考

第八號樣式

巡廻文庫圖書閱覽簿

年月日	受取印	書名	冊數	廻付圖書通番號	住所	職業	氏名

公立圖書館設置認可申請書式例

公立圖書館設置認可申請

本(市町村)ニ於テ公立圖書館設置致度ニ付圖書館令施行規則第一條ニ依リ別紙事項ヲ具シ此段申請候也

年　月　日

三重縣知事　殿

管理者　郡(市)　町(村)長　氏　名　印

(別紙)

一、名稱(市村何町立圖書館)

二、位置　郡　町　番地
　　市　村大字

三、經費及維持ノ方法
　本館ハ毎年度本町(市村)費及「篤志者ノ寄附金」ヲ以テ經費ニ充テ之ヲ維持ス但昭和何年度豫算別紙ノ通(關係部分ノミ抽出テ以テ足ル)

四、敷地建物ノ坪數及圖面別紙ノ通

五、開館年月日

六、館則　別紙ノ通

私立圖書館設置開申書式例

私立圖書館設置ノ件開申

私儀（又ハ本會ニ於テ）何年何月何日ヨリ私立圖書館ヲ設置致候ニ付圖書館令施行規則第一條ニ依リ別紙事項ヲ具シ此段開申候也

年　月　日

郡（市）町（村）氏　　名印

三重縣知事　殿

（別紙）

一、名　稱　「何」圖書館

二、位　置　郡（市）町（村）大字　　番地

三、經費及維持ノ方法

「何」年度「何」費「及ヒ篤志者ノ寄附金」ヲ以テ經費ニ充テ之ヲ維持ス

但シ昭和何年度豫算別紙ノ通リ（關係部分ノミ抽出ヲ以テ足ル）

四、敷地建物ノ坪數及圖面別紙ノ通リ

五、開館年月日

六、館　則

●圖書館ノ設置經營ニ關スル件

（明治四十三年二月八日學第五九三號通牒）

內務部長ヨリ各郡市長宛

今般文部大臣ヨリ左記ノ通內訓相成候ニ付圖書館ノ設置經營ニ關シ右訓令ノ趣旨ヲ體行スル樣特ニ御注意相成度依命此段通牒候也

左　記

申離專第一三九號明治四十三年二月三日

最ニ圖書館令ノ發布セラレシヨリ以來公立私立圖書館ノ設置漸ク多キヲ加フルノ狀アルハ洵ニ喜フヘキ現象ナリトス然レトモ此等圖書館ノ內容ヲ觀察スレハ往々施設未タ其ノ宜シキヲ得サルモノナキニアラス依テ茲ニ圖書館ノ施設ニ關シ特ニ注意ヲ要スル事項ヲ揭ケ以テ大體ノ標準ヲ示サントス

圖書館ノ施設ハ規模ノ大小ニ應シテ取捨斟酌宜シキヲ得サルヘカラス近時各地方ニ於テ設定セラルル通俗圖書館又ハ

小學校ニ附設スル圖書館ノ類ハ施設其ノ宜シキヲ得ルトキハ小學校及家庭ノ教育ヲ裨補スル上ニ於テ其ノ效益尠少ニ非ザルヘシ而シテ此類ノ圖書館ニ在テハ健全有益ノ圖書ヲ選擇スルコト最肝要ナリトス故ニ成ルヘク其ノ施設ヲ簡易ニシ主トシテ力ヲ有益ナル圖書ノ蒐集ニ用ヒシメンコトヲ要ス若シ夫レ相當ノ資力ヲ有シ完全ナル圖書館ヲ設立セントスルモノニ在リテハ地方實況ニ應シテ成ルヘク此ノ標準ニ準據シテ適當ノ施設ヲ爲サシメ以テ十分ノ效果ヲ收メンコトヲ期セシムヘシ

右訓令ス

第三章　青年團、婦人會

●青年團體ノ實績改善ニ關スル件

（大正九年二月三日三重縣訓令甲第三號）

郡役所
市役所

本縣青年團體ノ實績ハ輓近漸ク見ルヘキモノアルハ邦家ノ爲洵ニ喜フヘキ所ナリ然トモ益々其ノ內容ヲ整理シ實質ヲ改善シテ健全ナル發達ヲ遂シムルニハ今後尙施設スヘキ事項尠シトセス特ニ自主自立以テ大ニ共ノ力ヲ展ヘシムルハ團體ノ本旨ニ顧ミテ頗ル緊要ノ事ニ屬ス隨テ其ノ組織ハ之ヲ自治的ナラシムルニ努メ團體ノ事ヲ統フル者ハ之ヲ團體員ノ中ヨリ推擧セシムルヲ本則トスヘク其ノ官公署學校等トノ關係ニ至リテハ互ニ氣脈ヲ通シ連絡ヲ圖リ相提携シテ之カ發達ヲ助成セムコトヲ要ス今ヤ平和克復シテ大詔煥發セラル國家正ニ重要ノ時期ナリ此時ニ際シテ國民ノ奮勵努力ヲ要スル殊ニ切ナルモノアリ青年團體ハ思ヲ玆ニ致シ益々堅實ノ俗ヲ興シ剛健ノ風ヲ養ヒ其ノ使命ノ重キニ副ハムコトヲ期スヘシ各位能ク此ノ趣旨ヲ體シ地方ノ實情ニ鑑ミテ策勵宜シキヲ制シ以テ其ノ貫徹ヲ期セムコトヲ望ム

●青年團體出願ニ係ル官有地使用ノ件ニ付取扱方

（明治四十三年八月三十日）
（土第五〇六九號通牒）

内務部長ヨリ各郡市長宛

近頃青年團體ヨリ農作物試作場又ハ基本財産造成ノ目的ニテ官有地使用ヲ願出ルモノ漸ク多キヲ加ヘ來リ候處青年團體ハ未タ人格ヲ有セサル爲之カ取扱振リニ付多少疑義ヲ抱ク向有之候處今般代表署名者ニ全責任ヲ負ハシメ取扱フ事ニ相成候條右代表者ニ就而資力及法律上義務遂行ニ差支ナキモノナル哉否等御調査ノ上副申相成度此段及通牒候也

●女子青年團設置要項竝女子青年團體規約準則

（昭和三年四月二十九日）
（三重縣訓令甲第十七號）

男女青年團體ノ振否ハ地方ノ開發國運ノ進展ニ甚大ナル關係ヲ有ス故ニ兩者相與ニ之カ堅實ナル發達ヲ圖ラサルヘカラス然ルニ女子青年團體ハ其ノ組織内容共ニ男子青年團體ニ比シ遜色アルヲ以テ一層其ノ發達ヲ促進スルノ要切ナルモノアリ抑女子青年團體ハ男子青年團體ト齊シク修養ノ機關ニシテ其ノ本旨トスル所ハ聖訓ニ本ツキ女子青年ヲシテ其ノ人格ヲ高メ健全ナル國民タルノ資格ヲ養ヒ女子ノ本分ヲ完

支　廳　市　役　所
町　村　役　場　小　學　校
實業補習學校　女子中等學校

ウセシムルニアリ從テ之カ指導誘掖ニ關スル方途固ヨリ多シト雖特ニ左ノ事項ニ就テハ深ク留意セムコトヲ要ス

一、忠義ノ本義ヲ體シ婦德ノ涵養ニ努ムルコト
一、實生活ニ適切ナル智能ヲ研磨シ勤儉質實ノ風ヲ興スコト
一、體育ヲ重ンシ健康ノ增進ヲ期スルコト
一、情操ヲ陶冶シ趣味ノ向上ヲ圖ルコト
一、公共的精神ヲ養ヒ社會ノ福祉ニ寄與スルコト

翻ツテ縣下女子青年團體ノ實情ヲ顧ルニ逐年進歩ノ跡認ムヘキモノアリト雖其ノ施設經營ノ上ニ尚一段ノ督勵ヲ要スルモノ尠カラス局ニ當ル者宜シク日進ノ大勢ニ鑑ミ更ニ地方ノ實情ヲ精察シ曩ニ發セル縣訓令甲第百三十二號ノ趣旨ヲ體シ別ニ定ムル所ノ設置要項及準則ニ據リ之カ普及竝内容ノ充實改善ニ努力シ女子青年團體ノ目的ヲ達成スルニ遺憾ナカラムコトヲ期スヘシ

女子青年團設置要項

一、團體ノ設置

1　市町村ヲ單位トシテ設置スルコト
但シ土地ノ情況ニ依リ小學校通學區域ヲ單位トシテ支團ヲ設クルコトヲ得
2　工場ニ在リテハ別ニ之ヲ組織スルコトヲ得

3　郡ニ在リテハ更ニ町村女子青年團ノ聯合團體ヲ組織スルコト

二、團體ノ組織

1　團員

團員ハ義務教育終了以上年齢二十五歳以下ノ女子トスルコト（高等小學校實業補習學校及高等女學校ニ在學中ノモノヲモ成ル可ク團員トスルコト）

2　幹部

幹部ハ團員ノ互選トスルヲ本體トシテ已ムヲ得サル場合ハ團員外ノ適當ナル者ヲ以テスルモ可ナルコト

三、團體ノ指導者

指導者トシテハ市町村吏員、中等學校、小學校、實業補習學校等ノ學校職員及名望家、篤志婦人等其ノ任ニ當リ特ニ女教員ノ活動ニ俟ツコト

四、團體ノ施設

施設ハ土地ノ情況團體ノ發達程度等ヲ參酌シ特ニ左ノ事項ニ留意スルコト

1　勅語詔書ノ奉讀式御趣旨ノ敷衍時弊匡救ノ講話御製、御歌ノ謹解等ニ依リ聖訓ノ普及徹底ヲ期スルコト

2　大廟及氏神參拜竝祖先ニ對スル祭祀ヲ厚クスルコト等敬神崇祖ノ觀念ヲ養成スルコト

3　宗教心ノ陶冶ニ資スル施設ヲ爲シ信念ノ養成ニ努ムルコト

4　團體的訓練ニ依リ自治共同ノ精神ヲ涵養スルコト

5　共同作業勞力奉仕等ニ休リ勤勞愛好ノ精神ヲ陶冶スルコト

6　共同貯金ヲ勸奬シ冗費節約ノ氣風ヲ作興スルコト

7　家事裁縫竝實業等ニ關スル講習會講演會等ヲ開設シ日常生活ニ必須ナル知德ノ練磨ヲ圖ルコト

8　實業補習學校ノ就學、出席ヲ督勵スルコト

6　健全ナル讀物ノ選擇及閱讀ヲ指導スルコト

10　高尚ナル娯樂ノ研究ヲ爲シ趣旨ノ向上ニ資スルコト

11　體操競技等ハ簡易ニシテ適切ナルモノニ依リ保健衞生ノ思想ヲ涵養シ以テ體位ノ向上ヲ圖ルコト

12　地方ノ良風美俗ノ維持發達ヲ圖ルト共ニ生活改善ヲ期スルコト

13　團報ヲ發行シテ相互ノ連絡ト智德ノ修養ニ資スルコト

14　視察見學等ヲ爲シ見聞ヲ擴ムルコト

五、團體ノ維持

團體ニ要スル經費ハ成ルヘク團員ノ醵出及勤勞ニ依ル收益ヲ以テ支辨スルコト

六、連絡

1　學校、婦人會、男子青年團、圖書館其ノ他各種教化團體ト密接ナル連絡ヲ保ツコト
2　年齢ノ超過シタル者ト雖引續キ團體トノ連繫ヲ保タシムルコト

女子青年團規約準則

何市(町村)女子青年團規約（昭和　年　月　日制定改正）

第一章　目的及名稱

第一條　本團ハ女子青年ヲシテ智德ヲ涵養シ身體ヲ練磨シ健全ナル國民善良ナル主婦タル　素養ヲ得シムルヲ以テ目的トス

第二條　本團ハ何市(町村)女子青年團ト稱シ事務所ヲ何々ニ置ク（支團ヲ何々ニ置ク）

第二章　組　織

第三條　本團ハ左ノ團員ヲ以テ組織ス

正團員　本市(町村)內ニ居住シ義務教育修了ヨリ二十五歳迄ノ女子

賛助團員　本團ヲ賛助スル者

第四條　本團ニ左ノ役員ヲ置ク

團　長　一　名
副團長　一　名
幹　事　若干名
評議員　若干名
顧　問　若干名

第五條　役員ノ職掌左ノ如シ

團長ハ團務ヲ統理シ會議ノ議長トナル
副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス
幹事ハ團長ノ指揮ヲ受ケ團務ヲ處理ス
評議員ハ重要ノ團務ヲ評定審議ス
顧問ハ團長ノ相談ニ應シ意見ヲ陳ヘ且團員補導ノ任ニ當ル

第六條　役員ノ選定方法左ノ如シ

團長副團長及評議員ハ團員之ヲ互選シ任期ハ各二箇年トス但シ再選ヲ妨ケス
幹事ハ團長之ヲ囑託ス
顧問ハ評議員會ノ推薦ニ依リ團長之ヲ囑託ス

第三章　團員ノ責務

第七條　團員ハ相提携シテ諸般ノ修養ニ努メ本團施設事業ノ實績向上ヲ期スヘシ

第八條　團員ハ實業補習學校ニ就學スル義務アルモノトス

第九條　團員ハ團費トシテ毎年金（　）ヲ醵出スヘシ

第四章　會　議

第十條　會議ハ總會及評議員會ノ二トス

會議ハ必要ニ應シテ團長之ヲ招集ス

第十一條　總會ニ附議スヘキ事項左ノ如シ

役員ノ選擧

團務及事業ノ報告

豫算ノ議決及決算ノ認定

團規約ノ改廢

其ノ他重要ナル事項

第十二條　評議員會ニ附議スヘキ事項左ノ如シ

豫算案及決算案

施設事業ノ選定及計畫

顧問ノ推薦

基本財産ニ關スル事項

其ノ他團長ニ於テ必要ト認ムル事項

第五章　事　業

第十三條　本團ニ於テ施設スヘキ事業概要左ノ如シ

一、何　々

二、何　々

第六章　會計及簿冊

第十四條　本團ノ經費ハ團員ノ醵出、共同作業ニ依ル收得金、基本財産ヨリ生スル收入市(町村)ノ補助金及有志者ノ寄附金等ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　本團ハ適切ナル方法ヲ以テ基本財産ヲ蓄積ス

基本財産ハ之ヲ特別會計トナス

基本財産ハ評議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條　本團ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條　本團ニハ左ノ簿冊ヲ備フ

1　團規約

2　沿革誌

3　役員及團員名簿

4　基本財産臺帳

5　備品臺帳

6　圖書臺帳
7　會計簿
8　會議錄
9　施設成績錄
10　出席簿
11　往復文書綴
12　其ノ他必要ナル簿冊

第七章　雜　則

第十八條　本團ノ爲ニ特別功勞アリタル者ニハ感謝狀ヲ贈ルコトアルヘク優良支團ニ對シテハ表彰ヲ通スコトアルヘシ

第十九條　團員ノ體面ヲ汚辱スル行爲ヲ爲シタル者ハ評議員會ノ議決ニ依リ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第二十條　本規約ノ實施ニ關シ必要ナル細則ハ團長之ヲ定ム

●女子青年團體ニ關スル件

（大正十五年十一月十九日　教第七九七二號通牒）

今般女子青年團體ニ關シ內務文部兩大臣竝本縣知事ヨリ訓令ヲ發セラレ候處右ハ女子青年團體ノ本旨ヲ明ニスルト共ニ其ノ普及ヲ促進シ既設ノ團體ニ對シテハ益々健全ナル發達ヲ遂クシムル趣旨ニ有之其ノ指導誘掖ニ就テハ地方ノ實情ニ考ヘ特ニ左記事項ニ御留意ノ上該訓令ノ趣旨ヲ徹底スル樣適切ナル施設ヲ講セラレ度依命此段及通牒候也

學務部長ヨリ各市町村長宛

記

一、團體ノ設置

女子青年團體ハ土地ノ情況ヲ參酌シ市町村、小學校通學區域等ヲ單位トシテ之ヲ設置シ必要ニ應シ支部ヲ設ケ又ハ聯合會ヲ組織スルコト

工場、商店等ニ對シテモ女子青年團體ノ設置ヲ奬勵スルコト

一、團體員ノ年齡

女子青年團體ハ概ネ義務教育終了ヨリ結婚ニ至ル迄又ハ年齡二十五歲ニ至ル迄ノ青年女子ヲ以テ組織スルヲ常例トスルコト

一、團體ノ指導者

女子青年團體ノ指導ニハ學校長、市町村長其ノ他學識德望アル者ノ中ニ就キ適當ト認メタル者ヲシテ之ニ當ラシメ殊ニ學校職員、篤志ノ婦人等ヲシテ協力セシムルコト

一、團體ノ施設

女子青年團體ノ施設ハ土地ノ情況、團體員ノ年齢、境遇等ヲ參酌シ特ニ左ノ諸點ニ留意スルコト

(一)　家事職業ニ關スル智德ヲ涵養スルト共ニ公共生活ニ必須ナル素養ヲ與ヘ特ニ實業補習學校ノ就學ヲ奬勵シ其ノ徹底ヲ期スルコト

(二)　學校、圖書館其ノ他ノ教育施設及婦人會等ノ團體ト連繫ヲ密接ニスルコト

(三)　適切ナル講演會、講習會、娯樂會等ヲ開催スルト共ニ健全ナル讀物ノ選擇ニ關シ適當ナル指導ヲ與フルコト

(四)　體操競技等ハ特ニ女子ニ適切ナルモノヲ選定スルト共ニ保健衞生思想ノ涵養ニ努ムルコト

(五)　地方ノ眞風美俗ノ維持發達ヲ圖ルト共ニ生活ノ改善ヲ期スルコト

一、團體ノ維持

女子青年團體ニ要スル經費ハ成ルヘク會費、團體員ノ勤勞ニ依ル收入等ヲ以テ之ヲ支辨スルコト

一、退會者トノ連絡

結婚等ニ依リ退會シタル者ト雖引續キ團體トノ連繫ヲ持續セシムルト共ニ其ノ援助ニ力ヲ竭サシムルコト

●女子青年團體ノ振興ニ關スル件

（昭和三年四月二十九日　教第一九六五號通牒）

學務部長ヨリ支廳長各市町村長各市町村小學校長實業補習學校長各女子中等學校長宛

今般女子青年團體振興ニ關シ本縣知事ヨリ訓令ヲ發セラレ候處右ハ時代ノ要求ニ鑑ミ縣下女子青年團體ノ現況ニ照シ新團體ノ振興ヲ圖ラムトスル趣旨ニ有之候ニ就テハ土地ノ實情ニ應シ該訓令ノ本旨ヲ徹底セシムル樣適切ナル指導ヲ講セラレ度依命此段及通牒候也

追テ該訓令ニ基ツキ新ニ女子青年團體ノ設置又ハ既設團體ノ内容充實ヲ期スル爲規約改正等ノ場合ハ規約ヲ添ヘ左記要項ニ依リ速ニ報告セシムル樣御取計相成度

記

一、事務所所在地
二、役員職氏名
三、團體種別竝其ノ數
四、豫　算
五、資產狀況

第四章　雜

●社會事業施設規程

（大正十五年七月十九日
三重縣令第百三十七號）

第一條　本令ニ於テ社會事業ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス私人ニ於テ孤子、棄兒、幼兒其ノ他ノ兒童保護、防貧、救貧施設、社會教化及勞働者ノ福祉增進其ノ他各種救濟事業及之等ノ諸調査研究若ハ聯絡統一ヲ圖ルヲ以テ目的トスルモノヲ謂フ

第二條　社會事業ヲ經營セムトスルモノハ法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一、目　的
二、名　稱
三、主タル事務所及事業施行ノ場所
四、規約、定款、其ノ他ノ諸規則
五、事業計畫竝經營方法
六、管理及維持ノ方法
七、開始豫定ノ年月日

八、建築其ノ他ノ工事ヲ要スルモノニ在リテハ用地及建物ノ圖面竝其ノ著手及竣工豫定期日
九、存立期間又ハ閉鎖ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由
一〇、數人共同シテ經營スルモノニ在リテハ代表者ノ氏名及其ノ共同員ノ資格ノ得喪ニ關スル事項
一一、經營者ノ履歷
一二、被救濟者ニ付定員ノ定メアルトキハ其ノ定員

第三條　前條第二號、第六號、第七號、第八號及第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ事業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ都度知事ニ屆出ツヘシ

第四條　第二號第一號、第三號乃至第五號、第九號及第十號ノ事項若ハ經營者ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項及理由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　保姆、教師、事務員及之ニ準スヘキ者ヲ任用シタルトキハ經營者ヨリ履歷ノ概要ヲ具シ其ノ都度屆出ツヘシ

前項ノ職員辭職シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ報告スヘシ

第六條　死亡其ノ他ノ事由ニ因リ經營者缺ケタル場合ニ於テハ其ノ事故ノ發生後十日以內ニ其ノ相續人ヨリ事業ノ承繼者ヲ定メ其ノ履歷書ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　事業經營者ハ左ノ簿冊ヲ備付クヘシ

一、定款又ハ規約及諸規則
一、金錢出納簿
一、財產臺帳
一、備品臺帳及消耗品出納簿
一、團體關係者名簿
一、會議書類及會議錄

第八條　被救濟者アルトキハ其ノ名簿ヲ備ヘテ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、氏名
二、生年月日
三、男女ノ別
四、本籍地
五、戶主及戶主トノ續柄
六、收容ノ年月日及理由其ノ他本人ノ身上ニ關スル事項
七、未成年者ニ在リテハ教育程度、發育狀態及親權者若ハ後見人ニ關スル事項
八、退所、逃亡、死亡等ノ年月日及其ノ事由
九、前各號ノ外必要ト認ムル事項

前項ノ名簿ハ被救濟者一人毎ニ別紙トスヘシ

第九條　被救濟者ヲシテ作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ一人毎ニ勞務ノ種類、勞務時間及收得金ヲ明細ニ登錄スヘシ

第十條　事業費豫算ハ年度開始前之ヲ定メ決定後十日以內ニ決算ハ年度終了後一月以內ニ知事ニ報告スヘシ豫算ヲ追加更正シタルトキ亦同シ

決算ヲ報告スルトキハ併テ左ノ事項ヲ報告スヘシ

一、前年中ノ事業成績

二、前年中ノ處務ノ要件

三、前年度末現在財產目錄

四、名稱ノ如何ニ拘ハラス繼續シテ金員ヲ釀出スル者ノ年度末現在數

第十一條　知事ハ隨時官吏吏員ヲ派遣シテ事業及會計ヲ檢査セシメ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第十二條　事業經營者左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ事業ノ改善若ハ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一、目的以外ノ行爲其ノ他不適當ナル經營ヲ爲シタルトキ

二、本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキ

三、公益其ノ他社會事業ノ發達ヲ阻害スル行爲アリト認メタルトキ

第十三條　本令ニ依リ認可ヲ與ヘタル事業ハ其ノ目的、名稱、位置、經營者其ノ他必要ナル事項及前條ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス其ノ告示事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十四條　農繁期託兒所其ノ他一時的ノ社會事業ヲ經營セムトスルモノハ其ノ都度第二條ノ事項ヲ屆出ツヘシ

第十五條　本令ニ依リ提出スル書類ハ所轄市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ

第十六條　公共團體ニ於テ經營スル社會事業及自己ノ業務ニ從事セシムル者ノ爲ニ經營スル社會事業ニ付テハ本令ノ規定ニ準シ屆出ツヘシ

附　則

第十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　大正七年九月三重縣令第四十號感化救濟事業取締規程ハ之ヲ廢止ス

第十九條　本令施行ノ際現ニ社會事業ヲ經營セルモノニシテ第十六條ノ規定ニ該當スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第二條ニ揭ケタル事項ヲ具シ知事ニ屆出ツヘシ

●各種社會事業施設手續ニ關スル件

（昭和二年一月二十九日）
（社會第一一三號通牒）

學務部長ヨリ支廳長市町村長宛

貴部内ニ於テ社會事業トシテ左記ノ施設經營スルモノアルトキハ大正十五年七月三重縣令第百三十七號社會事業施設規程ニ依リ相當手續（私設ニアリテハ知事ノ認可公設ニ又ハ自己ノ業務ニ從事セシムル者ノ爲ニスルハ届出）ヲ要スヘキモノニ付速ニ手續履行可致樣御示達相成度此段及通牒候也

追テ私設ノ事業ニ對シテハ認可後成績ノ如何ニヨリ相當補助金交付可相成見込ニ候條御含置相成度申添候

記

日曜學校
海濱學校
林間學校
人事相談所
娼妓婦保護（市町村營産婆娼妓婦保養所等）
授産事業
公設市場
公設浴場
農繁託兒所
兒童健康相談
其ノ他兒童保護ニ關スル施設
其ノ他防貧、救貧、社會敎化、各種救濟事業等

●農繁期託兒所設立奬勵ニ關スル件

（大正十五年九月十七日）
（社會第一〇六四號通牒）

學務部長ヨリ支廳長各市町村長宛

農繁期託兒所ハ本年播種期ニ於テ實施シタル一志郡、安濃郡、阿山郡等數箇所ニ於ケル成績ニ徵シ有效適切ナル施設タルヲ認メラレ候處今ヤ秋收ノ期差迫リ之カ施設ノ必要ヲ痛感スル次第ニ付此際貴部内各寺院住職其ノ他社會事業關係者等ト御協議ノ上精々施設候樣御配意相成度尚右施設ニ關シテハ成績ニ依リ補助金交付可相成候條右事業開始ノ場合ハ開始前大要左記事項ヲ具シ御報告相成度此段及通牒候也

追テ農繁期託兒所「パンフレツト」餘部有之候ニ付必要ノ向有之候ハヽ御申出相成度申添候

記

一、名　稱
一、設置場所
一、經營者氏名
一、事業開始年月日
一、同　期間
一、收支豫算書
一、收容兒童豫定數

●少年職業紹介ニ關スル件

（大正十五年十一月六日　社會第一二二一號依命通牒）

學務部長ヨリ支廳長各市町村長各小學校長宛

少年職業紹介ニ關シテハ特ニ意ヲ用ヒ其ノ少年ノ性質及能力ニ最モ適應スヘキ職業ニ就カシムルコトハ極メテ緊要ノコトニ屬シ將來失業ノ機會ヲ尠カラシムル上ニ於テモ其ノ效果鮮少ニアラスト認メ曩ニ通牒セル如ク津市、四日市市、宇治山田市、桑名郡桑名町、飯南郡松阪町及阿山郡上野町ノ各職業紹介所ニ於テハ主トシテ其ノ市又ハ町内ノ小學校ヲ卒業シ又ハ中途退學シテ直ニ就職セムトスル少年ニ對シ其ノ性能ニ付最モ精通セル小學校當局ト相互聯絡提携シテ適當ナル職業ヲ選擇指導セル實狀ニ有之候就テハ此ノ際聯絡小學校ヲ擴張シテ少年職業紹介ノ圓滿ナル發達ヲ期シ度各職業紹介所長ノ希望モ有之候條特ニ御留意ノ上書面ノ照復其ノ他ニ關シ前記各職業紹介所ト密接ナル聯絡ヲ保チ相提携シテ萬遺漏ナキ御取扱相成樣致度依命此段及通牒候也

●地方改善事業費補助ニ關スル件

（大正十五年十月八日　社會第八二七號通牒）

學務部長ヨリ支廳長各市町村長宛

標記ノ件ニ關シテハ爾今左記ノ通御取扱相成度依命此段及通牒候也

記

一、地方改善事業ニシテ補助申請ヲ爲シ得ヘキ事業（自イ至ホ）竝補助申請ヲナスモ除外セラルヘキ事項（自ヘ至ト）

（イ）住宅ノ改良又ハ居住地域ノ擴張整理及道路ノ改良等地域ノ整理ヲ目的トスル事業

（ロ）託兒所、慰安娯樂機關ノ設置、就學ノ奬勵、人材ノ養成、貯金組合ノ設置其ノ他風紀ノ改善、生活狀態ノ改善及敎化ノ普及ヲ目的トスル各種ノ事業

（ハ）實業敎育ノ奬勵、產業組合、公設質屋及授產場ノ設置等產業狀態ノ改善ヲ目的トスル事業

（ニ）飮料水、下水設備ノ改良、共同浴場、診療所ノ設置等衞生的施設ノ完備ヲ目的トスル事業

（ホ）出稼及移住ノ奬勵ヲ目的トスル事業

（ヘ）市町村費ヲ以テ當然支辨スヘキ他ノ一般事業ハ地方改善事業トシテ補助セス

（ト）輕微ナル事業又ハ單ニ個人事業ニシテ其ノ及ホス效果僅少ナルモノニ對シテハ補助セサルコトアルヘシ

（チ）道路法、トラホーム豫防法其ノ他法令上國費若ハ地方費ニ依リテ補助ヲ受ケ得ラルヘキ事業竝國、公共團體其ノ他ノ團體ヨリ相當補助ヲ受クヘキ事業ハ夫々當該補助ニ俟ツヘキモノニ付地方改善費ノ補助ヲ爲ササル方針ナリ但シ地方ノ實情ニ依リ其ノ事業カ特ニ緊切ナルニ拘ラス經營主體ノ財政上右ノ補助ノミニテハ到底其ノ事業ヲ遂行シ能ハサルモノニシテ地方改善費ノ補助ヲモ財源トシテ計劃シタル場合ハ其ノ理由竝他ノ補助金額其ノ他參考トナルヘキ事項等ヲ詳細說明書ニ記述シ申請スルトキハ補助ヲ受クラルルコトアルヘシ

二、地方改善事業補助申請ニ當リ添付スヘキ書類

（イ）社會事業補助規程ニ定メラレタル書類竝事業ノ屬スル地區名、經營主體、事業ノ種別、總經費、財源ノ內譯ヲ記述シ併セテ計畫ノ說明書ヲ左記凡例ニ依リ作成添付ノコト尙其ノ事業カ市町村ノ經營ニ係ルトキハ豫算、追加ニ係ルモノハ追加豫算共竝決議錄ヲ添付ノコト

何郡市(町)村何々地區改善事業計劃說明(例)

住宅改良　本地區戸數何戸概ネ茅葺草屋根ニシテ腐朽ニ類セルモノ何戸衞生又ハ何々ノ爲之カ改善ヲ圖リ漸次改築ヲ爲サムト企テ住宅改善ノ團體ヲ作リ何々ノ方法ニ依リ其ノ財源ヲ造成シ其ノ內何戸ノ改築ヲナサムトス其ノ經費何圓ヲ要スルモ資源不足ヲ告クルニ依リ補助金何程ノ交付ヲ受ケムトス

若シ交付補助金カ申請額ニ達セサリシ時ハ寄附金ニ依リ其ノ他何々ニ依リ財源ヲ求メ實行ス

(ロ)　共同浴場、理髮所、託兒所、授產場等ノ建設又ハ產業的施設其ノ他收入ヲ伴フ事業ヲ計劃シタル場合ハ事業完成後ニ於ケル經營方法ノ詳細一箇年間收支見積竝純益若ハ經費不足ニ對スル措置機械器具等ノ貸付ニ關シテハ其ノ貸付條件等ヲ詳記シタル調書ヲ添付ノコト

(ハ)　社會事業補助規程第二條ニ依リ添付スヘキ書類中工事ヲ要スルモノノ圖面ニ關シテハ共同浴場公會堂等ノ建物工事ニアリテハ平面圖、道路、飮料水、下水工事等ニアリテハ該地區ニ對スル之カ布置圖ヲ添付ノコト

(ニ)　裁縫講習竝學獎勵工事ヲ要セサルモノニ付テハ之カ計畫ノ內容及經費ノ內譯等特ニ詳細記述シタル書面ヲ添付ノコト

(ホ)　各施設ハ地方改善上緊要事業タル理由ノ詳細ナル說明書ヲ添付ノコト

(ヘ)　申合規約規則アルモノハ各二部添付ノコト

(ト)　申請事業計畫二個以上ニ渉ルトキハ其ノ事業施設ノ順位ヲ記シタル書類ヲ添付ノコト

(チ)　經營主體カ市町村以外ナルトキハ其ノ經營者ノ氏名及其ノ經歷書ヲ添付ノコト

三、其ノ他

(イ)　公會堂等ヲ建設スルニ當リテハ單ニ一地方ノ者ノ專有ト爲シ他地方ノ者トノ共同利用ヲ好マサルカ如キハ却テ融和ヲ妨クル虞アルニ付十分ナル考慮ヲ爲スコト

(ロ)　補助申請ヲ爲ス地方改善事業ハ個人又ハ關係部落ノ經營タラシメス可成市町村ニ於テ經營スル樣考慮スルコト

(ハ)　地方改善事業ノ經營主體カ市町村以外ノ團體又ハ個人ナルトキ縣補助金ヲ受ケ若ハ之ヲ受ケサルモノト雖事業ノ性質ヲ鑑ミ相當助成シ得ラルル樣考慮スルコト

(ニ)　市町村(地區營等ヲモ含ム)ニ於テ地方改善ニ關スル施設計畫ヲ爲シタルトキハ豫メ左記樣式ニ依リ前年度ノ六月三十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

事業名	事業所在地	總經費	內譯						備考
			市町村費	字費	補助	寄附	其他	計	

備考欄ニ經營主體ト計畫ノ大要ヲ記載スルコト

(ホ)　地方改善事業ノ經營主體カ市町村以外ノモノナルトキハ其ノ願書又ハ屆書ニ市町村長ハ社會事業補助規程第七條ニ依ル書類ヲ添ヘ進達スルコト

●社會事業ニ對スル諸規程報告ノ件

（大正十五年十月八日
社會第一一四〇號通牒）

學務部長ヨリ各市町村長宛

必要ノ儀有之候ニ付標記ノ件左記事項參照ノ上各二部宛御報告相成度尚今後新ニ制定又ハ改廢ノ場合ハ其ノ都度同樣報告相成度此段及通牒候也

記

一、貴市町村制定ニ係ル貴部內社會事業ニ對スル補助奬勵助成ニ關スル規程「內規共」

一、貴市町村經營ニ係ル各種社會事業ニ關スル諸規程「內規共」

一、貴部內ニ於ケル各種私設社會事業團體設立認可後制定ニ係ル諸規程「內規共」

（大正十五年七月二十一日社會第八三二號（私設社會事業團體ヘ直接照會）ニ對シ回答濟ノモノハ省ク）

●愛國貯金ニ關スル件

（昭和二年七月十三日
社會第六七三號通牒）

各公私立中等學校長
各小學校長
各實業補習學校長
各青年訓練所主事
學務部長ヨリ

內務省社會局內勤儉奬勵中央委員會ノ一部タル勤儉奬勵婦人團體常任委員會ニ於テハ現時ノ我國財政狀態竝社會ノ風潮ニ鑑ミ今ヤ將ニ十五億ニ垂ントスル外債ノ償還ニ資セムカ爲ニ愛國貯金會ヲ組織シ各府縣ニ支會ヲ、各市町村ニ分會ヲ設ケ大ニ郵便振替貯金ヲ勸奬シ國民擧ツテ奉公ノ實ヲ擧クル樣全國ニ贊成者ヲ募リ居ラレ候ニ付本縣ニ於テモ其ノ趣旨ヲ贊シ支會設立ノ計畫ヲ以テ過般來屢々市町村長宛通牒ヲ發シ市町村ニ於テモ夫々之カ勸奬ニ努メラレツツアル狀況ニ有之候處該施設ノ趣旨ハ教育上ニ於テモ喫緊ノコトト存候ニ就テハ此ノ機會ヲ以テ或ハ通俗講演會其ノ他ノ方法ニヨリ戶主會、主婦會、青年團、處女會其ノ他一般民衆ノ教化ニ努メ或ハ兒童生徒訓練生ヲ通シ日常ノ教授訓練ニ於テ教化ヲ校ノ內外ニ及ホス等大ニ之カ徹底ヲ期セラルル樣特ニ御留意相成度追テ中等學校及小學校ニ對シテハ右ニ關スル守屋社會部長ノ撰述ニ係ル「愛國貯金ト婦人ノ覺醒」ト題スルパンフレツト一部竝リーフレツト四枚別送致候條御精讀ヲ得度此段申添候也

●同上ノ件

（昭和二年七月二十日
社會第八六七號通牒）

學務部長ヨリ
支廳長
各市町村長宛

標記ノ件ニ關シテハ從來屢々及通牒置候次第モ有之既ニ夫々分會設立ニ關シ實況御報告ノ向モ多數有之其ノ他ノ市町村ニ於テモ十分御配意相成居候事ト存候得共今回計畫ノ愛國貯金ハ從來行ハレツツアル規約貯金、義務貯金、據置貯金等トハ多少其ノ趣ヲ異ニシ去ル五月二十五日附及御通牒置候通國家ノ痛患タル國債償却ノ大業ヲ主トシテ全國三千萬ノ婦人ノ手ニ賴ツテ成就セムトスル目的ニ有之一面勤儉思想ヲ強調スルト共ニ婦人ニ對シ國家奉公ノ精神ヲ涵養スル上ニ絕好ノ計畫ト存候ニ付特ニ縣下各學校長ニ對シテモ本月十三日附ヲ以テ及通牒置候次第モ有之各市町村ニ於テモ何レモ熱心ニ之カ實行ニ著手セラレ居候事ニモ有之候ニ付此際種々御事情モ可有之義ト存候得共貴部內學校長トモ御協力ノ上特ニ婦人ニ對シ極力御勸奬ノ上一人ニテモ多數ノ加盟者ヲ得度男子ニ對シテハ此ノ際婦人ノ眞摯ナル努力

ヲ幇助スル意味ニ於テ日常消費經濟ノ上ニ合理的節約ヲ加ヘ相協戮シテ良好ナル成績ヲ收メ候樣御盡力相煩度此段重ネテ及御依頼候也

●徵兵及壯丁教育程度調査竝徵募事務取扱規程（抜萃）

（昭和四年一月十六日三重縣訓令甲第二號）

沿革　昭和四年一一月訓令甲第四三號改正

徵兵及壯丁教育程度調査竝徵募事務取扱規程別冊ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別冊）

目次

第一章　總則
第二章　壯丁人員表竝名簿ノ調製
壯丁人員表
壯丁連名簿
兵籍編入者連名簿
第三章　教育程度調査
教育程度種別表
尋常小學校ヲ卒業セサル者ノ原因別該當者數調
教育程度調査表（其ノ一）
同　（其ノ二）
第六章　短期現役兵關係
短期現役兵受檢者連名簿
短期現役兵名簿
附錄
徵兵署提出書類一覽表
進達期限表
徵兵及壯丁教育程度調査竝徵募事務取扱規程

第一章　總　則

第一條　本規程ニ於テ法トハ兵役法ヲ令トハ兵役法施行令ヲ規則トハ兵役法施行規則ヲ及志願兵令トハ海軍志願兵令ヲ志願兵規則トハ海軍志願兵令施行規則ヲ規程トハ本規程ヲ謂フ

第二條　本規程中兵事官トハ令第四十九條竝志願兵令第三十二條ニ規定スル兵事官ヲ謂フ

第三條　町村長ハ兵事官又ハ支廳長ノ命スル所ニ從ヒ所屬吏員ヲシテ徵兵事務海軍志願兵事務ノ一部ヲ補助セシムヘシ

第四條　規則第百十二條第二項ニ依ル徵兵檢查通達書裏面ニ記載スヘキ事項ハ附表第一ニ據ル

第五條　郡徵募區（南牟婁郡ヲ除ク）徵兵署海軍志願兵檢查所竝規則第百八條第二項ノ附屬設備及教育成績調查ニ要スル設備ハ開設地ヲ管轄スル町村長之ヲ擔任スヘシ但シ短期現役兵徵募檢查竝抽籤徵兵署ノ設備ハ此ノ限ニアラス

徵兵署ノ設備ヲ擔任スル町村長ハ徵兵署及海軍志願兵檢查所所要ノ備品ヲ其ノ管理スル者ニ付キ之ヲ要求スヘシ

前項備品ハ附表第三ニ揭クル者之ヲ管理ス

第六條　令第七十七條第四項ニ依リ町村長ハ當該抽籤當日抽籤徵兵署ニ列席スヘシ

第二章　壯丁人員表竝名簿ノ調製

第七條　規則第七十八條ニ依ル壯丁人員表ハ左ノ樣式ニ依ル

何年壯丁人員表（一月一日現在調）

徵兵適齡人員

第七十七條第一號ノ人員（本年適齡）　第七十七條第二號ノ人員（本年適齡人員中事故見込人員）

本籍	入寄留見込者	計	法第三十七條第四項該當	兵籍編入者	事故不參	故所在不明	刑中	疾病不參	在學延期	在學延期	在監歸郷	出寄留見込	計	法第五十三條該當者	計

前年徵兵終決處分ヲ爲スコトヲ得サリシ人員

條項	事由	無故不參	事故不參	所在不明	刑中	疾病不參	家事故障	在學延期	在監延期	卽日歸郷	戊種	法第五十三條該當者	計
第七十七條第三號ノ人員（前年處分未濟者）													
第七十七條第四號ノ人員（前號ノ人員中本年受檢見込）													

一、本表中寄留見込トハ寄留地ニ於テ受檢スヘキ見込ノ者ヲ揭クルモノトス

用紙適宜　　何市（町村）

備考　二、第二號ノ人員中兵籍編入者中ニハ陸海軍學生、生徒、陸海軍現役中、現役終了者竝兵役免除ノ處分ヲ受ケタル者ヲ含ム

第八條　町村長ハ壯丁人員表提出後壯丁名簿提出迄ノ期間ニ於テ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度兵事官又ハ支廳長ニ報告スヘシ

第九條　壯丁名簿及壯丁名簿附表ハ規則第八十四條附錄第二樣式其ノ一及其ノ二ニ依ル外左ノ通取扱フヘシ

一、壯丁名簿右方上部欄外ニ左ノ樣式ニ依ル學力調査ノ成績記載ノ欄ヲ設クヘシ

國語	算術	現在學力

二、壯丁名簿、壯丁名簿附表右方下部欄外ニ一連番號ヲ附シ壯丁連名簿トノ照合ニ便ナラシムヘシ

三、青年訓練所入所者ノ壯丁名簿及壯丁名簿附表ニハ一連番號上部ニ(青)ノ記號ヲ朱記スヘシ

四、兵籍編入者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ノ壯丁名簿ニハ備考欄ニ其ノ旨朱記スヘシ

五、規則第十三條ニ依ル同一氏名ノ者竝異字同音ノ者ノ壯丁名簿ニハ其ノ氏名欄上部ニ其ノ旨ノ記載シタル白色附箋ヲ貼付スヘシ

六、疾病其他身體又ハ精神ノ異常ニ依リ徵兵署ヘ出頭ノ際附添人ヲ要スヘキ者又ハ之ニ準スヘキ程度ノ者ニシテ受檢順序ニ拘ラス檢査ヲ必要ト認ムヘキ者ノ壯丁名簿ニハ左方上部欄外ニ其ノ旨記載シタル白色附箋ヲ貼付スヘシ

七、前二號ノ附箋ハ規則第八十八條ノ規定ニ依ル寸法トス

第十條　規則第八十四條ニ依ル壯丁名簿假綴ノ順序ニ依ル

第十一條　壯丁連名簿ハ規則第八十五條ノ樣式ニ依ル外左ノ通取扱フヘシ但シ市長ノ調製スヘキ連名簿ハ本樣式ヲ適宜增減スルコトヲ得

何年壯丁連名簿

何　市（町　村）

用紙美濃紙

一連番號	戶主トノ續柄	氏名	生年月日	身上概要	學力	學歷	職業	體格等位	兵種	徵兵檢査	豫備檢診	摘要
								假定	身體	長	花柳病	
									重量	トラホーム		
									身體	長	花柳病	
									重量	トラホーム		
一〇粍	一〇粍	一四粍	一四粍	一四粍	一四粍	一四粍	三八粍	一一粍	一二粍	一二粍	一五粍	三五粍 八粍

本連名簿調製ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一、本連名簿記載ノ順序ハ身長低キ者ヨリ高キ者ニ順次列記スヘシ但シ法第三十七條第三十九條該當

者竝所在不明其ノ他ノ事由ニ依リ徵兵檢査ヲ受ケ難シト推定スル者ハ身長ノ順序ニ拘ラズ末尾ニ記載スヘシ

二、入寄留受檢者ノ記載ニ付テハ本籍者ノ次ニ空行ヲ存シ之ヲ記載スヘシ

三、卽日歸鄕者戊種及民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル所在不明者ハ規則第八十五條第二項第四號ノ例ニ準シ取扱フヘシ

四、摘要欄ニ記入スヘキ事項左ノ如シ

（イ）法第四條第三十七條第三十九條ニ該當スル者及法第四十一條第四十二條第四十四條ニ依リ徵集延期ノ願書ヲ受理シタル者又ハ在留申告ノ通牒ヲ受理シタル者ニ付テハ當該條項ヲ卽日歸鄕者戊種所在不明者（七年以上所在不明者ヲ含ム）ニ付テハ其ノ旨記載スヘシ

（ロ）兵籍編入者、同氏名、異字同音ノ者ニ付テハ各其ノ旨朱記スヘシ

（ハ）出入寄留者ニ在リテハ寄留地受檢ノ許可又ハ通知ヲ受ケタル者ニ限リ寄留地又ハ本籍地ヲ記載スヘシ

（ニ）前年徵集延期又ハ處分未濟者ニシテ本年受檢ノ者ニ付テハ其ノ事故止年月日ヲ朱記スヘシ

五、身上ノ概要欄ニハ壯丁名簿備考欄記載事項（兵籍編入ニ關スル事項ヲ除ク）ノ外家族ノ續柄別員數等記載スヘシ

六、青年訓練所入所者ハ名簿下方欄外ニ（青）ノ記號ヲ附スヘシ

第十二條　前條ノ壯丁連名簿ハ町村長ニ在リテハ二通提出スヘシ

第十三條　市町村長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付兵籍編入者連名簿ヲ調製シ規則第八十七條ノ例ニ準シ取扱フヘシ

一、陸海軍ノ兵籍ニ編入セラレタル學生生徒

二、志願ニ依リ陸海軍現役服役中ノ者又ハ現役ヲ終了シタル者

三、兵役ヲ免除セラレタル者

四、兵籍ヲ除カレタル者ニシテ令第五條第二項ノ期間ヲ經過シタル者

兵籍編入者連名簿ノ樣式左ノ如シ

何年兵籍編入者連名簿

規程第十三條第一號該當者

何　市（町　村）

規程第十三條第二號該當者

氏　名

氏　名

市町村長ハ本連名簿適宜ノ所ニ署名捺印スヘシ

第十四條　規則第八十三條ノ徵兵檢査不要者連名簿竝前條ノ兵籍編入者連名簿ニハ各該當者每ニ年月日

事由ヲ詳記スヘシ

第三章　教育程度調査

第十五條　小學校長ハ每年當該市町村徵兵檢宜開始二十日前迄ニ壯丁教育程度ヲ左ノ樣式ニ依リ調製シ支廳長、市長管內ニ在リテハ支廳長又ハ市長ニ其ノ他ニ在リテハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

一町村內ニ二校以上アル場合ニハ各學校長協議ノ上一表トナシ報告スヘシ

教育程度調

第一表　教育程度種別表

何市(町村)何小學校

教育程度種別	尋常小學校ヲ卒業セサル者ノ數	尋常小學校卒業者ノ數	高等小學校卒業者ノ數	實業補習學校後期卒業者數	合計	參考該當者ノ數
總人員						
內譯 青年訓練所優良出席數						
內譯 其他						
備考						

受檢者中現ニ青年訓練ヲ受クル者ノ數			受驗壯丁ニ對シ現ニ青年訓練ヲ受ケ受檢壯丁中現ニ青年訓練ヲ受クル者ノ百分比(小數第二位以下四捨五入)(算出同上)
在住者	出寄留者	計	

本表調製ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一、尋常小學校ヲ卒業セサル者ノ欄ニハ不就學者、半途退學者ノ數ヲ記入スヘシ

二、尋常小學校卒業者ノ數欄ニハ尋常小學校卒業後學校教育ヲ受ケ二年以內ニテ半途退學セシ者ヲモ含ム

三、高等小學校卒業者數欄ニハ尋常小學校卒業後學校教育ヲ受ケ四年以內ニ半途退學セシ者及高等小學校卒業後二年以內ニテ半途退學セシ者ヲモ含ム

四、實業補習學校後期卒業者數欄ニハ修業年限三年ノ實業補習學校後期ニ在リテハ第二學年修了者以上ヲ含ム

五、參考該當者トハ學力調査ヲ要セサル者ニシテ左ニ該當スル者ノ數ヲ揭記スヘシ

(イ)　中等學校卒業以上ノ者

(ロ)　尋常小學程度ヲ入學資格トスル學校ニ入學シ第四學年ヲ修了セル者

(ハ)　高等小學校ノ卒業程度ヲ入學資格トスル學校ニ入學シ第二學年ヲ修了セル者

第二表　尋常小學校ヲ卒業セサル者ノ原因別該當者數調

原因別 ＼ 該當者數	全然就學セサル者	半途退學者	合計
癲癇、白痴、不具癈疾、病弱、發育不完全			
貧困			
其ノ他			
合計			

第三表　教育程度調査表　其ノ一

壯丁學力成績 第一問題 第二問題	教育程度 青年訓練所	實業補習學校	小學校 卒業又ハ修了ノ成績	在住者又ハ出寄留者別	職業	氏名

本表調製ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一、壯丁學力成績欄ハ空欄トスヘシ

二、教育程度欄ハ左ノ標準ニ依リ記入スヘシ

(イ)　青年訓練所欄ニハ前年度末日迄ニ受ケタル訓練ノ合計時數ノ下ニ教練ト其ノ他ノ項目修、公、何時、普、職、何時ト分チ其ノ內譯時數ヲ記載シ且ツ其ノ出席優良ナル者ニ就テハ合計時數ノ上ニ「優良」ト朱記スヘシ

(ロ)　實業補習學校欄ニハ前期修了後期修了ニ別チ記載スヘシ但シ後期三年ノ實業補習學校後期ニ在リテハ其ノ第二學年修了者ヲモ後期修了者中ニ加ヘ朱記スヘシ

(ハ)　小學校欄ニハ不就學者、尋常小學校卒業者及高等小學校半途退學者、尋常小學校半途退學者、高等小學校卒業者ニ付左ノ通略記スヘシ不就學者「不就學」尋常小學校半途退學者「尋何修」尋常小學校卒業者「尋卒」高等小學校半途退學者「高何修」高等小學校卒業者「高卒」ト記載スヘシ

尋常小學校卒業後學校教育ヲ受ケ二年以上四年以內ニテ半途退學セシ者及高等小學校卒業後二年以內ニテ半途退學セシ者ハ高等小學校卒業者欄ニ「高卒」ト朱記シ其ノ教育ヲ受ケタル學校名及學年ヲ同欄ニ割註スヘシ

三、卒業又ハ修了ノ成績欄ニハ小學校竝ニ實業補習學校ノ成績ニ付キ甲乙丙ノ三等ニ分チ小學校卒業成績甲ト認定スヘキ者ニ付テハ「小甲」實業補習學校卒業成績乙ト認定スヘキ者ニ付テハ「補乙」等本例ニ倣ヒ略記スヘシ

四、氏名ハ小學校教育程度ノ最モ低キ者ヨリ順次高キ者ニ及ホシ列記スヘシ但シ實業補習學校後期二年以上ノ修了者ハ末尾ニ記載スヘシ

第四表　教育程度調査表　其ノ二

參考該當者ノ教育程度	職業	在住又ハ出寄留者	氏名

本表ハ第一表第五項該當ニ付キ其ノ學歷ヲ調査シ記載スヘシ

小學校長ハ前條各調査表適宜ノ所ニ署名捺印スヘシ

第十六條　青年訓練所主事、充當補習學校長ハ青年訓練ニ於テ出席優良ナル者ニ付キ本人ノ所持セル青年訓練手帳備考欄ニ其ノ旨記入シ之ヲ證明スヘシ

第十七條　前二條ニ規定スル青年訓練出席優良者ノ標準ニ付キテハ附表第二ノ時數ニ依ル

第十八條　市町村長ハ青年訓練名簿竝青年訓練所出席簿ヲ徵兵檢查當日徵兵官ノ閱覽ニ供スヘシ

第六章　短期現役兵關係

第三十四條　令第百六條ノ規定ニ依ル短期現役兵徵集ノ事務ヲ行フヘキ聯隊區徵兵署ハ三重縣師範學校トス

前項徵兵署ノ設備ハ第五條ノ規定ニ拘ラス師範學校長之ヲ擔任スヘシ

第三十五條　短期現役兵ノ徵兵檢查期日ハ每年二月五日トス

但シ時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第三十六條　師範學校長ハ每年十二月一日調ヲ以テ其ノ年四月一日以後翌年三月三十一日迄ニ師範學校ヲ卒業スル者ニ付左ノ樣式ニ依ル名簿ヲ十二月五日迄ニ知事ニ差出スヘシ

短期現役兵受檢者連名簿

用紙美濃罫紙

體格等位	身長	胸圍	體重	摘要	志望兵科	本籍	氏名	生年月日

師範學校長ハ短期現役兵受檢者連名簿適宜ノ所ニ署名捺印スヘシ短期現役兵受檢者連名簿ノ調製ニ就

テハ左ノ各號ニ依ル

一、名簿ノ各欄ニ記載スヘキ事項ハ本籍氏名生年月日トシ其ノ他ハ之ヲ空欄トスヘシ

二、他府縣ニ本籍ヲ有スル者ニ在リテハ本籍者ノ次ニ適宜空欄ヲ存置シ之ヲ記載スヘシ

三、專攻科本科第一部、本科第二部及講習科ハ其ノ旨標記スヘシ

四、徵兵適齡年ノ者ト適齡ヲ經過シタル者ハ各別紙ニ記載スヘシ

第三十七條　師範學校卒業者ニシテ徵兵適齡未滿ノ者ノ名簿ハ短期現役兵資格者名簿トシ別冊トナシ徵兵年度毎ニ別紙ニ記載スヘシ

第三十八條　小學校長ハ毎年十二月一日其ノ學校ニ在職スル者ニシテ規則第三百七十六條第一號ノ規定ニ該當スル者ヲ調査シ當該市町村長ニ通知スヘシ

第三十九條　規則第三百七十三條ニ依ル短期現役兵トシテ服役スヘキ者ノ徵兵檢査ノ通達ハ小學校ノ教職ニ在ル者ニ就テハ本人ノ在職スル小學校所在地ノ市町村長ニ師範學校ニ在學スル者竝師範學校附屬小學校ノ教職ニ在ル者ニ付テハ之ヲ當該師範學校長ニ達スヘシ

市町村長及師範學校長ハ之ヲ本人ニ傳達スヘシ

短期現役兵ニ關スル證書ノ交付ニ付亦同シ

第四十條　市町村長師範學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ速ニ知事ニ報告スヘシ

一、法第六十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クル者アルトキ

二、令第二十條ノ規定ニ依リ現役ヲ免セラレ規則第五十九條ニ依ル聯隊區司令官ノ通知ヲ受ケタルトキ

第四十一條　小學校長ハ左ノ樣式ニ依ル短期現役兵名簿ヲ調製シ之ヲ學校ニ備付ケ常ニ其ノ異動ヲ明ニスヘシ

短期現役兵名簿

用紙適宜

何小學校

徵集年	陸海軍別	階・級	異動	本籍	氏名	生年月日

短期現役兵名簿ノ調製ニ付キテハ左ノ各號ニ依ル

一、本名簿ニハ六週間現役兵及短期現役兵トシテノ服役ヲ終リタル年齡二十八年未滿ノ者及短期現役兵トシテ未タ其ノ徵兵檢査ヲ終ラサル者(徵兵檢査ヲ終リタルモ處分未濟ノ者ヲ含ム)ヲ登錄スヘシ

但シ一年現役兵ニシテ豫備役將校ヲ志願シ現ニ豫備役又ハ後備役將校タル者ハ此ノ限ニアラス

二、徵集年ニハ六週間現役兵、一年現役兵又ハ短期現役兵トシテ服役ヲ爲シタル年ヲ記載スヘシ

三、異動欄ニハ著任、轉任、出向、休職、復職、退職、免職ノ發令年月日事由ヲ記載スヘシ但シ休職

ニ在リテハ特ニ朱記スヘシ

四、六週間現役兵、一年現役兵ニ限リ各其ノ區分ニ從ヒ氏名ノ尾ニ「六」又ハ「一」ノ符號ヲ附記スヘシ

五、本名簿ノ登錄抹消ハ左ノ場合ニ於テ異動ノ年月日事由ヲ記載ノ上朱線二條ヲ以テ全行ヲ抹消スヘシ

（イ）其ノ小學校ノ教職ヲ離レタルトキ

（ロ）年齡滿二十八年ヲ經過シタルトキ

（ハ）休職滿期ノ時但シ休職滿期ノ日又ハ其ノ翌日復職シタル者ヲ除ク

（ニ）六週間現役兵、一年現役兵又ハ短期現役兵トシテノ資格ヲ失ヒタルトキ

（ホ）短期現役兵徵兵檢查ノ結果短期現役兵トシテ徵集セラレサルニ至リタルトキ

第四十二條　小學校長ハ短期現役兵名簿登錄事項ニ異動アリタルトキハ前條名簿ノ樣式ニ準シ十四日以內ニ知事ニ報告スヘシ但シ縣內ノ轉任ニ在リテハ舊任小學校長ノ報告ヲ要セス

第四十三條　小學校長ハ第四十一條ノ短期現役兵名簿ヲ每年當該市町村徵兵檢查當日聯隊區徵兵署ニ提出シ徵兵官ノ閱覽ニ供スヘシ

第四十四條　本章中小學校長ニ關スル規定ハ師範學校附屬小學校ニ在リテハ師範學校長ニ之ヲ適用ス但シ三重縣師範學校附屬小學校ニ在リテハ前條ニ規定スル名簿ノ提出ハ第四十三條ノ徵兵署トス

第四十五條　市町村長ハ短期現役兵ノ服役ヲ終リタル者ニシテ規則第三百九十九條第二項ニ該當スル者アルトキハ規則第三百九十八條第二項ノ適用ヲ受クヘキニ付屆出上遺漏ナカラシムヘシ

附錄

徵兵署提出書類一覽表

一、本　人

（イ）徵兵（身體）檢查通達書（規則第百十六條）

（ロ）青年訓練手帳（規則第百十七條）

（ハ）學業又ハ職業ニ關スル卒業證書ノ類（同）

（ニ）壯丁豫備檢診治療在意書（規程第二十一條）

二、市町村長

（イ）壯丁出頭人員報告（規程第二十五條）

（ロ）徵兵檢查不參屆同附屬書類（規則第百十八條）

（ハ）所在不明捜索實況報告（規程第十九條）

（ニ）徵兵檢查期日變更願（規則第百十九條）

（ホ）徵兵檢查不參者連名簿（規則第百二十二條）

（ヘ）徵兵檢查不參事故止者連名簿（規則第百二十四條）

（ト）籤外徵集願（規則第百六十三條）

（チ）法第三十九條徵集延期者名簿（規則第二百九十九條）
（リ）法第四十一條徵集延期名簿（規則第三百二十五條）
（ヌ）法第四十二條徵集延期者名簿（規則第三百四十條）
（ル）徵兵處分未濟者名簿（規則第三百四十八條）
（オ）徵兵檢查通達書ヲ交付セサリシ者報告（規則第百十五條規程第二十條）
（ワ）法第三十九條該當者不參報告（規程第二十二條）
（カ）法第四十條徵集延期者狀況調書（規程第三十二條）
（ヨ）青年訓練名簿（規程第十八條）
（タ）青年訓練所出席簿（規程第十八條）

三、小學校長

（イ）短期現役兵名簿（規程第四十三條）

進達期限表

一月			
期限	件名	發送官（公）（衙）	受領官（公）（衙）	關係法規
十日	壯丁人員表	町村長	兵事官支廳長	規七八條

二十日	同	兵事官支廳長	聯隊區司令官	同七九條
十五日	短期現役兵壯丁名簿	市長	兵事官支廳長	三七七條
中旬	短期現役兵檢查出頭命令	町村長	知事	同三八〇條 三八四條
同	短期現役兵檢查告示及日割通知	町村長	市師範學校長	同三七〇條
三十一日	住外徵集延期願在留申告書	本人	在外公館民政署警察署南洋廳支廳	三二六條 同三三〇條
同	寄留地受檢通常願	本人	市町村長	同一六五條
一月中	兵籍編入屆	戶主	市町村長	同二七條
一月中	適齡屆	戶主	市町村長	法第二十四條 規則七三、七四條

二月				
期限	件名	發送官（公）（衙）	受領官（公）（衙）	關係法規
五日	短期現役兵徵兵檢查			規則三六八條

同	同日	短期現役兵檢查不參屆	本人	徵兵官	同三七四條
十	十日	寄留地受檢通常願	町村長	兵事官支廳長	同一六五條
十五日	十五日	壯丁名簿 壯丁名簿附表 壯丁連名簿 徵兵檢查不要者連名簿 兵籍編入者連名簿	町村長	兵事官支廳長	同八七條 規程一三條
二十日	二十日	徵兵適齡年所在不明者報告	市町村長	知事	規程五一條
二十日以前	二十日以前	徵兵署開設日割表協議	聯隊區司令官	兵事官支廳長・市長	規則一〇五條
末	末日	短期現役兵法第四十九條入營延期願	本人	市町村長	法第四十五條 規則三四二條
同	同日	同	市町村長	聯隊區司令官	同
中	三月				
期限	件名		發送官(公)(衙)	受領官(公)(衙)	關係法規
十	十日	壯丁連名簿	兵事官支廳長市長	聯隊區司令官	規則八七條

二十日	二十日	短期現役兵戶籍抄本及身上明細書	市町村長	徵集通知ヲ受クタル聯隊區司令官	同三九五條
同	同	外地受檢者壯丁名簿同附表	兵事官支廳長市長	通知ヲ受クタル師團長又ハ軍司令官	規則一八四條
同	同	右受檢者ニ對スル通知	兵事官支廳長	町村長	同
四	四月				
期限	要件		發送官(公)(衙)	受領官(公)(衙)	關係法規
十五日	十五日	在學徵集延期願 同	本人市町村長	徵兵官	規則三一五條 同三一七條 同三一六條
十五日	十五日	在帝國外徵集延期願在留申告書	在外公館	兵事官	
同	同		兵事官	支廳長市長	規則三二八條 同三三〇條
十五日	十五日	在帝國外徵集延期願 (一月三十一日迄ニ手續不能者)	本人	市町村長	
同	同		町村長	兵事官支廳長	規則三二九條
同	同	在學徵集延期一時事故止屆 卒業證書 入學願書受理證明書	本人市町村長	徵兵官	同三二〇條

六月

期限	件名	發送官(公)(衙)	受領官(公)(衙)	關係法規
三十日	在留者檢査濟壯丁名簿	師團長 軍司令官	兵事官 支廳長 市長	規則二〇〇條

八月

期限	件名	發送官(公)(衙)	受領官(公)(衙)	關係法規
五日	幹部候補生志願票 戸籍謄本 學校卒業證明書又ハ修了證明書 檢定合格證明書 身體檢査證(二十歳未滿ノ者) 各部志願資格證明書	本人	市町村長	補充令規則七七條
十五日	同右	市町村長	聯隊區司令官	同　七八條
同日	(入營延期者)入營屆 戸籍謄本(志願後戸籍ニ異動アル者) 卒業證明書(特殊志願者ニ限ル)	本人	市町村長	暫行規程一一條
同日	在外部隊服役願	本人	市町村長	規則二五一條
同	同	市町村長	聯隊區司令官	
同	(舊)入營延期願 (舊)在學證明書 入學許可證明書(未入學者ニ限)	本人	市町村長	暫行規程一條
右願書受理後十五日以內	同(奥書)	市町村長	聯隊區司令官	同　二條
三十一日	法第四十五條入營延期願	本人	市町村長	規則三四二條
同	同	市町村長	聯隊區司令官	同
三十一日	(入營延期者)入營屆 戸籍謄本(志願後戸籍ニ異動アリタル者) 卒業證明書(特殊志願者ニ限ル)	市町村長	聯隊區司令官	暫行規程一一條
三十一日迄	抽籤終了			規則第一四八條

九月

期限	件名	發送官(公)(衙)	受領官(公)(衙)	關係法規
五日	徵兵終決處分未濟者ノ住所不明者報告	支廳長 市長	知事	規程五一條
十日	令第七條海軍現役志願書 同　壯丁名簿 同　合格證書	本人	海軍人事部長	規則二九條

十月

期限	件名	發送官(公)(衙)	受領官(公)(衙)	關係法規

三十一日	幹部候補生（在營一年者）納金	納金人	日本銀行本支店代理店	規則八七、八八條
十一月				
期限	件名	發送官（公）（衙）	關係法規	
十日	現役補充兵輜重輸卒戶籍抄本身上明細書	市町村長	聯隊區司令官	規則一二七條同一二九條同一三〇條
十二月				
期限	件名	發送官（公）（衙）	關係法規	
一日	短期現役兵資格者申告	小學校長	市町村長	規程三八條
五日	短期現役兵受檢者連名簿	師範學校長	知事	規程三六條
上旬	短期現役兵壯丁名簿要求	市町村長	本人本籍地市町村長	規則三七六條同三七七條
同	（在學延期中）短期現役兵壯丁名簿要求	發送官（公）（衙）	關係法規	
同	其ノ年卒業短期現役兵壯丁名簿要求	知事	兵事官支廳長	同三七八條同三七九條
			本籍市町村長	同三七九條

十五日	短期現役兵壯丁名簿送付	市町村長	本人在職地市町村長	同三七六條同三七七條
二十日	二十歲未滿男子數報告	町村長	兵事官	規程五八條
三十一日	幹部候補生（在營十月ノ者）納金	納金人	日本銀行本支店又ハ代理店	補充規則八七條八八條
其ノ他不定期				
期限	件名	發送官（公）（衙）	關係法規	
兵籍編入後十四日以內	適齡後終決處分迄ノ者兵籍編入屆	戶主	市町村長	規則二七條
檢查開始十五日前	壯丁教育程度調查表	小學校長	知事	規程一五條
檢查中	二十歲未滿現役願（身上明細書添付）	本人	徵兵署ニ在ル聯隊區司令官	令第七條
現役中	短期現役兵家事故障現役免除願	本人聯隊長	市町村長	規則四八條
令第七條志願者入營ノ時	令第七條志願者入營通知	部隊長	市町村長	同三三條
現役中	短期現役兵失格通知	知事	師團長鎭守府司令長官	同四七條

同	現役免除願	市町村長	本人
在鄉中	兵役免除願	市町村長	本人
檢查當日迄	徵兵檢查不參屆	市町村長	本人
同	法第三十九條該當者不參報告	市町村長	本人
同	徵兵檢查期日變更願	市町村長	本人
事故止後速ニ	右二件事故止屆	市町村長	本人
檢查當日迄	兵役免除願	市町村長	本人
徵兵檢查中	籤外徵集願	本人	任意ノ徵兵署ニ在ル聯隊區司令官
一月三十一日以後徵兵檢查前	寄留地受檢臨時願	町村長	市長
事件發生ノトキ	寄留替受檢願	町村長	市長

市町村長	聯隊區司令官	同	五四條
市町村長	聯隊區司令官	何	五六條
市町村長	徵兵官	規程	二二條
市町村長	徵兵官	規則	一一八條 二九七條
市町村長	徵兵官	規則	一一九條
市町村長	徵兵官	同	一二三條 一二四條
市町村長	徵兵官	同	一二五條
本人	任意ノ徵兵署ニ在ル聯隊區司令官	同	一六三條
町村長	支廳長	同	一六八條
市町村長	支廳長	同	一七〇條

同	寄留地受檢取消願	市町村長	本人
徵兵檢查開始前	特別檢查願	町村長	本人
召集期日後六日以內	補充兵戶籍抄本及身上明細書	市町村長	本人
徵兵檢查終了後	徵兵檢查成績調查表	徵兵官	知事
集合地到著期日前	單獨入營屆	市町村長	本人
同	入營延期願	市町村長	本人
入營前	入營不能屆	市町村長	本人
事故止後十四日以內	法第三十九條事故止屆	戶主 市町村長	本人
徵兵檢查後七日以內	家事故障徵集延則願	本人	市町村長
同	家事故障狀況內報	町村長	兵事 官 支廳長

市町村長	兵事 官 支廳長	規程	三三條
市町村長	聯隊區司令官	同	二九七條 二九八條
市町村長	聯隊區司令官	同	二五二條
市町村長	聯隊區司令官	同	二四〇條
市町村長	聯隊區司令官	同	二三九條
市町村長	聯隊區司令官	規則 同 同	二二八條 二二九條 二三〇條
町村長	徵兵官	規程	二七條
本町村長	市町村長 兵事 官 支廳長	同	一七六條
市町村長	市町村長 兵事 官 支廳長	規則	一七三條

願書受領後十四日以內	家事故障徵集延期願 戶籍謄本 狀況書	市町村長 兵事官 支廳長 市長	兵事官 支廳長 聯隊區司令官ニ合議	規則三〇一條 同三〇二條
事故止後十四日以內	在學徵集延期事故止屆	本人 町村長	市町村長 徵兵官	規則三一八條
入學後十四日以內	一時事故止者 在學徵集延期願	本人 町村長	市町村長 徵兵官	同三二一條
事故止後十四日以內	在帝國外徵集延期事故止屆	本人 町村長	市町村長 徵兵官	同三三四條
歸還地到著後十四日以內	在帝國外徵集延期者一時歸朝屆	本人 町村長	市町村長 兵事官 支廳長	同三三六條
帝國ヲ離レタル後十四日以內	一時歸朝者再出發屆	本人 町村長	市町村長 兵事官 支廳長	同三三七條
事故發生後七日以內	所定期間內出發不能屆	本人 町村長	市町村長 兵事官 支廳長	同三三八條 同三三九條
事件發生後十四日以內	教職罷免屆	本人	市町村長	法第六十七條 規則三九八條 同三九九條
同	在學入營延期者事故止屆	本人 市町村長	市町村長 聯隊區司令官	法附則第四項 暫行規程五條
轉校後十四日以內	在學入營延期者轉校屆 新舊學校長入退學證明書	本人 市町村長	市町村長 聯隊區司令官	同六條

退學後二十日以內	在學入營延期者一時事故止屆	本人 市町村長	市町村長 聯隊區司令官	同七條
入營後七日以內	在學入營延期願	本人 市町村長	市町村長 聯隊區司令官	同九條
徵兵檢查中	幹部候補生身體檢查願	本人	聯隊區司令官	補充令規則八二條
事件發生後十四日以內	幹部候補生志願票記載事項中異動屆	本人	聯隊區司令官	同一二八條
異動十四日以內	短期現役兵異動報告	師範學校長 小學校長	知事	規程四二條

第十編　檢定、免許及資格

●三重縣小學校教員試驗檢定參考用書

（大正十二年七月二十日三重縣告示第二百八十五號）

沿革　昭和二年二月告示第七一號改正

三重縣小學校教員試驗檢定參考用書左ノ通改正シ大正十二年八月一日ヨリ實施ス

三重縣小學校教員試驗檢定參考用書

小學校本科正教員

科目	圖書名	卷冊	著譯編述者	發行所
修身	師範學校修身教科書 改訂版	一、二、三、四冊	吉田靜致	寶文館
	師範學校中學校作法教授要項	一冊	文部省	有美堂
教育	教育科書 教育論理學	一冊	乙竹岩造	培風館
	教育科書 心理學要領	一冊	上野陽一	大日本圖書株式會社
	教育科書 教育學	一冊	乙竹岩造	培風館
	教育科書 近世教育史	一冊	乙竹岩造	培風館
	教育科書 學校管理法	一冊	乙竹岩造	培風館

	教育科教科書各科教授法	一冊	乙竹岩造	培風館
國語及漢文	師範教科新撰國語讀本改訂版	六冊	佐々政一	明治書院
	改訂師範漢文讀本	四冊	簡野道明	明治書院
	改定中等日本文法教科書	一冊	吉澤義則	修文館
	尋常小學國語讀本	十二冊	文部省	文部省
	高等小學讀本	六冊	文部省	文部省
歷史	師範學校歷史教科書日本歷史	上中下三冊	峯岸米造	六盟館
	同附圖	一冊	峯岸米造	六盟館
	中等歷史教科書東洋史	一冊	山下寅次	六盟館
	改訂中等西洋歷史	一冊	瀨川秀雄	富山房
	同附圖	一冊	瀨川秀雄	富山房
	尋常小學國史教師用	二冊	文部省	文部省
地理	師範教科中等地理學日本之部	一冊	小川琢治	富山房
	師範教科中等地理學外國之部	一冊	小川琢治	富山房
	中等地理學通論之部	一冊	小川琢治	富山房
	模範日本地圖	一冊	開成館	開成館
	模範世界地圖	一冊	開成館	開成館
	小學地理書	四冊	文部省	文部省
數學	改訂師範教育算術教科書	上下二冊	國枝元治	寶文館
	中等教育代數學教科書	上下二冊	林鶴一	開成館
	中等教育幾何學教科書（平面）	一冊	林鶴一	開成館
	中等教育幾何學教科書（立體）	一冊	林鶴一	開成館
	甲種商業簿記教科書（男）	上一冊	吉田良三	同文館
博物	中等教育博物學教科書（植物篇）	一冊	竹島茂郎	目黑書店成美堂合梓
	中等教育博物學教科書（生理衛生篇）	一冊	竹島茂郎	目黑書店成美堂合梓
	最新動物學教科書	一冊	丘淺次郎	六盟館
	師範學校鑛物教科書	一冊	安東伊三次郎	寶文館
	實驗動物教本	一冊	稻葉彥六	育英書院
	尋常小學理科書（教師用）	三冊	文部省	文部省
	高等小學理科書（教師用）	三冊	文部省	文部省
物理及	中等物理學教科書	一冊	森總之助	積善館
	新制中等物理學生徒實驗用書	一冊	森總之助	積善館

化學	中等教育化學教科書	一冊	龜高德平	開成館
	中等教育化學生徒實驗書	一冊	龜高德平	開成館
法制經濟	輓近法制經濟教科書	一冊	鳩山秀夫 河田嗣郎	東京開成館
習字	普通教育新撰書法	一冊	古川平三郎	別所書店
	いろは帖	一冊	古川平三郎	別所書店
圖畫	現代圖畫	三冊	圖畫教育研究會	目黑書店
	工藝圖案法講義	一冊	山崎競	積善館
	尋常小學新定畫帖	六冊	文部省	文部省
	高等小學新定畫帖	二冊	文部省	文部省
音樂	近世樂典教科書	一冊	田村虎藏	西野虎吉
	小學唱歌集	三冊	東京音樂取調所	文部省
	幼稚園唱歌集	一冊	東京音樂取調所	文部省
	中等唱歌集	一冊	東京音樂取調所	文部省
	初等オルガン教科書	一冊	天谷秀 多梅雅	東京開成館

	教科適用進行曲粹	二冊	開成館音樂課	東京開成館
體操	櫻井博士體操講演集	一冊	石丸節夫	都村有爲堂
	合理的體操學	一冊	今井學治	廣文堂
	小學校體操教科書	一冊	文部省	大日本圖書株式會社
	最新陸上競技規則の解說	一冊	野口源三郎	ヘルメス社
	小學校遊戲の理論及實際	一冊	可兒德 矢島鐘二	寶文館
	學校體操教授要目	一冊	文部省	寶文館
	步兵操典（男）	一冊	陸軍省	共益商會
	陣中要務令（男）	一冊	陸軍省	共益商會
家事	家事新教科書（女）	上下二冊	石澤吉磨	集成堂
裁縫	裁縫新教授法（女）	一冊	木下竹次	文昌閣
	裁縫教科書（女）	上、中、下三冊	今村順子	目黑書店
	三訂裁縫教授法（女）	一冊	今村順子	目黑書店
	尋常小學裁縫教授書（女）	一冊	文部省	文部省
	高等小學裁縫教授書（女）	二冊	文部省	文部省

學科目	圖書名	卷冊	著譯編述者	發行所
小學校准教員用				
手工	師範學校手工教科書	二冊	上原六四郎	實業教科研究組合
	改訂增補手工科教材及教授法	二冊	岡山秀吉	
	手工教授の實際的新主張	一冊	阿部七五三吉	寶文館
	手工科新教材集成	三冊	岡山秀吉	寶文館
	最新木工具の使ひ方及木工機械製作	一冊	山田義郎	モナス
	和洋木材著色ワニス、ペンキ、漆、蒔繪塗物儘	一冊	岡山秀吉	寶文館
	師範學校手工教科書	二冊	岡山秀吉	實業教科研究組合
	改訂增補手工科教材及教授法	一冊	佐藤巳之吉	中央工學會
	手工教授の實際的新主張	一冊	岡山秀吉	寶文館
	手工科新教材集成	三冊	岡山秀吉	寶文館
	最新木工具の使ひ方及木工機械製作	一冊	山田義郎	モナス
	和洋木材著色ワニス、ペンキ、漆、蒔繪塗物儘	一冊	岡山秀吉	大倉書店
修身	師範學校修身教科書 改訂版	一、二冊	吉田靜致	寶文館
	師範學校中學校作法教授要項	一冊	文部省	有美堂
教育	摘要教育教授法	一冊	乙竹岩造	培風館
國語	師範學校國文教科書 講習科用	四冊	吉田彌平	光風館
	尋常小學國語讀本	十二冊	文部省	文部省
	高等小學讀本	六冊	文部省	文部省
歷史	中等歷史教科書 日本史	二上冊	藤岡繼平	六盟館

歷史	師範學校日本歷史附圖	一冊	峯岸米造	六盟館
	尋常小學國史教師用	二冊	文部省	文部省
地理	新地理日本	一冊	小林房次郎	文學社
	新地理外國	一冊	小林房次郎	文學社
	模範日本地圖	一冊	開成館	開成館
	模範世界地圖	一冊	開成館	開成館
	小學地理書	四冊	文部省	文部省
算術	改訂師範教育算術教科書	一上二下冊	國技元治	寶文館
理科	新式實用物理教科書	一冊	野田貞	開成館
	新式實用化學教科書	一冊	高德平	開成館
	最新理科教科書 博物篇	一冊	高橋章臣	寶文館
	尋常小學理科書（教師用）	二冊	文部省	文部省
	高等小學理科書	三冊	文部省	文部省
	現代圖畫	二冊	圖畫教育研究會	目黑書店

圖畫	用器畫法精義	一冊	山崎競	積善館
	尋常小學新定畫帖	六冊	文部省	文部省
	高等小學新定畫帖	二冊	文部省	文部省
體操	小學校體操教科書	一冊	文部省	大日本圖書株式會社
	學校體操教授要目	一冊	文部省	寶文館
裁縫	裁縫教科書	上、中、下三冊	今村順子	目黑書店
	三訂裁縫教授法	一冊	今村順子	目黑書店
	尋常小學裁縫教授書	一冊	文部省	文部省
	高等小學裁縫教授書	一冊	文部省	文部省
	裁縫教授法	一冊	木下竹次	文昌閣

小學校專科正教員用

學科目	圖書名	卷冊	著譯編述者	發行所
教育	教育科教科書 教育學	一冊	乙竹岩造	培風館
	ニユー クラウン リーダース	五冊	神田乃武	三省堂

英語	ダイヤモンド リーダース	五冊	岡田明達	金港堂
	グローブグランマー	一冊	岡倉由三郎	大日本圖書株式會社
	教育科教科書 各科教授法（本書ニヨリ英語教授法參考）	一冊	乙竹岩造	培風館
農業	普通教育農業教科書	上、中、下三冊	草野正行 神戸昌平	六盟館
	小學校教師用農業教科書	二冊	文部省	文部省
	小學農業教授法	一冊	横井時敬	大葉久吉
	水產教科書	上下二冊	教育學術研究會	同文館
商業	甲種程度商業教科書	上下二冊	內池廉吉 坂本陶一	同文館
	甲種商業簿記教科書	上下二冊	吉田良三	同文館
	商業算術教科書	上下二冊	原口亮平	同文館
	世界商業新地誌	一冊	住登勝藏	松邑三松堂
	日本商業新地誌	一冊	住登勝藏	松邑三松堂
	新撰商品學	一冊	住登勝藏	松邑三松堂
	教育科教科書 各科教授法（本書ニヨリ商業教授法參考）	一冊	乙竹岩造	培風館

圖畫	現代圖畫	三冊	圖畫教育研究會	目黑書店
	用器畫法精義	一冊	山崎競	積善館
	工藝圖案法講義	一冊	島田佳美	興文社
	圖畫教授ノ理論ト實際	一冊	白濱徵	大日本圖書株式會社
	圖畫教育ノ理想ト實現	一冊	新圖畫教育會	培風館
	尋常小學新定畫帖	六冊	文部省	文部省
	高等小學新定畫帖	四冊	文部省	文部省
手工	新手工教授	一冊	岡山秀吉	寶文館
	師範學校手工教科書	前後二冊	上原六四郎 岡山秀吉 阿部七五三吉	目黑書店
音樂	近世樂典教科書	一冊	田村虎藏	西野虎吉
	小學唱歌集	三冊	東京音樂取調所	文部省編輯局
	中等音樂教科書	四冊	北村季晴	共益商社
	新撰小學唱歌教授法	一冊	石原重雄	石原重雄
	オルガン教則本	二冊	島崎赤太郎	共益商社
	教科適用進行曲粹	二冊	開成館音樂課	開成館

體操	櫻井博士體操講演集	一冊	石丸節夫	都村有爲堂
	合理的體操學	一冊	今井學治	廣文堂
	小學校體操教科書	一冊	文部省	大日本圖書株式會社
	最新陸上競技規則の解說	一冊	野口源三郎	ヘルメス社
	小學校遊戲の理論及實際	一冊	可兒德 矢島鐘二	寶文館
	學校體操教授要目	一冊	文部省	寶文館
	步兵操典	一冊	陸軍省	共益商社
	陣中要務令	一冊	陸軍省	共益商社
裁縫	裁縫新教授法	一冊	木下竹次	文昌閣
	裁縫新教授書	上卷一冊	神田順子	大倉保五郎
	裁縫教科書	上、中、下三冊	今村順子	目黑書店
	三訂裁縫教授法	一冊	今村順子	目黑書店
	尋常小學裁縫教授書	一冊	文部省	文部省
	高等小學裁縫教授書	二冊	文部省	文部省

尋常小學校本科正教員用

科目	圖書名	卷冊	著譯編述者	發行所

修身	師範學校中學校師範學校	修身教科書	改訂版	一、三、四	冊	吉田靜致
		作法教授要項		一	冊	寶文館
教育	教育科教科書	教育學綱要		一	冊	乙竹岩造
	教育科教科書	各科教授法綱要		一	冊	乙竹岩造
	教育科教科書	學校管理法綱要		一	冊	乙竹岩造
						培風館
國語	師範學校	國文教科書（講習科用）		四	冊	吉田彌平
		改定中等日本文法教科書		一	冊	吉澤義則
	尋常小學	國語讀本		十二	冊	文部省
	高等小學	讀本		六	冊	文部省
歷史	中等歷史教科書	日本史		二	冊	藤岡繼平
	師範學校歷史教科書	日本歷史附圖		一	冊	峰岸米造
	尋常小學國史	教師用		二	冊	文部省
						六盟館
	帝國地理			一	冊	地理教授同志會
	世界地理			一	冊	地理教授同志會

地理	模範日本地圖			四	冊	開成館
	模範世界地圖			一	冊	開成館
	小學地理書			一	冊	開成館
算術	師範教育	改訂算術教科書		上二	下冊	國枝元治
理科	新式實用物理教科書			一	冊	野田貞
	中等教育物理生徒實驗書			一	冊	野田貞
	新式實用化學教科書			一	冊	龜高德平
	中等化學生徒實驗用書			一	冊	高田德佐
	最新理科教科書	博物篇		一	冊	高橋章臣
	中等教育博物學教科書	植物篇		一	冊	竹島茂郎
	中等教育博物學教科書	生理衛生篇		一	冊	竹島茂郎
	最新動物學教科書			一	冊	竹島茂郎
	尋常小學理科書	教師用		一	冊	丘淺次郎
	高等小學理科書	教師用		三	冊	文部省
				二	冊	文部省
						開成館
						開成館
						開成館
						開成館
						寶文館
						高山房
						開成館
						目黑書店合成美堂
						目黑書店合成美堂
						六盟館
						文部省
						文部省

學科目	圖書名	卷冊	著譯編述者	發行所
圖畫	現代圖畫用器畫法精義	三冊	圖畫教育研究會	目黒書店
	尋常小學新定畫帖	一冊	山崎競積善館	
		六冊	文部省	文部省
體操	小學校體操教科書	一冊	文部省	大日本圖書株式會社
	學校體操教授要目の精神及實際上の注意	一冊	永井道明	教育新潮研究會
	身體をよくする體操	一冊	今井學治	廣文館
	步兵操典	一冊	陸軍省	共益商會
音樂	師範學校本科二部オルガンピアノ教科書	一冊	樂書刊行協會	高井樂器店
	小學唱歌集一、二、三	一冊	楠美恩三郎	高井樂器店
		三冊	文部省音樂取調掛	文部省
裁縫	裁縫教科書	上、中、下三冊	今村順子	目黒書店
	三訂裁縫教授法	一冊	今村順子	目黒書店
	尋常小學裁縫教授書	一冊	文部省	文部省

尋常小學校准教員用

學科目	圖書名	卷冊	著譯編述者	發行所
修身	高等小學修身書	三冊	文部省	文部省
教育	摘要教育教授法	一冊	乙竹岩造	培風館
國語	尋常小學國語讀本	十二冊	文部省	文部省
	高等小學讀本	六冊	文部省	文部省
歷史	尋常小學國史教師用	二冊	文部省	文部省
	高等小學日本歷史	二冊	文部省	文部省
地理	尋常小學地理書	二冊	文部省	文部省
	同　附圖	一冊	文部省	文部省
	高等小學地理書	二冊	文部省	文部省
	同　附圖	一冊	文部省	文部省
算術	新定算術	一冊	掛谷宗一	大日本圖書株式會社
	尋常小學理科書　教師用	三冊	文部省	文部省

理科	高等小學理科書	教師用
圖畫	現代圖畫	二冊
	尋常小學新定畫帖	三冊
		六冊
體操	學校體操教授要目	一冊
	文部省	文部省
	文部省	圖畫教育研究會
	文部省	文部省
	寶文館	目黒書店

●幼稚園保姆檢定免許ニ關スル細則

（大正十五年六月二十二日三重縣令第六十三號）

三重　昭和二年五月縣令第六三號改正

第一條　試驗檢定ノ施行期日、場所及出願期限其ノ他必要ナル事項ハ縣公報ヲ以テ之ヲ告示ス

第二條　檢定ヲ受ケムトスル者ハ願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ當廳ニ差出スヘシ但シ小學校教員免許狀ヲ有シ現ニ本縣內公立學校ニ在職スル者ハ第二號ノ證明書ヲ要ス

一、履歷書（第二號書式）

二、小學校令施行規則第百四條各號ニ該當セサル旨ノ本籍地市區町村長ノ證明書

三、戶籍抄本

四、幼稚園ノ保姆檢定ニ關シ成績佳良證明書ヲ有スル者ハ其ノ寫

五、幼稚園令施行規則第十條又ハ同第十二條ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ資格ヲ證明スル書面但シ當廳ニ於テ授與シタル免許狀ニ在リテハ其ノ寫

六、檢定手數料ヲ縣金庫ニ納付シタル保管證書

第三條　身體檢查及口頭試問竝實技ノ試驗ハ必要アリト認メタル場合ニ之ヲ行フ其ノ日時及場所ハ之ヲ出願者ニ通知ス

第四條　幼稚園令施行規則第十二條ニ該當スル者ニ在リテハ左ノ學科目ノ試驗ヲ行ハス

國語、算術、歷史、地理、理科、裁縫

第五條　試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與ス

第六條　保姆免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ其ノ事由ヲ具シタル願書ニ手數料ヲ縣金庫ニ納付シタル保管證書ヲ添ヘ當廳ニ差出スヘシ但シ書換ノ場合ニ在リテハ免許狀及戶籍抄本ノ添付ヲ要ス

第七條　檢定又ハ免許狀ノ書換、再渡ヲ出願スル者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一、檢定手數料　　金壹圓

一、免許狀書換再渡手數料　　金五拾錢

既ニ納メタル手數料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第八條　不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムトシタル者及試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トスルコトアルヘシ

第九條　免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名ハ縣公報ヲ以テ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年三重縣令第六十二號小學校令及小學校令施行規則實施ニ關スル規程第百十條ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式（用紙美濃紙）

保姆檢定願

本籍
現住所
族籍　氏　名

私儀幼稚園保姆志願ニ付試驗（無試驗）檢定ノ上免許狀御授與相成度履歷書添付此段相願候也

年　月　日

三重縣知事宛

右　氏　名　㊞

第二號書式（用紙美濃紙）

履　歷　書

氏　名
生年月日

學　業

一、年月日何學校ニ入學年月日何科卒業證書寫別紙ノ通

一、年月日何々ニ依リ何免許狀ヲ受ク免許狀寫別紙ノ通

業　務

一、年月日何官職拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞　罰

一、年月日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク

右ノ通相違無之候也

年　月　日

●尋常小學校本科正教員養成規程

（大正十年二月十五日三重縣令第九號）

第一條　官立公立學校ニシテ本規程ニ依リ尋常小學校本科正教員養成ノ目的ヲ以テ特ニ教科ヲ設置シタルトキハ知事ハ其ノ卒業者ニ對シ檢定ノ上尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ授與ス

第二條　前條教員養成ノ爲特ニ教科ヲ設置セムトスルトキハ學校長ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一、學　則

二、教室及體操場ノ圖面

三、教科用圖書

四、教員ノ履歷書及受持學科目調

五、經費及維持方法

前項ノ變更ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　教員養成科ノ學科目及其ノ程度ハ小學校令施行規則第百十一條ニ依ルヘシ但シ入學資格及其ノ

他特別ノ事情ニ依リ知事ノ認可ヲ受ケ學科目及其ノ程度ニ變更ヲ加フルコトヲ得

第四條　教員養成科ノ修業年限ハ一ケ年以上トシ每週教授時數ハ三十四時ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　教員養成科ノ入學資格ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、年齡十五年以上ニシテ身體健全品行方正ナル者

一、修業年限ヲ一箇年トシタルトキハ中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一、修業年限ヲ二箇年トシタルトキハ尋常小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者又ハ中學校若ハ高等女學校三學年ヲ履修シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

第六條　學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一、修業年限、學期、休業日ニ關スル事項

二、學科課程、教授時數ニ關スル事項

三、成績考査、修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四、生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五、授業料入學料等ニ關スル事項

第七條　養成科ノ教授日數ハ每學年二百日以上トス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第八條　養成科設置ノ學校ニハ左ノ書類ヲ備付クヘシ

一、學則、日課表

二、生徒學籍簿、出席簿及身體檢査ニ關スル表

三、職員名簿、履歷書、出勤簿

四、試驗ノ問題、答案及成績表

第九條　本規程ニ依リ認可ヲ受ケタルモノハ授業開始後十日ノ現在ヲ以テ生徒ノ氏名、年齡、入學前ノ經歷及教員勤務ノ經歷ヲ取調二十日限リ知事ニ報告スヘシ

第十條　授業開始三十日ヲ超エタルトキハ新ニ生徒ノ入學ヲ許可スルコトヲ得ス

總教授日數ノ四分ノ三以上出席シタル者ニ在ラサレハ卒業試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　卒業試驗ヲ施行セムトスルトキハ其ノ日時刻ヲ具シ十日前ニ知事ニ報告スヘシ

第十二條　卒業試驗ノ成績ハ其ノ施行後一週日以內ニ於テ受驗者ノ族籍氏名生年月日各學科目ノ點數ヲ具シ知事ニ報告スヘシ

第十三條　本規程ニ違背シ不都合ノ行爲アリト認メタルトキハ第二條ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

附　則

本規程ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●尋常小學校准教員養成所ニ關スル規程

（明治四十三年二月八日三重縣令第十一號）

沿革　明治四五年七月縣令第三五號改正

第一條　〔郡〕市若ハ私人ニシテ本規程ニ依リ尋常小學校准教員養成所ヲ設立シタルトキハ知事ハ其ノ卒業者中成績佳良ナル者ニ對シ無試驗檢定ノ上尋常小學校准教員免許狀ヲ授與ス

第二條　前號ノ養成所ヲ設立セントスルトキハ設立者ニ於テ左記事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　學　則

二　教室及體操場ノ圖面

三　教科用圖書目錄

四　講師履歷書及受持學科目

五　收支豫算

前項ノ變更ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一　養成期限及休業日ニ關スル事項

二　學科目、其ノ程度及教科時數ニ關スル事項

三　生徒ノ入學、退學及懲戒ニ關スル事項

四　生徒ノ學業成績調査ニ關スル事項

第四條　養成期間ハ六箇月以上トシ教授日數ハ百四十日以上トナスヘシ

第五條　學科目及其ノ程度ハ小學校令施行規則第百十二條ニ依ルヘシ但シ唱歌ハ之ヲ闕クコトヲ得

各學科目ノ每週教授時數ハ合計三十時以上トシ適宜之ヲ配當スヘシ

第六條　身體健全品行方正ニシテ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニ限リ入學ヲ許可スヘシ

第七條　養成所ニハ左ノ書類ヲ備フヘシ

一　學則

二　生徒學籍簿

三　講師出勤簿

四　生徒出席簿

第八條　養成所ハ授業開始後三十日ノ現在ヲ以テ左ノ樣式ニ依リ生徒ニ關スル報告ヲ知事ニ差出スヘシ

氏名	年齡	入學前ノ經歷	教員勤務ノ經歷

以上何名

第九條　授業開始後三十日ヲ超エタルトキハ新ニ入學ヲ許可スルコトヲ得ス

總教授日數ノ四分ノ三以上出席シタル者ニアラサレハ卒業試驗ヲ受ケシムルコトヲ得ス

第十條　卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ其ノ日時割ヲ具シ十日前ニ知事ニ報告スヘシ

第十一條　卒業試驗ノ成績ハ其ノ施行後一週日以內ニ於テ受驗者ノ族籍氏名、生年月日、各學科目ノ點數ヲ具シ知事ニ報告スヘシ

第十二條　本規程ニ違背シタルトキ若ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ第二條ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

●師範學校中學校高等女學校並實業學校教員無試驗檢定願書進達方ニ關スル件

（大正十五年三月二十日學第九四七號移牒）

內務部長ヨリ縣立學校長（盲啞學校ヲ除ク）三市長宛

教員檢定ニ關スル規程第四條並實業學校教員檢定ニ關スル規程第四條ニ依リ進達セラルル教員ノ無試驗檢定願書ハ今後左記區別ニ依リ御取扱相成度旨其筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度此段及移牒候也

記

一、地方廳ヲ經由スヘキモノ

教員檢定ニ關スル規定第七條第三號乃至第五號ニ依ルモノ實業學校教員檢定ニ關スル規程第六條第一號乃至第四號及第六號ニ依ルモノ

一、當該學校又ハ地方廳ヲ經由スヘキモノ

教員檢定ニ關スル規程第七條第一號第二號ニ依ルモノ實業學校教員檢定ニ關スル規定第六條第五號ニ依ルモノ

●公立私立實業補習學校無資格教員數ノ制限ニ關スル規程

（大正元年十二月二日）
（三重縣令第十六號）

沿革　大正一五年縣令第六〇號改正

第一條　公立私立實業補習學校ニ於テ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサル教員ノ數之ヲ有スル教員ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニハ公立實業補習學校ニ在リテハ管理者私立實業補習學校ニ在リテハ設立者ニ於テ知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　前條ニ依リ認可ヲ受ケムトスルトキハ當該學校現在教員ノ氏名、資格、從事ノ學科、擔任ノ學科目及事由ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ差出スヘシ

●小學校教員資格昇進候補者推薦方內申ニ關スル件（抜萃）

（昭和二年四月十八日）
（教第二七九九號通牒）

學務部長ヨリ各小學校長宛

貴校教員中別記調査標準ニ該當シ其成績特ニ佳良ナル者ニ對シ資格昇進ノ詮議セラルヘキ見込ニ有之候條當今每年七月末日限左記推薦書添付ノ上內申相成度此段及通牒候也

記

推薦書

一、履　歷　　別紙ノ通
二、取調書　　別紙ノ通
三、性格竝學校內外ニ於ケル人望
1、性　格（成可具體的ニ）
2、學校內外ニ於ケル人望
四、最近五箇年間ニ於ケル勤務狀況
1、缺勤日數（病氣、事故別）

現職名
氏　名

2、遲刻度數
3、早引度數
五、教授訓練ニ關スル狀況
1、教授上ノ成績(成可具體的ニ)
2、訓練上ノ成績(成可具體的ニ)
六、研究的態度
七、身體ノ健否
八、最近二箇年ニ於ケル講讀書籍、雜誌名
九、其他參考事項
(別記)

小學校教員資格昇進候補者調査標準

調査標準

甲、小學校本科正教員

左ノ事項ニ該當シ小學校令施行規則第百八條ノ試驗科目及其ノ程度ニ準シ補修ノ經歷ヲ有シ成績特ニ佳良ナル者

一、尋常小學校本科正教員又ハ小學校准教員免許狀受領ノ後五箇年以上小學校ノ教育ニ從事シ現ニ其ノ職ニ在ル者

乙、尋常小學校本科正教員

左ノ事項ニ該當シ小學校令施行規則第百十一條ノ試驗科目及其ノ程度ニ準シ補修ノ經歷ヲ有シ成績特ニ佳良ナル者

一、小學校准教員又ハ尋常小學校准教員免許狀受領ノ後五箇年以上小學校ノ教育ニ從事シ現ニ其ノ職ニ在ル者

丙、小學校專科正教員

左ノ事項ノ一ニ該當シ高等小學校卒業者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ現ニ小學校ノ教育ニ從事スル者

一、免許スヘキ學科目ニ就キ五箇年以上小學校ノ專科ノ教授ニ從事シタル者

二、音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業、家事、圖畫、外國語ノ一科目若ハ數科目ニ關シ師範學校本科第一部ノ學科程度ト同等以上ノ程度ニ於テ之ヲ教授スル學校ノ卒業者但シ免許スヘキ學科目ハ卒業シタル科目ニ限ル

履歷書

住所　族籍「原籍及現住地ヲ列記スヘシ」
現職名
氏名
何年何月生

年月	學業
自何年何月 至何年何月	何年何箇月 (各學科目別ニ時數記入)

官(公)(私)立何學校ニ於テ何學科修業若ハ講習「府縣立ハ其府縣名、郡市立ハ其府縣郡市名其他公立私立ハ府縣郡市町村名ヲ學校名ノ上ニ冠スヘシ以下之ニ倣フ」

何年何月		官(公)(私)立何學校ニ於テ何學科卒業證書ヲ受ク證書寫別紙ノ通
何年何月		何學校何學科ノ教員免許狀ヲ受ク免許狀寫別紙ノ通
何々	〃〃	〃〃〃

業務

年月	年月數	業務
自何年何月 至何年何月	何年何箇月	何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校訓導(准訓導)(教員)在職月俸何圓 但本科(專科何學科目)正(准)教員勤務 「同一學校ニ在學中增俸ノモノハ月俸「何圓乃至何圓」トシ最初ノ額ト最終ノ額トヲ記スヘシ以下之ニ倣フ」
自何年何月 至何年何月	何年何箇月	何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校代用教員勤務月俸何圓 但本科(專科何學科目)擔當
自何年何月 至何年何月	何年何箇月	何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校長兼務
自何年何月 至何年何月	何年何箇月	官(公)(私)立何學校何職在職月俸何圓 但何學科擔當
何々	〃〃	〃〃〃

賞罰

年月日	事項
何年何月日	何廉ニ付何々ヨリ何賞ヲ受ク
何年何月日	何廉ニ付何々ヨリ何罰ヲ受ク 「懲戒書アラハ其ノ寫ヲ添フヘシ」
何々	〃〃〃

雜

年月	事項
自何年何月 至何年何月	「前諸項ニ記載シ難キ事項ハ此部ニ記載スヘシ」
何々	〃〃〃

以上

備考

履歷書記載上ノ注意

一、取調書甲號ニ添付スヘキ履歷書ノ學業欄中講習ニ關スル事項ハ尋常小學校本科正教員又ハ小學校准教員免許狀受領ノ後ニ於テ小學校本科正教員試驗科目及其ノ程度以上ニ依リ補修シタルモノニ限リ記載スルコト

二、取調書乙號ニ添付スヘキ履歷書ノ學業欄中講習ニ關スル事項ハ小學校准教員又ハ尋常小學校准教員免許狀受領ノ後ニ於テ尋常小學校本科正教員試驗科目及其ノ程度以上ニ依リ補修シタルモノニ限リ記載スルコト

三、賞罰欄ニハ年末給與等ノ如キ恒例ノモノハ之ヲ省略シ特ニ著シキモノニ限リ記載スルコト

四、學科補修ノ時數ハ年月數欄ニ各學科目別ニ記入スルコト

取調書甲號

小學校本科正教員

| 既得免許狀 | | 學科補修ノ時數 | | |

記載上ノ注意

一、取調書甲號記載上ノ注意一乃至七ハ本表ニモ之ヲ適用スルコト

二、（省　略）

取調書丙號其ノ一

小學校專科正教員

小學校ニ於テ專科トシテ教授シタル學科目	同上教授ノ年數（五年以上）	普通ノ學力	授與ノ學科目	職名	氏名	年齢
	年箇月					年箇月

記載上ノ注意

一、普通ノ學力欄ニハ高等小學校卒業者及修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認定シタル者ニ在リテハ「有」ト記載シ然ラサル者ハ「無」ト記載スルコト

二、氏名欄ニハ女子ニ限リ右肩ニ「女」ト朱書スルコト

取調書丙號其ノ二

小學校專科正教員

卒業シタル學校名	卒業シタル學科目	同上修業年數	同上毎週教授時數	小學校ニ於ケル教授ノ年數	普通ノ學力	授與ノ學科目	職名	氏名	年齢
				年箇月					年箇月

記載上ノ注意

一、取調書丙號其ノ一ニ同シ

取調書丁號

尋常小學校准教員

一、學科補習ノ時數ハ取調書乙號ニ準ス

第十一編　教科用圖書

●小學校教科用圖書採定ノ件

（明治三十六年十二月三十日三重縣令第四十九號等）

教科書名	部冊	發行年月日 文部舍檢定年月日	著作者	發行者	定價	採定年月日 令番號
小學校農業書　乙種	二冊	大正二年五月十七日	文部省			以下明治三十七年四月一日ヨリ施行
最新商業教科書　三訂版	上下二冊	昭和四年二月五日 訂正六版 昭和四年二月二十三日	楠間龜楠	大日本圖書株式會社	上各參拾錢 下各參拾錢	明治四十年縣令第四十六號大正四年告示第三十五號ヲ以テ改正
最新女子商業讀本	上下二冊	昭和四年二月五日 訂正再版 昭和四年二月二十六日	楠間龜楠	楠間龜楠	上各參拾錢 下各五錢	大正十三年縣令第一號昭和四年同第二十五號ヲ以テ改正
最新簿記教科書　改訂版	上下二冊	昭和四年二月五日 訂正四版 昭和四年二月二十六日	楠間龜楠	楠間龜楠	上拾八錢 下拾貳錢	

小學校體操教科書（教師用）一冊	大正十年五月二十三日	文部省				
尋常小學裁縫教授書（教師用）一冊	大正五年一月一日	（同　右）	東京市京橋區銀座一丁目二十二番地	大日本圖書株式會社	壹圓五拾錢	大正十二年縣令第四十九號ヲ以テ改正
高等小學裁縫教授書第一、二學年用第三學年用（教師用）一冊	大正五年一月二十五日	（同　右）	東京市日本橋區新右衛門町十六番地	株式會社國定教科書共同販賣所	貳拾貳錢	（同　右）
小學教手工教科書甲乙丙丁四冊	甲乙明治三十七年七月二十四日丙明治三十七年七月二十九日丁明治三十七年八月十三日	文部省	東京市京橋區銀座一丁目二十二番地	大日本圖書株式會社	甲貳拾錢乙拾八錢丙拾參錢丁貳拾八錢	明治四十二年十二月十日縣令第六十七號
スクール、チルドレン、リーダーズ卷一二二冊	昭和二年十二月二十四日訂正再版昭和三年一月十二日	（同　右）	東京開成館編輯所	株式會社東京開成館	卷一參拾錢卷二參拾五錢	（同　右）
小學教手工教科書甲乙丙丁四冊	甲乙明治三十七年七月二十四日丙明治三十七年七月二十九日丁明治三十七年八月十三日	文部省	東京市京橋區銀座一丁目二十二番地	大日本圖書株式會社	甲貳拾錢乙拾八錢丙拾參錢丁貳拾八錢	明治四十二年十二月十日縣令第六十七號
高等小學書キ方手本新制第三學年用上甲種	大正五年一月二十五日	文部省			卷一卷二各拾六錢	（同　右）
尋常小學書キ方手本第一學年用及第二學年乃至第六學年用各上下甲種	大正五年一月二十五日	文部省			卷一卷二各拾六錢	（同　右）
高等小學書キ方手本新制第三學年用下甲種	大正五年一月二十五日	文部省			卷一卷二各拾六錢	（同　右）
尋常小學毛筆畫帖（兒童用）（第三、四學年用各一冊第五、六學年男生用各一冊第五、六學年女生用各一冊）六冊	大正五年一月二十五日	文部省			卷一參拾四錢	大正十二年縣令第四十九號昭和四年同第二十號ヲ以テ改正
尋常小學毛筆畫帖（教師用）一冊	大正五年一月二十五日	文部省			參拾五錢	（同　右）
尋常小學新定畫帖（兒童用）（第三、四學年用各一冊第五、六學年男生用各一冊第五、六學年女生用各一冊）六冊	明治四十三年一月二十一日縣令第十號	（同　右）			以下明治三十八年四月一日ヨリ施行	
尋常小學新定畫帖（教師用）六冊	明治四十三年一月二十一日縣令第十號明治四十三年四月一日ヨリ施行	（同　右）				
尋常小學國語讀本（同　右）（同　右）（同　右）	大正七年一月二十二日告示第三十三號大正七年四月一日ヨリ施行	（同　右）				
尋常小學國語書キ方手本（同　右）（同　右）（同　右）	大正七年一月二十二日告示第三十三號大正七年四月一日ヨリ施行	（同　右）				

●教科書ノ解說書等使用取締ニ關スル件

（大正十三年五月二十日　學第二六六三號移牒）

内務部長ヨリ各郡市長兩師範學校長宛

近來小學校ニ於テ教科書ノ解說書若ハ教科書類似ノ圖書ヲ副教科書又ハ參考書ト稱シテ使用セシムル向有之候趣右ハ教育上尠カラサル弊害ヲ來スモノト認メ候條（貴部内小學校ニ對シ）嚴ニ御取締相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之此段移牒候也

師範學校長宛ニハ（　）内ヲ省ク

●師範學校中學校高等女學校ノ教科書採定ニ關スル件

（大正十五年十二月二日　教第八二八六號通牒）

學務部長ヨリ兩師範學校長各中等學校長各高等女學校長宛

師範學校中學校高等女學校ノ教科書ヲ採用スルニ當リ其ノ内容ニ著シキ差異ナキニ拘ラス頻繁ニ之ヲ變更スルハ徒ニ父兄ノ負擔ヲ重クスルノミナラス教育上ノ弊害モ不尠義ニ付十分御留意ノコトト被存候ヘ共今般文部省ニ於テ教科用圖書檢定規則ヲ改正シ教科書ノ發行者ヲシテ檢定後尠クトモ五年間ハ特別ノ事情ニ依リ認可ヲ得タル場合ノ外供給ヲ止ムルヲ許ササルコトト致シタル趣ニ付御了知ノ上一層前記ノ趣旨徹底ニ力メラレ度此段及通牒候也

●師範學校ニ於テ使用セル文部省著作小學校教科用圖書ノ適否ニ關スル件

（明治四十五年七月一日　内訓第一號）

内務部長ヨリ兩師範學校長宛

其校ニ於テ使用セル文部省著作小學校教科用圖書ノ分量程度材料等ノ適否ニ就キ前學年中使用ノ經驗ニ據リテ毎年七月五日限リ意見ヲ提出スヘシ但シ特ニ必要アリト認メタルトキハ其ノ都度提出スヘシ

●青年訓練所教科書ニ關スル件

（大正十五年九月十五日　教第六二五六號通牒）

學務部長ヨリ各公立私立青年訓練所主事宛

青年訓練所ニ於テハ各訓練項目共教科書ヲ用ヒサルヲ本體トスルモ訓練實施上教科書ヲ必要トスル場合ハ必ス實業補習學校教科書採定ノ例ニ準シ知事ノ認可ヲ受ケラレ度此段及通牒候也

追テ青年訓練所ヲ併置セル實業補習學校ニ於テ既ニ採定セル教科書ヲ其ノ儘當該青年訓練所ニ於テ採用セムトスル場合ハ特ニ現品ノ添付ヲ要セス候條申添候

第十二編　學校衛生

●恩賜三重縣兒童保健衛生奬勵金交付ニ關スル件

（昭和二年八月三十日
教第五三八五號依命通牒）

學務部長ヨリ各市町村長
各小學校長宛

離宮御造營
記　念恩賜三重縣兒童保健衛生奬勵金交付規程ニ基キ昭和二年度奬勵金別途交付相成候處右ハ本年四月訓令甲第二十四號ノ趣旨ヲ體シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度尚其ノ施設ニ付テハ別途交付金以外市町村費、其ノ他寄附金等ヲ以テ相當ノ金額ヲ支出シ左記事項參照ノ上地方ノ實狀ニ依リ緊急ヲ要スルモノヨリ適宜之ヲ實施セラルル樣致度依命此段及通牒候也

記

一、學校清潔法實施ニ關スル施設
二、寄生蟲驅除ノ施設
三、トラホーム治療ノ施設
四、口腔衛生ノ施設
五、體育運動奬勵ノ施設

六、救急處置及簡易治療手當ノ設備
七、嗽盥及手足洗場ノ設備
八、給湯ノ設備
九、校舍防塵ノ設備
一〇、運動用具ノ設備

●學校醫、幼稚園醫及青年訓練所醫ニ關スル規則

（昭和五年一月二十七日）
（三重縣令第四號）

第一條　學校醫ヲ囑託セムトスルトキハ縣立學校ニアリテハ學校長、其ノ他ノ分立學校ニ在リテハ管理者ニ於テ學校長ノ意見ヲ聞キ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ、手當額ノ變更ヲ要スル場合亦同シ

一　醫師ノ住所、氏名
二　學校名
三　擔當生徒兒童數
四　手當支給見込額
五　履歷書及醫師免許證寫

現ニ他ノ學校醫ノ職ニ在ル者ヲ囑託セムトスルトキハ其ノ學校名、手當額及擔當生徒兒童數ヲ、手當額ヲ變更セムトスルトキハ現在支給額及其ノ事由ヲ附記スヘシ但シ履歷書及醫師免許證寫ハ添附スルヲ要セス

第二條　學校醫ヲ解囑セムトスルトキハ縣立學校ニ在リテハ學校長、其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ管理者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一　本人ノ解囑願書及解職ノ事由
二　後任ニ對スル豫定

第三條　私立學校ニ於テ學校醫ヲ囑託、解囑又ハ手當額ノ變更ヲナシタルトキハ前二條ニ準シ設立者ヨリ直ニ知事ニ開申スヘシ

第四條　學校醫死亡シタルトキハ縣立學校ニ在リテハ學校長、其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ヨリ遲滯ナク其ノ氏名及死亡年月日ヲ知事ニ報告スヘシ

第五條　知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二條ノ規定ニ依ラス學校醫ヲ解囑シ又ハ設立者ニ之カ解囑ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　現ニ開業セル醫師ニ對シテハ四校以上ノ學校醫ヲ兼務セシメ又ハ一千五百人以上ノ生徒兒童ヲ擔當セシムルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　特別ノ事情ニ依リ學校醫ヲ置クコト能ハサルトキハ市町村立學校ニ在リテハ管理者、私立學校

ニ在リテハ設立者ニ於テ其ノ事由並猶豫期間ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　公立學校醫ノ手當ハ左ノ標準ニ據リ支給スヘシ

生徒兒童數	千人以上	七百人以上千人未滿	五百人以上七百人未滿	三百人以上五百人未滿	二百人以上三百人未滿	百人以上二百人未滿	百人未滿
年額	九十圓以上	七十圓以上	六十圓以上	五十圓以上	四十圓以上	三十圓以上	二十圓以上

生徒兒童數一千人ヲ超ユルトキハ二百人ヲ加フル毎ニ手當年額二十圓以上ヲ增額スヘシ

一校ニ二人以上ノ學校醫ヲ置クトキハ第一項ノ手當額ハ適宜之ヲ分割スルコトヲ得

第九條　同一市町村ノ設置ニ係ル數校ノ學校醫ヲ兼ヌル者ニハ生徒兒童數最多ノ一校ニ付前條ノ標準ニ依リ手當ヲ支給シ其ノ他ノ學校ニ付テハ定額ノ二分ノ一以內ヲ減少シテ支給スルコトヲ得

第十條　實業補習學校醫ニ支給スヘキ手當額ハ前二條ノ標準ニ據ラサルコトヲ得

第十一條　特別ノ事情ニ依リ學校醫ノ手當ヲ支給シ能ハサル場合又ハ第八條及第九條ノ規定ニ依リ難キトキハ管理者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　公立學校醫ノ手當年額ノモノハ十二分シ每月之ヲ支給ス

新ニ囑託シタルトキ又ハ手當額ヲ變更シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其ノ當月分ハ日割計算ニ依リ之ヲ支給ス

解囑又ハ死亡シタルトキハ其ノ當月分全額ヲ其ノ際支給ス

第十三條　學校醫公務ノ爲旅行シタルトキハ旅費ヲ支給ス

前項ノ旅費支給ニ關シテハ三重縣公立學校給與規程ヲ準用ス但シ支給額ハ同規程第十七條一等乙號額トス二校以上ヲ兼務スル學校醫共通ノ用務ニ依リ旅行スルトキハ其ノ旅費額ハ關係學校經費ヨリ分割シテ支給スルコトヲ得

第十四條　學校醫ニハ手當ノ外特ニ勤勞アル者ニ對シテハ管理者ニ於テ慰勞金ヲ支給スルコトヲ得

第十五條　學校醫ハ學校醫ノ資格及職務ニ關スル規程第二條第一項各號ノ調査ニ付テハ特ニ左記事項ニ留意スヘシ

一　校地、建物竝設備ノ衛生ニ關シテハ特ニ乾濕、採光、換氣、暖房、湯呑場、手足洗場等ノ適否

二　校具ノ衛生ニ關シテハ特ニ黑板、机、腰掛等ノ適否

三　教授衛生ニ關シテハ特ニ生徒、兒童ノ姿勢、疲勞其ノ他學業ノ心身ニ及ホス影響等

四　運動ニ關シテハ正課及課外運動ノ種類程度及運動具等ノ適否

五　職員、生徒、兒童ノ健康狀態ニ關シテハ特ニ傳染性疾患ノ有無

六　病者、虛弱者、精神薄弱者等ノ監督養護ニ關シテハ其ノ要否、方法ノ適否竝家庭トノ聯絡等

七　清潔ニ關シテハ校地、校舍其ノ他ノ清潔狀態、掃除方法ノ適否及生徒、兒童ノ身體、被服等

八　飮料水竝飮食物ニ關シテハ之カ給與ノ方法、設備及其ノ質、量等

校地、建物竝設備ノ衛生ニ關スル調査ニ際シテハ管理者、學校長ハ每年一回以上立會フコトヲ要ス

第十六條　學校醫ハ學校醫ノ資格及職務ニ關スル規程第三條、第四條、第六條及第七條ニ依リ學校長又ハ管理者ニ申告シタルモノノ中特ニ重要ト認メタル事項ニ付テハ知事ニ申告スヘシ

第十七條　學校ニ學校醫執務席ヲ設ケ身體檢查用具、學校醫執務日誌、其ノ他必要ナル器具、書類ヲ備付クヘシ學校醫執務日誌ハ第一號樣式ニ依ル

第十八條　學校長ハ每年四月末日迄ニ前年度ニ於ケル學校醫ノ執務ニ關スル調書ヲ第二號樣式ニ依リ作製ノ上知事ニ報告スヘシ

第十九條　第一條乃至第五條、第七條及第十一條乃至前條ノ規定ハ幼稚園醫及青年訓練所醫ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年六月二十五日三重縣訓令甲第十二號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式（用紙半紙）

學校醫執務日誌

昭和　年　月　日執務　　學校長㊞　學校醫㊞

一　學校醫ノ資格及職務ニ關スル規程第二條ノ調查事項

區別　調查概況　意見　申告　學校長處理

區別	調查概況	意見	申告	學校長處理
第一號ノ事項				
第二號ノ事項				
第三號ノ事項				
第四號ノ事項				
第五號ノ事項				
第六號ノ事項				
第七號ノ事項				
第八號ノ事項				
第九號ノ事項				

二　學校醫ノ資格及職務ニ關スル規程第四條以下ノ申告又ハ建議事項

區別	意見	申告	學校長處理
申告又ハ建議事項			
執務狀況			

第二號樣式（用紙半紙）

昭和　年度學校醫ノ執務ニ關スル報告書

學校醫氏名	學校醫執務日數												學校醫手當額	本年度學校醫ノ手當豫算	本年度生徒兒童數
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計			

學校醫ノ執務ノ概況

備考

備考

一　執務日數ハ修學旅行附添運動會其ノ他ノ體育施設ニ出勤シタル日數ヲモ算入スルコト

一　本年度生徒兒童數ハ每年四月十五日現在ニ依リ調査記入ノコト

一　備考欄ニハ學校醫ノ執務ニ就キ參考トナルヘキ事項ヲ記載ノコト

●學校歯科醫設置及職務ニ關スル規程

（昭和三年六月十四日三重縣訓令甲第二十四號）

第一條　學校醫ヲ設置セル公私立學校ニ學校歯科醫師タルヘシ

第二條　學校歯科醫ハ歯科醫師法ニ依ル歯科醫師ニシテ支廳市役所町村役場公私立學校ニ在リテハ學校長其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ管理者ノ申請ニ依リ知事之ヲ行フ

第三條　學校歯科醫ノ囑託及解囑ハ縣立學校ニ在リテハ學校長其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ管理者ノ申請ヲ爲ス場合ハ學校醫ノ囑託及解囑ノ例ニ準據シ縣立學校ニ在リテハ學校醫其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ學校長及學校醫ノ意見ヲ聞クヘシ

第四條　私立學校ニ於テ學校歯科醫ヲ囑託シ又ハ解囑シタルトキハ設立者ニ於テ知事ニ開申スヘシ但シ囑託ノ場合ハ履歷書及免許狀寫ノ添付ヲ要ス

前項ニ依リ學校歯科醫ヲ囑託シ又ハ解囑セムトスルトキハ設立者ニ於テ學校長及學校醫ノ意見ヲ聞クヘシ

第五條　知事ニ於テ必要ト認メタルトキハ第三條及第四條ノ規定ニ依ラス學校歯科醫ヲ解囑スルコトアルヘシ

第六條　學校齒科醫ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ學校醫ト協力シテ專ラ學校ニ於ケル齒科醫事衛生ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第七條　學校齒科醫ノ職務ノ概目左ノ如シ

一　生徒兒童ノ齒牙檢査及簡易ナル治療

二　生徒兒童及父兄ニ對スル口腔衛生ノ講話

三　其ノ他口腔衛生上必要ナル事項

第八條　學校齒科醫ハ學校ニ於ケル齒科醫事衛生ニ關シ知事、管理者、學校長ニ對シ必要ト認メタル事項ヲ申告スヘシ

第九條　學校齒科醫ニハ相當ノ手當ヲ給スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學校看護婦設置及職務竝服務ニ關スル規程

（昭和五年一月二十七日　三重縣訓令甲第四號）

支廳市役所　町村役場　公私立學校　公私立幼稚園

第一條　學校醫ヲ設置セル學校ニ學校看護婦ヲ置クコトヲ得

第二條　學校看護婦ハ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス

第三條　學校看護婦ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルコトヲ要ス

一　看護婦ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ學校衛生ノ知識ヲ修得セル者

二　教育ノ實務ニ經驗アル者ニシテ學校衛生ノ智識ヲ修得シ適當ナリト認メタル者

第四條　學校看護婦ノ進退ハ縣立學校ニ在リテハ學校長、其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ學校管理者ノ申請ニ依リ知事之ヲ行ヒ私立學校ニ在リテハ設立者之ヲ行フ

學校長又ハ學校管理者ニ於テ前項ノ申請ヲ爲ス場合ハ縣立學校長ニ在リテハ學校醫、學校管理者ニ在リテハ學校長及學校醫ノ意見ヲ聞クヘシ

第五條　學校看護婦ヲ置カムトスルトキ又ハ俸給額ヲ變更セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一　學校名

二　採用セムトスル者ノ氏名

三　俸給支給見込額

四　履歷書及免許狀寫（履歷書ニハ第三條ノ資格ヲ認ムヘキ要項ヲ詳記スヘシ）

五　身體檢查書

俸給額ヲ變更セムトスルトキハ現在支給額及其ノ事由ヲ附記スヘシ但シ前項第四號及第五號ノ書類ハ添附スルヲ要セス

第六條　學校看護婦ヲ解職セムトスルトキハ解職ノ事由ヲ具シ本人ノ退職願書ヲ添ヘ知事ニ申請スヘシ

第七條　私立學校ニ於テ學校看護婦ヲ採用若ハ解職シタルトキ又ハ俸給額ノ變更ヲナシタルトキハ前二條ニ準シ設立者ヨリ直ニ知事ニ開申スヘシ

第八條　知事ニ於テ必要アリト認メタルトキハ第四條ノ規定ニ依ラス學校看護婦ヲ解職シ又ハ設立者ニ解職ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　學校看護婦死亡シタルトキハ縣立學校ニ在リテハ學校長、其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ヨリ其ノ氏名及死亡年月日ヲ遲滯ナク知事ニ報告スヘシ

第十條　學校看護婦ニハ俸給ノ外公務ノ爲旅行シタルトキハ旅費ヲ支給スヘシ

前項ノ支給方法ニ付テハ其ノ勤務スル學校ノ教員ノ例ニ依ル但シ旅費支給額ハ別表ニ定ム

第十一條　學校看護婦ニシテ特ニ勤勞アルトキハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第十二條　學校看護婦ハ學校長之ヲ監督ス

第十三條　學校看護婦ハ學校長、學校醫又ハ學校齒科醫ノ指揮ヲ受ケ概ネ左ノ事項ニ從事スヘシ

一　疾病ノ豫防、診療ノ介補及消毒、救急處置竝診療設備ノ整理ニ關スルコト

一　監察ヲ要スル者ニ對スル注意保護ニ關スルコト

一　定期及臨時身體檢查ノ補助ニ關スルコト

一　學校給食及中食ニ對スル注意

一　身體、衣服、携帶品等ノ清潔其ノ他衞生訓練ニ關スルコト

一　校地、校舍其ノ他設備ノ清潔、採光、換氣、暖房ノ可否等設備衞生ニ關スルコト

一　生徒、兒童ノ一般衞生的監察ニ關スルコト

一　體操其ノ他學科ノ輕減又ハ休養ヲ要スル者ニ對スル注意

一　學校傳染病豫防處置ニ關スルコト

一　校外教授、運動會、遠足、修學旅行、休暇聚落、水泳、海水浴等ノ場合ニ於ケル衞生ニ關スルコト

一　病氣缺席生徒、兒童ノ調查竝慰問ニ關スルコト

一　家庭ニ對スル疾病異常ノ治療矯正ノ勸告

一　口腔衞生ニ關スル注意

一　其ノ他學校衞生ニ關スルコト

第十四條　學校看護婦設置ノ學校ニハ概ネ其ノ執務ニ必要ナル左ノ簿冊ヲ備付クヘシ

一　執務日誌
一　疾病手當看護簿
一　家庭訪問簿

第十五條　學校看護婦ハ毎月末ニ備付ノ簿冊ニ付學校長、學校醫又ハ學校歯科醫ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十六條　學校看護婦ノ服務ニ關シテハ其ノ勤務スル學校教員ニ準ス

第十七條　本規程ハ之ヲ幼稚園ニ準用ス

附　則

現ニ設置ノ學校看護婦ハ之ヲ本規程ニ依リ設置シタルモノト看做ス

（別表）

鐵道賃又ハ船賃	車馬賃一里ニ付	三十錢	宿泊料一夜ニ付	一圓九十錢	日當一日ニ付
三等運賃	縣内	三十五十錢		三圓	一圓六十錢
	縣外				

講習會、研究會、修學旅行ノ爲出張シタル場合ニ在リテハ減額支給スルコトヲ得

●學生生徒兒童身體檢查規程竝同上發育概評決定標準改正ニ關スル件

（昭和二年三月二十九日）
（敎第一三三六號通牒）

學務部長ヨリ公私立各學校長公私立各幼稚園長宛

今般文部省令第三號竝文部省訓令第二號ヲ以テ學生生徒兒童ノ身體檢查規程竝同上發育概評決定標準改正相成候處之カ實施ニ關シテハ左記事項御留意相成度此段及通牒候也

左　記

一、被檢者ノ身長及體重ノ表記ニハ四捨五入法ヲ用フルモノナルモ發育概評決定ノ際ニ於ケル被檢者ノ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ハ、其ノ算出ニ四捨五入法ヲ用ヒサルモノナルヲ以テ小數第四位ニ於テ五以上ノ數ヲ有シ四捨五入法ニ依レハ標準數ニ達スルカ如キ場合ニ於テモ之ヲ標準ニ充タサルモノト判定スヘキコト

一、發育概評ノ決定ニ際シ早見表ヲ使用スル場合ニハ今般改正セラレタル標準ニ依リ作製シタルモノニ依ルヘク其ノ作製ニハ訓令改正ノ趣旨ニ從ヒ充分正確ヲ期シ從來使用シタル尺貫法ノ早見表ヲ單ニメートル法ニ換算シタルモノニ依ラサルコト

一、今般ノ訓令發布以前ニ改正發育概評決定標準ナリトシテ世上ニ傳ヘラレタルモノノ中ニハ數字等ニ相違ノ點少ナカラサルヲ以テ之カ爲發育概評ノ決定、早見表ノ作製等ニ際シテハ誤テ來ササル樣注意スルコト

一、學生生徒兒童身體檢查統計表用紙ハ從來使用セルモノモ其ノ大サ新規程ノモノト大差ナキ限リ殘部ハ之ヲ使用スルモ差支ナキコト

●小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關スル件

（明治二十七年十月二十六日）
（三重縣訓令甲第八十五號）

郡市役所　町村役場
小學校

今般文部省訓令第六號ヲ以テ小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シ訓令相成候ニ就テハ小學校長及教員ハ該趣旨ヲ體シ一層兒童身體ノ發達ニ留意スヘシ

●附屬小學校兒童身體ノ發達ニ留意スルノ件

（明治二十七年十月二十九日）
（三重縣訓令乙第四百九十二號）

師範學校

今般文部省訓令第六號ヲ以テ小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シ訓令相成候ニ就テハ其校附屬小學校ニ於テハ該趣旨ヲ體シ一層兒童身體ノ發達ニ留意スヘシ

●公立學校職員身體檢査規程

（昭和四年一月二十九日）
（三重縣訓令甲第五號）

公立學校　公立幼稚園
支廳　市役所
町村役場

第一條　本規程ニ於テ職員ト稱スルハ學校長、教員、舍監、書記及學校ニ勤務スル雇員傭員等ヲ謂フ

第二條　學校ニ於テハ毎年四月職員ノ身體檢査ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

第三條　身體檢査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ナキ場合若ハ學校醫身體檢査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條　身體檢査ハ左ノ各號ニ就キ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スヘシ

一、體質
二、中心視力及屈折狀態
三、眼疾

四、聽　力
五、呼吸器
六、循環器
七、其ノ他ノ疾病及異常

第五條　身體檢査ハ左ノ各號ニ準據シテ之ヲ施行スヘシ
一、體質ハ良、中、不良ノ三等ニ區分スヘシ
二、中心視力及屈折狀態ハ裸眼ニツキ各別ニ檢査スヘシ
三、眼疾ハ主トシテ傳染性眼疾ニツキ檢査スヘシ
四、聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ檢査スヘシ
五、呼吸器ハ理學的診斷ヲナシ場合ニ依リテハ「ツベルクリン」反應及咯痰檢査ヲナスヘシ
六、循環器ハ機能的、器質的異常ノ有無ヲ檢査スヘシ
七、其ノ他ノ疾病及異常ハ檢査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ

第六條　身體檢査ヲ行ヒタル學校醫又ハ之ニ代ルヘキ檢査醫ハ其ノ結果ヲ別記樣式ノ身體檢査票ニ記入シ學校長ニ提出スヘシ

學校長ハ檢査施行ノ日ヨリ十五日以內ニ前項ノ身體檢査票ヲ知事ニ提出スヘシ

第七條　疾病其ノ他ノ事由ニ依リ身體檢査ヲ受ケサルモノアルトキハ學校長ハ前條ノ身體檢査票提出ト同時ニ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

第八條　前條ニ依ル檢査未了ノ者出勤シタルトキハ直ニ身體檢査ヲ行ヒ第六條ニ準シ處理スヘシ

第九條　學校醫又ハ之ニ代ルヘキ檢査醫ハ檢査ノ結果、生徒兒童ノ衞生上考慮ヲ要スヘキ疾病ヲ有シ若ハ其ノ疑アリト認メタルトキハ其ノ概要ヲ身體檢査票ノ備考欄ニ明記スヘシ

第十條　身體檢査ノ結果知リ得タル事實ハ之ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第十一條　學校醫又ハ之ニ代ルヘキ檢査醫ハ身體檢査ノ結果ニ關シ特殊ノ事項ヲ直接知事ニ申報スルコトヲ得

第十二條　本規程ハ公立幼稚園ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式

公立學校職員身體檢査票

學校名

昭和　年　月　日檢査

5種	02種	7種
	02種	
	5種	

職名	氏名	年齡	體質		眼疾		聽力障害		呼吸器	循環器	其ノ他ノ疾病異常	備考
			中心視力及屈折狀態									
			右	左	右	左	右	左				

注意事項

一、用紙ノ大サハ幅十七糎長サ二十四糎トシ綴込用孔ハ本圖ニ示セル如シ

右ノ通檢査候也

學校醫（檢査醫）　氏　名　㊞

●學校清潔方法ニ關スル件

（昭和元年十二月二十七日）
（三重縣訓令甲第四號）

支　廳　市　役　所
町　村　役　場　公私立學校

學校ハ多數ノ兒童生徒長時間ニ亙リテ勉學運動スル場所ナルヲ以テ常ニ清潔ヲ保持シテ學校衞生上遺憾ナカラシムルヲ要ス之レカ清潔方法ニ關シ今般文部大臣ヨリ訓令ヲ發セラレタリ依テ別紙訓令ノ趣旨ヲ體シ其ノ地方ノ實情ニ鑑ミ適當ノ施設ヲ爲シ以テ學校清潔ノ實績ヲ擧クルニ力メラルヘシ

●學校傳染病豫防及消毒方法施行上心得方

（明治三十三年七月三日）
（三重縣訓令甲第六十六號）

郡　市　役　所　町　村　役　場
學　校　幼　稚　園

學校傳染病豫防及消毒方法ハ（明治三十一年（九月）文部省令第二十號）ニ依リ嚴重施行スヘキハ勿論ナリト雖尙左記心得ニ依リ學校職員ハ勿論學校ニ關係アル職務ヲ有スル者ハ平素注意シテ躬行實踐生徒ノ模範トナリ以テ豫防ノ實效ヲ擧ケンコトヲ勉ムヘシ

學校生徒傳染病豫防心得

一　爪ハ短ク切リ不潔物ノ附著セサル樣注意シ且手ハ時々洗滌シテ常ニ清潔ナラシムヘシ
但シ手洗場ニハ龍吐器ヲ用キルモノノ外ハ柄杓ヲ備ヘ必之ヲ用キシムヘシ
二　各生徒ニハ成ヘク自用ノ手洗ヲ携帶セシムヘシ
三　入浴スルトキハ浴後浴槽外ノ清潔ナル湯又ハ水ヲ以テ十分ニ身體ノ各部ヲ洗ヒ若ハ拭ヒシムヘシ
四　生徒ノ衣服携帶品ハ汚垢ヲ清淨シタルモノヲ用キシムルコトニ注意スヘシ
五　理髮店營業浴場等ニ入リテハ他人ノ用キタル手拭ヲ使用セシムヘカラス
六　生徒學校外ノ集合遊戲ハ殊ニ病毒傳染ノ虞アルヲ以テ父兄ヲシテ一層注意セシムヘシ
七　傳染病流行ノ時ニ際シテハ多人數集合スル場所ニ出入スルコトヲ避ケシムヘシ
八　寄宿舍ノ設ケアル場合ハ寢具手拭ノ混用ヲ禁シ共用ノ盥器ハ十分洗滌シテ使用セシメ入浴場ニハ浴槽ノ外別ニ清メ湯ヲ準備スル設備ヲ爲スヘシ
九　生徒中傳染病患者ヲ發生シタルトキハ保護者又ハ保證人ヲ召喚シ其ノ病性ヲ示諭シタル後出席ヲ停止スヘシ
十　前項ノ場合ニ於テハ保護者又ハ保證人ヲシテ速ニ醫治ヲ受ケシメ他人トノ交通ヲ避ケ務テ其ノ傳染ヲ豫防セシムヘシ
十一　學校醫ヲ置ケル學校ニ於テ職員生徒ニ昇校ヲ停止シ及其ノ停止ヲ解カントスル場合ニ在リテハ他ノ醫師ノ診斷或ハ證明シタル者ト雖モ尙學校醫ノ意見ヲ徵スヘシ
十二　前諸項ノ外傳染病流行ニ際シテハ其ノ種類ニ應シ特殊ノ豫防方法ヲ實施センコトニ留意スヘシ

●傳染病豫防ニ關スル件

（昭和二年七月二十三日　教第四九八二號依命通牒）

學務部長ヨリ各中等學校長小學校長宛

學校傳染病豫防ニ關シテハ從來屢々訓示竝通牒ノ次第モ有之各位ハ平素ヨリ深ク御注意相成居事ト被存候モ近時縣下隨所ニ傳染病殊ニ腸チフス赤痢等ノ消化器性傳染病發生シ其ノ狀況洵ニ憂慮スヘキモノ有之候處曩ニ河邊高等女學校ニ赤痢患者一名ヲ出シ今回宇治山田中學校ニ於テ寄宿舍ニ腸チフス患者ノ發生ヲ見タルト三重縣朝日村小學校兒童中數名ノ同患者ヲ出シタルハ洵ニ遺憾ノ次第ニ有之候此ノ際各位ハ克ク其ノ校學校醫ト協議ヲ遂ケ適當ナル施設方法ヲ講セラルルト共ニ一面生徒兒童及保護者ノ注意ヲ喚起シ以テ豫防上萬遺憾ナキヲ期セラレ度依命及通牒候也

記

一、患者ノ氏名　生年月日
一、病　名
一、發病ノ日
一、疾病ノ經過

一、感染ノ經路
一、發病以來ノ處置
一、將來執ラントスル處置
一、其他參考事項

以　上

●流行性腦脊髓膜炎ニ關スル件

（大正七年六月二十五日學第二四九九號依命通牒）

内務部長ヨリ各郡市長縣立各學校長宛

流行性腦脊髓膜炎ニ關シテハ自今學校傳染病豫防上明治三十一年文部省令第二十號學校傳染病豫防及消毒方法第一條第一類甲ニ屬スルモノトシテ御取扱相成度依命此段及通牒候也

●師範學校ニ於ケル肺結核豫防ニ關スル件

（大正三年一月三十一日三重縣訓令乙第一一號）

兩師範學校長宛

師範學校ニ於ケル肺結核豫防ニ關シテハ明治三十七年内務省令第一號竝ニ明治三十一年文部省令第二十號ノ各規程ヲ勵行セラルルハ勿論生徒入學ノ際體格檢査ヲ施行スルニ當リテハ特ニ肺結核ニ注意シ必要アル場合ニハ咯痰檢査及「ピルケー」氏皮膚反應試驗ヲ用ヒテ參考ニ供シ又每年施行スル生徒ノ身體檢査ニ際シテモ同樣ノ方法ニ依ラルヘク仍場合ニ依リテハ生徒ニ對シ臨時ニ身體檢査ノ全部又ハ一部ヲ施行シ肺結核ニ罹レル者アルトキハ之ヲ退學セシメラルヘシ

右訓示ス

●學生生徒及兒童ノ近視眼豫防ニ關スル件

（大正八年九月三十日三重縣訓令甲第三十八號）

郡　役　所
市　役　所
縣　立　學　校

大正八年九月十九日文部省訓令第九號ヲ以テ兒童生徒及學生ノ近視豫防ニ關シ訓令セラレタリ近視ハ其ノ原因種々アリト雖學校教育ニ因リテ誘發若ハ增惡スルコト頗多シ局ニ當ル者宜シク平生周到ノ注意ヲ拂ヒ適當ノ措置ヲ執リ嚴ニ之カ豫防ヲ講シ該訓令ノ趣旨貫徹ヲ期スヘシ

右訓令ス

●トラホーム豫防方ニ關スル件

（明治三十八年五月二日
三重縣訓令甲第二十六號）

公私立學校

學校生徒ノ傳染病ニ就キテハ文部省ハ（明治三十一年省令第二十號）ヲ以テ其ノ豫防及消毒方法ヲ規定セラレ尚ホ本縣ニ在リテモ明治三十三年訓令甲第六十六號ヲ以テ其ノ豫防方法ヲ定メ之カ漸減ヲ圖リタルニモ拘ハラス傳染性眼炎殊ニ「トラホーム」ノ如キ未タ其ノ病勢ノ減退ヲ見サルノミナラス却テ間々其ノ勢ヲ逞ウセントスル傾向アルハ寔ニ遺憾トスル所ナリ夫ノ「トラホーム」タルヤ其ノ病毒他ノ傳染病ノ如ク一時ニ劇烈ノ徴候ヲ呈セサルヲ以テ世人動モスレハ之ヲ等閑ニ附スルノ傾キアリト雖其ノ傳播ノ甚シキニ至リテハ啻ニ生徒ノ健康ニ至大ノ影響ヲ及ホスノミナラス遂ニ國民ノ生産力ヲ減殺シ又陸海軍壯丁ノ補充ニ支障ヲ來シ延ヒテ國力ノ消長ニ關スルヤ不ナリトス教育當事者ハ克ク此ノ趣旨ヲ體シ一層其ノ豫防及消毒ノ方法ヲ勵行シ此ノ際（明治三十一年文部省令第二十號第三條第十條）及明治十三年本縣訓令甲第六十六號ノ實行ヲ力メ更ニ左記各項ニ注意シ速ニ其ノ實效ヲ擧ケンコトヲ努ムヘシ

一　眼病患者ニハ學校ノ掃除ヲ爲サシムヘカラス

二　生徒ヲシテ教室廊下等ヲ掃除セシムルトキハ適宜水ヲ撒布シ塵埃ノ飛揚ヲ防キ然ル後濕雜巾ヲ以テ拭ハシムヘシ

三　校舍ノ內外ヲ論セス傳染性眼炎患者ニシテ汾泌强勢ナル者ト他ノ生徒トハ常ニ其ノ場所ヲ隔離スルコトヲ要ス

四　體操場ノ塵埃飛揚ノ虞アルモノハ生徒ノ遊戲運動ヲ妨ケサルヲ度トシ成ルヘク小砂利ヲ撒布スヘシ

五　體操及遊戲用具等ハ傳染性眼炎患者ノ使用スルモノト其ノ他ノモノトヲ區別スヘシ

六　學校醫ヲ置ク學校ニ在リテハ成ルヘク各學期毎ニ生徒ノ健康診斷ヲ行フヘシ但シ學校醫ヲ置カサル學校ニ在リテモ成ルヘク之ニ準スヘシ

七　寄宿舍內ニ於テ傳染性眼炎患者ノ汾泌强勢ナル者アルトキハ便宜之ヲ別室ニ收容スヘシ

●紫色鉛筆使用禁止方

（明治三十七年八月十六日
三重縣訓令甲第四十六號）

學校生徒等ノ使用スル「コピールピオレツト」「リラピオレツト」「ヨハン、コピール」「ハ、ツエ、クルツ、コピール」等ノ記號アル紫色鉛筆ハ其ノ製造ノ原料ニ有害ノ色素ヲ包含スルカ故ニ其ノ破片又ハ溶液ノ眼中ニ入ルトキハ激烈ナル毒作用ヲ呈シ竟ニ不治ノ眼疾ニ陷ヰルコトアリ仍テ幼稚園及小學校等ノ兒童ニハ之カ使用ヲ禁止シ其ノ他ノ學校ノ生徒ニ在リテハ必要缺クヘカラサル場合ニ限リ之ヲ使用セシムルコトヲ得ルト雖其使用上ニ周密ノ注意ヲ爲サシムヘシ

●夏期水泳上注意事項ノ件

（大正十五年六月二十九日）
（敎第三九一〇號通牒）

學務部長ヨリ各中等學校長各小學校長宛

夏季水泳ハ夏季體育施設中最モ重要視セラルルモノニシテ生徒兒童ノ健康增進上效果尠カラサルハ勿論年々是レノ設ノ增加竝其ノ技術ノ科學的進步發達ハ實ニ喜フヘキ傾向ニ有之候ヘ共尙時トシテ不幸ナル溺死者ヲ出スコトアリ昨夏モ數名ヲ失ヒタルハ實ニ遺憾ノ至リニ候條之レカ實施ニ際シテハ左記注意事項參照ノ上充分監督ヲ嚴ニスル樣御配慮相成度

記

一、水泳ヲ禁スヘキ疾病

心臟辨膜病、心筋炎其ノ他ノ心臟病、肺結核、肋膜炎其ノ他ノ呼吸器病、急性慢性中耳炎、鼓膜穿孔、脚氣、癲癇、腎臟病、虛弱者、重病恢復期ニアル考等

二、水泳上一般ノ注意

1 單獨ニテ水ニ入ラサルコト
2 空腹時滿腹時ヲ避クルコト
3 疲勞時ヲ避クルコト
4 水泳時間過長ニ亘ラサルコト（天溫體質等ヲ顧慮シ一回十分乃至三十分長クモ一時間ヲ超ヘサルコト）
5 入水前準備運動ヲナサシムコト
6 耳ノ保護ニ特ニ注意スルコト

イ、外聽道內ニ膿アルモノハ必ス除去スルコト

ロ、健耳ハ特別ノ保護ヲ要セサルモ入水前外聽道入口ヲ潤スヲ可トス（水ノ排出ヲ便ニスルタメ）又水ヨリ出タルトキハ水ノ排出ヲ計ルコト

ハ、外聽道炎ヲ豫防スルニハ耳入口ニ硼酸ワセリンヲ塗ルヲ可トス又水ノ外聽道ニ入ルヲ豫防スルニハ脫脂セサル綿ニ小量ノワセリンヲ付クタルモノヲ以テ輕ク栓塞スルヲ可トス

●疾病療治料ヲ給與スヘキ疫病ノ種類ニ關スル件

內務部長ヨリ各郡市長宛

敎育資金使用ニ關スル規則中兒童衛生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾病ノ種類左ノ如ク通牒セラレタリ

疾病ノ種類	發布年月日	通牒番號
一、肺結核	大正四年九月十四日	學第三、五三二
一、癩病	大正五年八月二十三日	學第三、一九八ノ一
一、頸線結核ニテ膿汁ヲ分泌シ傳染ノ虞アルモノ	大正六年二月八日	學第二二七
一、腸結核	大正六年四月二十日	學第一、三五六

一、喉頭結核	大正六年五月五日	學第一、〇四二ノ一
一、尋常性狼瘡	大正七年四月二十六日	學第一、四六九ノ一
一、結核性疼癒	大正七年七月十五日	學第二、六六一ノ一
一、泌尿生殖器ノ結核	大正七年九月十二日	學第三、〇一二
一、結核性脊推骨炎症ニシテ流注膿瘍ノ自開セルモノ	大正十年十二月二十二日	學第四、七〇一
一、結核性脊推「カリエス」ニシテ瘻孔ヲ形成シ膿汁ヲ排泄スルモノ	大正十三年十月二十七日	學第四、三一五一
一、肺尖加答兒ニシテ結核菌ヲ認メルモノ	大正十二年三月十六日	新普　六

●學校衛生要項

（昭和二年六月二十五日縣公報登載）

三重縣教育課

目　次

第一　學校衛生ノ意義方針ト其ノ範圍
第二　就學前兒童身體檢査ニ關スル注意
第三　身體檢査ニ於ケル監察ヲ要スル兒童ノ範圍
第四　學校看護婦
第五　體育運動
第六　兒童ノ衛生的觀察要項
第七　主要學校傳染病消毒物件概要
第八　消毒藥溶解竝使用法
第九　日常清潔方法ニ對スル注意
第十　便所ノ構造設備ニ就テノ希望
第十一　飲料水ニ就テ
第十二　救急處置ノ概要

第一　學校衛生ノ意義方針ト其範圍

學校衛生トハ兒童生徒及學生ノ教育ニ伴フ惡影響ヲ豫防又ハ除去シテ消極的ニハ其健康ヲ保護スルト共ニ積極的ニハ其身體ノ發育竝健康ノ促進ヲ圖リ而シテ心身ノ强健ナル國民ヲ養成スルニ在ル事ハ勿論學校職員ハ學校醫ヨリモ被教育者ニ接スル機會多キヲ以テ教職員タルモノハ彼等ノ健康狀態ニ注意スルト共ニコノ目的ヲ達スル爲メニハ教職員自ラノ健康ニ注意セサル可ラス故ニ學校衛生ノ目的トシテハ

1、心身ノ健全ナル國民ノ養成
2、能率高キ國民ノ養成
3、教育ノ完成

ニアリ

其範圍ハ極メテ廣汎ナルモ列擧スレハ左ノ如キモノナラン

1、設備衛生
2、敎授衛生
3、運動衛生
4、身體虛弱者竝精神薄弱者ノ養護
5、就學前兒童ノ衛生的監督
6、學校環境ノ衛生的整理
7、生徒兒童ノ醫學的監察ト敎職員ノ健康增進
8、身體檢查
6　疾病ノ治療ト豫防
10、衛生敎育
11、學校傳染病
12、職業撰擇ニ關スル事項
13、學校醫及ヒ學校看護婦

第二　就學前兒童身體檢查ニ關スル注意

1、檢查項目

一、已往疾病

二、保育ノ狀況
三、養育榮養
四、調力屈力言語
五、眼疾耳疾齒牙
六、其ノ他ノ疾病異常
2、其ノ他ノ事項
一、已往ノ疾患保育狀況其ノ他兒童ノ心身方面ノ各事項ヲ適當ナル方法ニヨリ其保護者ニ問ヒ就學後ノ參考トナス事
二、就學前必ラス醫師ニツキ檢便屈蟲テナス事
三、遺傳的關係及ヒ家庭狀況ヲ調査シ各個性調査簿ヲ作リ累年加除シテ卒業後ノ職業撰擇等ノ參考トナス事

第三　身體檢查ニ於クル監察ヲ要スル兒童ノ範圍

1、體質不良
2、發育概評榮養共ニ丙
3、貧　血
4、高度ノ脊柱不正及骨廓異常（クル病等）
5、重　病　後
6、急性傳染病後

7、學校傳染病第三類及第四類第三條但書ニアルモノ（傳病後病源體保有者、健康保菌者）
8、肺結核初期ノ嫌疑
9、神經異常
10、精神薄弱
11、運動ニヨリ病狀ヲ增惡スル疾病

第四　學校看護婦

本邦ニ於ケル學校看護婦ハ明治三十七年福岡縣女子師範學校ニ設立セルヲ嚆矢トス爾來學校衛生ノ急速ナル進歩ニ伴ヒ其ノ增加著シク實績モ亦大ニ見ルヘキモノアリ

學校ノ看護婦ノ執務ニ關シテハ文部省學校衛生課ノ發表サレタル執務指針ニヨル事トナリ居レリ其ノ內容ハ次ノ如シ

一、校內執務
　1、設備衛生ノ視察
　　イ、校　地
　　ロ、校舍及其ノ他ノ建造物
　　ハ、校具教授用具
　2、兒童ノ視察
　3、教授ノ視察
　4、體育運動ノ視察
　5、疾病ノ治療及診療設備ノ整理
　6、身體檢查ノ補助
　7、衞生教授ノ補助
　8、學校給食ノ補助
　9、調查事務及講話ノ補助
二、校外執務
　1、家庭訪問
　2、家庭訪問ニ關スル注意
　3、運動會、遠足、郊外教授ノ勤務
三、執務簿冊

第五　體育運動

一、體育ハ教育ノ一部ニシテ心身ノ强健ヲ目的トシ智識及德育ト併稱セラル身體ノ適當ナル運動ハ保健上必須ノモノニシテ更ニ心身ノ發育ヲ促進スル重要ナル因子タリ運動ヲ體育ノ目的即チ心身ノ鍛練ヲ心トシテ行フトキハコレヲ體育運動ト云ヒ同シク運動ト雖モ或ハ職業的ニ或ハ保健ヲ度外視シテ單ニ趣味娛樂等ノタメニ行フモノノ如キハ體育運動ト云ヒ難シ要スルニ體育運動ヲ體育ノ目的ニ合セシメ運動ノ效果ヲ發揮セシムルヤウ適當ニ指導監督シ尙一般國民ノ體育運動ノ改善普及ニ關シ適當ナル施設ヲナス

其事務ノ分類ハ左ノ如シ

1、運動ノ教師指導者ニ關スル事項
2、運動ノ教材ニ關スル事項
3、設備ニ關スル事務
4、運動ノ指導教授法ニ關スル事項
5、兒童生徒ノ身體ニ關スル事項
6、運動ノ調査研究奬勵ニ關スル事項
7、虚弱兒童ノ養護即チ學校内及ヒ學校外ニ於ケル養護
　イ、休暇聚落、休暇ニ於ケル特殊養護
　ロ、林間學校、海濱學校等ノ施設機關ニ關スル事項

二、運動ノ效果

1、筋ノ諸機能ヲ增進シ
2、骨ノ發育ヲ盛ナラシメ身長ヲ增シ胸廓ヲ廣クシ
3、呼吸器ノ良好ナル發育ヲ遂クシメ
4、心臟ノ强サヲ增シ血行ヲ旺ナラシメ
5、消化作用呼吸機能ヲ促進シ
6、神經ノ調節機能ヲ高上セシメ

7、皮膚ノ抵抗ヲ强クシ更ニ機敏、耐久、勇氣、自信ノ性ヲ高メ作業能率ノ向上ヲ來タス

凡テ運動ノ野外ノ如キ大自然ニ接シテ行ハシムル事ハ長時間ノ著席又ハ塵芥有毒瓦斯ニ富ム空氣ヲ呼吸スル兒童ニハ一層コノ野外運動ハ必要トス乍併運動ノ種類撰擇ヲ誤リ或ハ實行方法ニ欠クル處アランカ其弊害ノ恐ルヘキモノアルヲ知ラサルヘカラス如何ナル運動ニモ易ヨリ難ニ入リ繼續的ニ漸進スル事ヲ忘ル可ラス殊ニ運動ト休息トハ適當ニ相呼應スヘキモノナル事ニ注意セサルヘカラス

三、運動ト年齢

運動實施ニ際シテハ其種類程度及年齢等ノ關係ヲ充分ニ考慮スヘシ

1、學齢前

コノ時代ノ兒童ニ對シテハ愉快ニ遊ヒ屋外運動ノ機會ヲ豐富ニスヘシ

2、六歳乃至九歳

コノ期ハ筋肉及骨骼等ノ諸機關モ漸次發達スルモ尚ホ筋ヲ鍛練センカ爲メニ相當ナル負擔ヲ筋ニ課スル程ノ度ニ進マサルヲ以テコノ期ニ於テハ筋ヲ同時ニ多數輕ク使用シ呼吸血行ヲ促進シ正シキ姿勢ヲ養ヒ同時ニ興味多キ運動ヲナサシムルヲ可トスルモ疲勞ニ注意スル事肝要ナリ殊ニコノ期ノモノハ腹筋擧固ナラサルヲ以テ後反運動ハコレヲ避クルヲ可トス又背筋弱キヲ以テ肩胛骨ヲ外方ニ移動セシムル等ノ運動ハ其度ヲ過スヘカラス

3、十歳乃至十四歳

コノ期ノ後半期頃ヨリハ筋骨等シク强固トナリ成長モ旺盛ナルヲ以テ呼吸血行ノ促進筋肉ノ練習神經系ノ向上良姿勢ノ養成等ヲ考ヘ背筋運動、懸垂運動、短距離競爭、程度ノ低キ中長距離、跳躍、器械ヲ用フル巧緻運動

又ハ機敏運動ヲ行ハシムヘシ殊ニ球技ハコノ年齢期ヨリ適當トス

4、十五歳乃至十九歳

體育運動實施上男女共心身ノ一大革命ヲ遂クヘキ大切ナル時期ナリトス乃ハチ心身成長ノ完成期ナルヲ以テアラユル運動ノ器械器具ヲ使用シ疾走、跳躍、野球、蹴球、弓術、劍術、柔道、漕艇、スキー、スケート、遠足、登山、水泳等ニツキ其練習ノ程度ヲ强メテ以テ心身發育ヲ促進セシムル必要アリコノ期ハ心身ノ變動著シキヲ以テ一面運動ヲ奬勵スルト同時ニ一面充分ノ休養ヲナサシメ決シテ一般疲勞ニ陷ラシムヘカラス

5、二十歳乃至三十歳

コノ期ハ身體發育ノ程度減退スレトモ迅速性巧緻性ハ尙ホ發達シ勇敢、沈著、剛毅ノ諸性ハ向上スルヲ以テ運動ノ種目程度ニツキテハ尙ホ成長ヲ促進スル事ヲ得又精神上ノ訓練ハ前期ニ比シ一層其ノ度ヲ進ムル事ヲ得

第六　兒童ノ衞生的觀察要項

一、體　質

1、正常體質　各個人ノ體質ハ各人顏貌ノ異ナル如ク體質ニ於テモ亦差アリ各體質中若干ノ共同的主徵ヲ集ムルトキハ正常體質ト看做スヘキモノ左ノ四型ヲ分ツ

イ、呼吸型　コレハ鼻、咽喉、氣管枝、肺等ノ呼吸器ヲ入レテ居ル部分カ他ノ部ニ比シテ大キク顏長ク顎骨突出頸部長ク上腹角ハ銳角ヲナス（後章胸廓ノ部ニアリ）

コノ體型ノモノハ鼻、咽喉、氣管枝ノ「カタル」ニ罹リ易ク肋膜炎肺疾患ニ犯サレ易イ

運動能力ハ相當大ナルモ過勞ヲ戒シムルハ特ニ肝要ナリ

ロ、消化型　コレハ消化器ヲ入レテ居ル部分カ他ノ部ニ比シテ大キク下顎ノ發達ヨリ胸ニ比シ腹部大ナルヲ以テ上腹角ハ鈍角テアル脂肪肥滿ノ人ニ多シ

コノ體型ノモノハ胃腸病、肝臟病、糖尿病、結石病ニ罹リ易キ傾キアリ

優秀ナル運動家タルノ資質ナキモ壯年期以後脂肪肥滿ヲ防クタメ規則的ノ運動ヲ勵行スル必要アリ

ハ、筋肉型　コレハ筋骨ノ發達ヨク胸腹四肢ノ調和可ナリ上腹角ハ中等度ニシテ所謂運動型テアル本型ノ特兆ニハアラサルモ生際ノ一直線ナルモノ多シ

コノ體型ノモノハロイマチス、血管硬化症、腦溢血ニ罹リ易キ傾キアリ

運動能力ハ優秀テアル

ニ、臟型　頭部ハ他部ニ比シ大キク眼、耳モ大ナリ皮膚薄ク抵抗力弱シ手足ハ軀幹ニ比シ少サク殊ニ足カ少サイ

コノ體型ノモノハヒステリー、精神病ニ罹リ易イ運動能力ハ一定度迄ハ上達スルモ優秀ナル運動家タル事克ハス

以上ノ體型ハ幼年時代ヨリ證明シ得ルモ女子ニハ之ヲ證明スル事困難ナリ又年齢ノ進ムニ從ヒ混合型殊ニ消化型ノ率ヲ增加スル傾向アリ

2、異常體質

イ、淋巴腺體質

一、滲出性體質　皮膚粘膜ノ抵抗力弱ハク脂肪ノ發育ヨキモ筋肉ノ發育不良ナリ頸腺頸下線ハ腫脹シ易ク且ツ刺戟性ナリ

二、胸腺淋巴腺體質　身體各部ノ淋巴腺腫脹皮膚蒼白頓死シ易シ

三、皮膚粘膜ノ疾患　腺腫脹ノ他主トシテ神經症狀ヲ伴フ

ロ、腺病質

一、過敏性　體格薄弱頸部胸部四肢等細長肩下垂皮膚蒼白皮下靜脉透見頬部紅色一見怜悧頭髮黒ク上膊能部ニ細毛アリ

二、遲鈍性　皮膚蒼白筋肉ノ發育不良脂肪發育良鼻及唇肥厚顔貌前者ニ比シ遲鈍ナリ

三、無力性體質　身體一般ニ薄弱肩胛骨浮上皮膚蒼白呼吸器系抵抗弱ク疲勞シ易シ精神症狀ヲ伴フ

四、神經質性體質　體格營養等肉體的特質ヨリハ寧ロ行爲擧動上ヨリ其特性ヲ現ラハス多クハ容貌怜悧行動敏捷言語迅速意志轉換シ易ク且ツ容易ニ興奮ス

五、肺癆性體質　體格不良扁平頸部細長胸廓狹少且ツ扁手貧血顔面痩削ス

二、榮　養

一、筋肉　二、皮下脂肪　三、皮膚及粘膜ノ狀態ニヨリ檢査ス卽チ筋肉ニアリテハ一定ノ容積ト緊張、皮下脂肪ニアリテハ其肥痩皮膚竝粘膜ニアリテハ固有ノ光澤ト其彈力ヲ見ル

三、顏　貌

一、痴呆狀顏貌

二、腺樣增殖症顏貌

三、疫咳顏貌

四、耳下腺炎顏貌

五、憂鬱及ヒ苦悶ノ顏貌

六、腺病質顏貌

四、胸　廓

一、胸部ノ形狀

イ、正常胸　ロ、廣胸　ハ、狹胸　ニ、扁平胸　ホ、廢痺胸　ヘ、洋樽胸　ト、鳩胸　チ、漏斗胸

二、上腹角（肋骨ノ傾斜度）

年齡	上腹角	年齡	上腹角
七年	85,5	十四年	94,0
八年	85,5	十五年	95,0
九年	85,0	十六年	95,0
十年	79,0	十七年	91,0
十一年	72,0	十八年	90,0
十二年	72,0	十九年	85,0
十三年	74,0		

五、體　溫

熱ヲ伴フ病

1、傳染性疾患、チフス、麻疹、風疹、マラリヤ、流行性感冒

2、中耳炎、咽頭炎等

六、嘔　吐

嘔吐ヲ伴フ病氣(腦、神經ノ病氣、傳染性特ニ「コレラ」胃腸病、寄生虫其ノ他)

七、下　痢

下痢ヲ伴フ病氣、胃腸カタル、麻疹、「コレラ」赤痢、疫痢其ノ他

八、呼　吸

一、各年齢ニ於ケル平均呼吸數(一分)

初生兒	三五	一—二歲	三〇	二—四歲	二五
四—六歲	二〇	六—十五歲	一八	十五歲以上	一六

二、呼吸數ヲ增加スヘキ原因

イ、體溫上昇、精神感動、身體運動

ロ、呼吸器疾患　咽喉、氣管枝、肺、肋膜等ノ疾患

三、口呼吸

口　臭

九、咳　嗽

1、咳嗽ヲ伴フ病氣

呼吸器疾患(鼻、咽喉、氣管及氣管枝、肺、肋膜等ノ疾患)

2、喘　鳴

噴嚏、咯痰

十、脈　搏

1、各年齢ニ於ケル平均脈搏數

一歲	一三四	一歲—二歲	一一〇	二歲—四歲	一〇八
四歲—五歲	一〇三	五歲—七歲	一〇〇	七歲—十歲	九〇
十歲—十二歲	八五	十二歲—十五歲	八〇	成　年	七〇—七五

2、脈搏數ヲ增減スヘキ原因

イ、精神感動、身體運動

ロ、熱性病、心臟疾患、腦疾患

3、脈搏ノ調律

十一、皮　膚

一、皮膚蒼白　二、紅　色　三、發　疹　四、紫藍色

五、黃　色　六、瘙　痒　七、濕潤　八、浮　腫

九、光澤及彈力　十、毛髮異常　十一、爪異常　十二、潰瘍

十二、瘧　擊

腦脊髓末梢神經ノ疾患、或ハ官能障害、屢々急性傳染病、一般發熱時、胃腸疾患、寄生虫等

十三、一般病弱兒童ニ對スル看護施設

イ、授業免除

ロ、繼續的監察

ハ、學校給食

ニ、就學前強備身體檢査

ホ、職業撰擇

ヘ、兒童衞生相談

ト、學校看護婦

チ、醫務室休養室ノ設備

リ、林間學校

ヌ、田園學校

ル、休暇來蕗

第七　主要學校傳染病消毒物件概要（學校傳染病豫防規程ニヨル）

種類	物件 / 病名	皮膚落屑	膿汁	唾液	鼻汁	病室	便所及附近	衣類寢具	使用器具	吐瀉物	尿	糞
第一類	コレラ					●	●	●	●	●	●	●
	赤痢					●	●	●	●	●	●	●
	チフス					●	●	●	●	●	●	●
	パラチフス					●	●	●	●	●	●	●
	痘瘡	●	●	●	●	●		●	●			
	猩紅熱	●	●	●	●	●		●	●			
	發疹チフス		●	●	●	●		●	●			
	ヂフテリヤ		●	●	●	●		●	●			
	流行性腦脊髓膜炎		●	●	●	●		●	●			
	ペスト		●	●	●	●		●	●			
第二類	痲疹	●	●	●	●	●		●	●			
	風疹	●	●	●	●	●		●	●			
	水痘	●	●	●	●	●		●	●			
	百日咳		●	●	●	●		●	●			
	流行性耳下腺炎		●	●	●	●		●	●			
第三類	結膜		●			●		●	●			
第四類	トラホーム		●			●		●	●			

備考　●印ハ消毒ヲ有スル物件タル事ヲ示ス

第八　消毒藥溶解竝使用法

一、石炭酸水

混合量　防疫用石炭酸三分　水九十七分

製　法　石炭酸ヲ容器ト共ニ溫湯ニ入レ之レヲ溶解シ其ノ所用量ヲトリ之レニ溫湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌シ定量ニ至ラシム

應　用　糞尿吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同量、衣服家具類ハ二時間以上浸漬ス其ノ他器具室內消毒ニ用ユ結核患者唾痰ノ消毒ハ鹽酸加石炭酸水（防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ使用ス可シ

二、昇汞水

混和量　昇汞一分　食鹽一分　水千分

製　法　昇汞及食鹽ヲ水盤ニ入レ置キ攪拌シツツ所定ノ水ヲ加ヘ（溶解シ又ハ昇汞錠（一個中昇汞〇、五グラム）ヲ含ムヲ一錠ニツキ水約五百グラムノ割合ニ溶解ス可シ

昇汞錠ヲ用ヒサルモノハスカレツト又ハフクシンS其ノ他ヲ以テ著色ス

應　用　陶器、硝子器具、木製器具類其ノ他室內消毒ニ用ユ金屬器具、飮食器具、吐瀉物ニハ適セス

三、苛性石灰水

製　法　苛性石灰ニ小許ノ水ヲ加ヘ粉末トナス

應　用　糞尿　吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ其ノ容量二十分ノ一以上ヲ加ヘ充分攪拌シ二時間以上放置消毒後肥料ニ供スルニハ一週間後トス乾燥セル場處ノ消毒ニ適セス船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一其ノ他溝渠等ノ消毒ニ用ユ（普通石灰ヲ使用スル場合ハ苛性石灰ノ倍量ヲ用ユ）

四、石灰水

混和量　苛性石灰二分　水八分

製　法　石灰水ヲ製スルニハ定量ノ苛性石灰ニ徐々ニ水ヲ加ヘ攪拌ス用ニ臨ミ之レヲ製シ其ノ都度コレヲ攪拌ス可シ

應　用　糞尿吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ其ノ五分ノ一ヲ加ヘ攪拌シテ二時間以上放置ス糞尿ハ消毒後一週間ヲ經タル後肥料ニ供ス井戶水槽、汚水等ノ消毒ニハ水量十分ノ一（五十分ノ一ノ石灰）ノ石灰水ヲ用ヒ充分攪拌シテ十二時間以上放置ス其ノ他便所芥溜溝渠等ノ消毒ニ用ユ

五、クロール石灰水

製　法　クロール石灰五分　九十五分（石灰水ノ例ニヨル）

應　用　糞尿吐瀉物其ノ他ノ排泄物ノ消毒ニハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ヲ加ヘ十分攪拌シタル後二時間以上放置ス便所、芥溜、溝渠等ノ消毒ニ用ユ井戶水槽、汚水等ニハ其ノ五百分ノ一ヲ投シ攪拌シ十二時間以上放置船底水ノ消毒ニハ其ノ二千分ノ一ヲ加ヘ二十四時間ヲ經過シタル後コレヲ汲ミ出ス

六、フオルマリン水

製　法　フオルマリン一分　水三十四分

應　用　衣類寢具敷物布片等ノ消毒ニハ二時間以上浸漬ス器具類其ノ他物品及室內ノ消毒ニ用ユ

七、フオルムアルデヒード

製法　フォルマリンヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニヨリ發生セシム

應用　衣類寢具敷物布片圖書其ノ他ノ器具物品其ノ他室內消毒ニ用ユ室內消毒又ハ函內(密閉ヲ要ス)消毒ヲナス容積百立方尺ニ付キフォルマリン四十グラム以上噴霧シフォルムアルデヒード十五グラム以上發生セシメ同時ニ百グラム以上ノ水ヲ蒸發セシメ七時間以上密閉物品ノ內部マテ消毒スルニハ眞空裝置ニヨル

第九　日常清潔法ニ對スル注意

於大正十二年學校衛生技師會議文部大臣答申

一、兒童生徒ヲシテ掃除ヲナサシムル場合ハ左記事項ニ注意スルコト

イ、掃除ヲナサシムルモノハ學校醫ニ於テ健康者ト認メタルモノニ限ル

ロ、掃除ハ受持教師必ラス指導監督ノ任ニ當タル事

ハ、掃除ヲナスモノハ必ラス專用ノ「マスク」ヲ用ヒシメ可成掃除服ヲ使用セシムル事

ニ、便所唾壺其ノ他衛生上特ニ注意ヲ要スヘキ場所ハ行ハシメサル事

ホ、掃除後ハ必ラス手足ヲ清洗セシムル事

一、雇傭人ヲシテ掃除セシムル場合ハ掃除後教職員ノ檢査ヲ受ケシムル事

一、備附ノ唾壺ニハ常ニ適當ナル消毒藥ヲ入ルル事

一、靴ノママ昇降スル場合ハ(カバー)又ハ上靴ヲ使用シ出入口ニハ人員ニ應シタル靴拭及靴洗器ヲ設備スル事

一、寢具ハ少ナクトモ毎週一回消毒ヲ行フヘキ事

一、便所ノ樋箱ニハ必ラス蓋ヲ備フヘキ事

一、便所其ノ他出入口ノ引手等ハ毎日一回消毒藥液濕布ヲ以テ拭フヘキ事

一、糞壺ハ防臭及殺虫劑ノ適當ナルモノヲ用ヒ防蠅ノ方法ヲ講スヘキ事

一、食器及食堂用器具ハ常ニ不潔ニ陷ラサル樣注意スル事

一、障子ノ窓掛、敎具及生徒共用校具、器具、運動用具ノ清潔保持ニ注意スル事

一、塵芥棄場ノ不潔物ハ其ノ日ヲ愆ラス燒却又ハ搬送セシムル事

一、下水ハ常ニ疎通セシメ炊事場浴室洗面所洗濯所等ノ下水ハ少ナクトモ毎月一回大掃除ヲ行ヒ石油乳劑又ハ石灰乳等ヲ撒布スル事

一、校舍內ノ塵芥除去ノタメ鋸屑籾殼其ノ他ノモノヲ使用シ掃除ヲナス事

一、運動場ニ於ケル塵芥飛散ヲ防止スル爲適當ノ設備ヲナス事

一、庭園物置倉庫體操場遊戲場簷下椽下戶棚押入等モ亦常ニ清潔ヲ保ツヘキ事

一、牀板、壁面等ニ虧隙アルモノハ之レヲ塡塞シ風秡穴、煙突等ノ塵煤ハコレヲ除去スル事

第十　便所ノ構造設備ニ就テ

1、便所ノ敷地ハ地盤ヨリ三寸以上ノ高サトシ雨水ノ流入ヲ防クヘキ裝置ヲナス事

2、糞尿壺及尿桶ハ全部釉藥ヲ施シタル甕又ハ不透滲質ノ材料ヲ以テ構造スル事

3、糞尿壺ノ上椽周圍ハ厚サ三寸以上ノ「セメント」又ハ漆喰敲ニテ漏斗狀トナス事

4、糞壺內ニ蠅類ノ出入及光線ノ射入ヲ防クヘキ覆蓋其ノ他適當ノ設備ヲナス事

5、汲取口ハ直接國道又ハ市街地ノ道路ニ面セシメサル事
6、大便所ノ踏板ハ叢壺ヨリ一尺以上ノ高サトスル事
7、大便所ニハ木材其ノ他ノ材料ヲ以テ適當ナル戸ヲ附スル事
8、公衆便所ハ道路ニ背面シ其ノ三方ニ高サ五尺以上ノ目隱及雨覆ヲ設クル事
9、公衆便所ノ壁羽目ハ石煉瓦其ノ他不透滲質ノ材料ヲ以テ高サ一尺以上ニ築造シ小便所内部壁羽高サ三尺以上ノ漆喰「コンクリート」其ノ他不滲透物質ヲ以テ築造シ溝斗ヲ附セサル場合ハ踏板ハ尿樋ヨリ七寸以上ノ高サトシ反射防止ノ裝置ヲナス事
10、公衆便所ニハ標燈ヲ設ケ夜間點燈スル事但シ夜間使用セサルモノハ此ノ限リニアラス

第十一　飲料水ニ就テ

飲用水井泉ハ便所、家畜舍、塵芥溜、堆肥場、汚水溜、下水溝、水田若クハ墓地ノ境界ヨリ二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

1、地面ヨリ井底迄ハ二間半以上ノ深サニ掘穿スル事
2、井泉壁ハ地面ヨリ深サ二間以上不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ其ノ接合部ニハ漏水防止ノ裝置ヲナス事
3、地面ヨリ高サ二尺以上ヲ有スル不滲透質物質ノ井筒ヲ設クル事
4、井泉周圍ノ地表二尺以上ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造スル事
5、汚水排泄溝ハ井水ヨリ二間以上不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ適當ノ勾配ヲ附スル事
6、土地ノ狀況ニヨリ井泉ヲ距ル二間以内ノ地ニ汚水溜ヲ設置セントスルトキハ不透滲質ノ材料ヲ以テ之ヲ築造スル事

7、五戸以上ノ共用若シクハ工場(工場法適用ヲ受クルモノニ限ル)旅居、料理店、飲食店、浴場、飲用水販賣營業者ノ使用スル井泉ハ覆蓋及喞筒ヲ裝置スル事但シ井泉ノ深サ又ハ水質ニヨリ之レヲ省略セシムル事アル可シ
8、五戸以上ノ共用ニ係ル井泉ニハ適當ノ方法ニヨリ管理人ノ氏名ヲ標示スル事

第十二　救急處置

救急ノ處置タル何人ト雖ヘトモ普ク習得シ練磨ノ必要アリ就中家庭ニアリテハ主婦、學校ニ於テハ教職ニ在ル人ニ救急處置ノ智識ノ必要ナルハ言ヲ俟タサル所テ元ヨリ學校ニハ學校醫、家庭ニハ家庭醫アリトスルモ學校ニ於ケル急病又ハ不慮ノ災害ニ際シテハ先ツ第一ニコレカ處置ニ當ルハ學校職員ナリ然レトモコノ救急處置タルヤ所謂醫師ノ來ル迄ノ應急手當ナルヲ以テコノ處置ノ後ニハ醫師ノ處置ノアルヘキ事ヲ忘ルヘカラス猥リニ眞ノ治療領域ニ關スヘキ事項迄取リ扱フ事ハ不可ナリトス

一、損　傷(外傷)

損傷トハ鈍體又ハ銳體ニヨル打撃、衝突、接觸、其ノ他轉倒ニヨリテ來タシ易ク普通震盪症、皮下損傷、開放性損傷ニ分カツ

1、震盪症中特ニ學校ニ於テ注意ヲ要スルハ腦震盪症ナリ(失神條下ニ述フ)
2、皮下損傷　コレハ鈍體ノ打撃、重物ノ落下、歩行、其ノ他捻轉等ニヨリ起ル外見上皮膚ハ損傷ナキカ又ハ僅カニ表皮ノ剝脫ヲ見ルモ主トシテ外皮下ニ損傷ヲ來タス普通輕キモノハ捻挫又ハ打身ト云ヒ局部ニ疼痛皮下出血ヲ伴フモノアリ

處置　局部ノ安靜簡單ナルモノハ稀釋沃度丁幾ノ塗布又ハプリースニツツ氏壓法ヲ施ス、表皮剝脫セルモノハ消毒ノ意味ニヨリ沃度丁幾塗布ヲ實用ス皮下損傷ニハ往々骨折ヲ伴フ事アリ如斯キ場合ハ直チニ醫治ヲ受ク可シ（骨折條下ニ述フ）

3、開放性損傷　コレハ銳器又ハ鈍體ノ打撲、打撃、衝突ヨリ起ル其ノ狀態ニヨリ左ノ如ク分類ス

切創　刺創　挫創　咬創　銃創

損傷手當ノ注意

損傷ヲ處置スル場合ニ注意スヘキ事ハ損傷ヲ蒙ムリタル局部ノ防腐ヲ完全ニシ創内ニ異物其ノ他病源菌ノ侵入ヲ防キ治癒ヲ早ヤカラシムル事ニアリ凡テ局部ニハ決シテ消毒セサル手又ハ器械類ヲ觸ルヘカラス

處置　局部ニハ沃度丁幾ヲ塗布シ消毒綿紗ヲ以テ被ヒ繃布ヲ施ス異物アルトキハ速カニ除去シ過酸化水素ニテ清拭スルカ又殺菌セル硼酸水ニテ洗滌シタル後前記ノ處置ヲナスヘシ出血著シキトキハ止血法（後章ニ於テ述フ）例三四肢ノ下部ノ出血ニハ其出血點ノ上部ニ止血布ヲ施シ局部ニハ消毒ガーゼヲアテテ繃布シ速カニ醫治ヲ受クシム

二、出　血

コレニハ動脈性、靜脈性、毛細管性アリ最トモ恐ルヘキハ動脈出血テアル

1、毛細管出血　平等ニ徐々ニ浸出ス

處置　自然止血ヲ待ヲ遲キトキハ防腐的輕壓迫布ヲ施ス

2、靜脈性出血　其色暗紅色搏動ニ乏ス事ナク徐々ニ流出ス

處置　局部擧上防腐的壓迫布ヲ施ス

3、動脈性出血　其色鮮紅色ニシテ搏動ニ應シ脈ヲ搏ツカ如ク線狀ニ迸出ス

處置　四肢ニ於テハ動脈出血ハ直チニ出血點ヨリ稍離レタル上部ニ指壓又ハ止血布ヲ强ク纏絡血行ヲ阻止ス纏絡至難ナル場所ハ局部ニ多量ノ消毒ガーゼヲ固ク挿入シ醫師ニ急報スヘシ

患者ノ輸送其ノ他必要ナル場合ノ外猥リニ動カスヘカラス動搖ニヨリ多量ノ失血ヲ來タシ危險ニ陷ル事アリ大出血ヲ來タセル患者カ虛脫症狀ヲ現ラハス事アレハ頭部低下安臥等ニヨリ心臟ニ血液ヲ送ル樣ニナス

內出血ニ就テ

コレハ諸體腔例之胸腔腹腔頭蓋腔胃腸管腔膀胱等ノ內部ニ出血シ外部ヨリ全ク目擊スル事能ハス乍併急激ナル貧血虛脫ノ症狀アラハ醫ノ急診ヲ受ク患者ハ絕對安靜トシ脈搏ニハ常ニ注意スヘシ

鼻血ニ就テ

コレハ鼻梁ノ打撲、衝突鼻カタル肺結核ノ初期、密集セル室內ニテ溫度ノ上昇シタルトキ又ハ炭酸瓦斯中毒、女子ニハ月經ノ代リニ來タル事アリ

鼻血ノ處置　鼻翼ノ壓迫、原因ノ除去、病的ノモノハ其ノ原因療法ヲ施ス

鼻血ノ學校ニ於ケル臨時ノ處置

先ツ頭部ヲ上ケ深呼氣ヲナサシメ衣布ノ緩解鼻梁部頭部ノ冷却安靜消毒ガーゼ又ハ消毒綿花塊ヲ以テ鼻孔ヲ閉塞ス

喀血ニ就テ

主トシテ肺結核ノ咳嗽ニ伴ヒ來タル其ノ色ハ鮮紅色ニシテ多少ノ泡沫ヲ交フ

處置　半臥位トシ絶對安靜ヲ命シ衣布緩解呼吸ヲ容易ナラシメ談話ヲ禁止シ稍濃厚ナル食鹽水ヲ服用セシム

喀血時ノ注意

1、喀血シタル血液及其ノ場處ハ二十倍石炭酸水(昇汞ハ不可)ニテ消毒シ使用ノ布片紙片ハ燒却ス

2、患者ノ慰安

3、喀血其ノモノハ生命ニ對スル危險率少ナク喀血ニヨリ死ヲ來スモノハ專門家ノ統計ニヨレハ1%內外ト云フ

吐血ニ就テ

吐血ハ嘔吐ニ伴ヒ胃ヨリノ出血ニシテ其色暗紅ナリ檢便上コーヒ殘渣ノ如キ觀アリ

處置　絶對安靜ヲ命シ氷片ヲ與フコレハ內出血中ニ屢々遭遇スル事アリ醫ノ急診ヲ乞フ可シ

三、骨　折

原因ニヨリ直達性介達性ヲ區別シ又其ノ狀態ニヨリ皮下骨折、複雜骨折、不全骨折、全骨抗ニ分カツ

症狀　局部ノ變形運動障碍摩擦音局部ノ腫脹疼痛變色又複雜骨折(開放骨折)ニハ出血ヲ伴フ

處置　骨折ノ疑アルトキハ徒ラニ手ヲ下ス事ナク安靜ヲ命シ醫師ヲ迎フヘシ又醫師ニ送ル場合ハ四肢ニアリテハナルヘク副木ヲ利用シ運搬用ノ臥床ニハ戶板ノ如キ固キモノヲ用ヒ臥位ノママ局部ノ動搖セサル樣心掛クヘシ

四、脫　臼

コレモ直接間接ノ外力ニヨリ起ルコレハ關節ヲ造ル骨端カ不自然ナル方向ニ轉位スルタメ靭帶及囊靭帶カ破レテ骨端ノ脫出スルモノニシテ屢々骨折ヲ合併スル事アリ

處置　疼痛ナキ樂タト云フ位置トシ直チニ醫治ヲ乞フヘシ脫臼ノママ長ク放置スルトキハ陳舊性ニ陷リ無觀血的ニハ整復困難ナル事アリ又無理ニ整復セントシテ骨折ヲ起スコトアリ注意ヲ要ス

五、火　傷

火傷ハ種々ノ原因例ヘハ熱湯、蒸液蒸氣、焰熱固體、其ノ他電氣、化學的腐蝕劑ニヨリテ身體ヲ損傷スルモノヲ云フ

火傷ハ其ノ程度ニヨリ三度ニ區別ス

第一度　皮膚赤ク腫レ疼痛ヲ感スルモノ

第二度　皮膚ニ淡黃色液ヲ含ム水泡ヲ生シ或ハ表皮ノ剝脫スルモノ

第三度　皮膚ノ一部ニ布黑色ノ壞死所謂燒痂ヲ形成シ感覺ヲ失フモノ

處置

第一度ノモノニシテ局部小ナルモノハオレフ油又ハクリスリン、卵ノ白昧硼酸軟膏ヲ塗リ其ノ上ヲ綿ニテ輕ク被ヒ繃布ヲ施セハ大抵ハ治療シ得若シ疼痛甚タシキトキハ五十倍硼酸水ノ罨法ヲ行フ

第二度ノ火傷ニテ水泡稍大ナルトキハ疱ノ側面ヨリ消毒セル針ヲ通シ液ヲ漏ラシ決シテ表面ノ上皮ヲ除去スヘカラス水疱液ヲ漏出セル後ハ其ノ上ニ硼酸末又ハデルマトール末ヲ撒布シテ輕ク繃布スヘシ

第三度ノモノニ於テモ殆ント第二度ノモノト同シ而シテ第一度ノモノニテモ稍大ナルモノ及ヒ第二度第三度ノ火傷ニアリテハ直チニ醫治ヲ受クルヲ可トス

化學的腐蝕劑ニヨル火傷ノ處置

先ツ局部ヲ充分ニ洗滌シテ腐蝕藥品ヲ除クヘシ

1、酸性腐蝕劑(強硫酸、濃鹽酸、濃硝酸)ノトキハ多量ノ水ニテ水洗シ場合ニヨリ局部ヲアンモニヤ水ヲ浸タセル脫脂綿ニテ拭ヒテ殘餘ノ酸ヲ中和シ再ヒアンモニヤ水ヲ洗ラヒ落シ其ノ損傷ノ程度ニヨリ手當ヲ行フモノトス

2、アルカリ性腐蝕劑(濃苛性カリ液、苛性曹達液)ノトキハ前記ノアンモニヤ水ニ代フルニ稀キ食醋ヲ以テアルカリノ中和ヲ計リ再ヒ食醋ヲ洗ヒ落シタル後ハ五十倍硼酸水ノ罨法ヲ行フ

火傷ニ際シテノ注意

1、重症ナル火傷ヲ受ケタルトキニハ往々口渇ヲ伴フニヨリ溫湯ヲ度々與フルヲ可トス又衰弱セルモノニハ約二倍位ニ薄メタル赤酒ヲ少量ツヽ與フ

2、衣服カ燃ヘツヽアルトキ狂奔スルモノアリ如斯キ場合ハ靜カニ地上ニ伏シ被具、毛布、天幕等ヲ以テコレヲ覆ヒ火焰ヲ消シ然ル後ニ衣服ヲ剪等シテ却去スルヲ要スコノ際著衣等ニ水ヲ注キカクルトキハ却テ不可ナル事アリコノ他臨機ノ措置ヲ行フヘシ

六、凍傷　コレハ學校ノ生徒ニ比較的多シ

第一度　皮膚粗糙腫脹疼痛アリ其ノ慢性トナリタルトキハ凍瘡ト云フ

第二度　皮膚藍色ヲ帶ヒ水泡ヲ生ス

第三度　皮膚暗青色無感覺トナリ水疱又ハ痂皮ヲ生ス甚タシキトキハ一部ノ組織ヲ壞疽トナス

豫防法、凍傷ニ罹リ易キ人ハ豫防ニ勉ムヘシ

1、入浴ヲ頻繁ニ行フ事

2、清潔保持ト水ノ使用後濕潤ノママ放置セサル事

3、凍傷ニ罹リ易キ部ハ不絕摩擦スヘシ

4、榮養ヲ克シ脂肪性食事ヲトル

5、濕潤セル手袋、足袋、靴下ヲ用サル事

6、凍傷ニ罹リ易キ人ハ局部ニ凍傷膏又ハワセリンノ塗布ヲナスヘシ

處置

第一度ノトキハカンプル丁幾ノ塗布又ハ溫罨法ヲナス

第二度ノトキハ水泡ヲ防腐的ニ破リ內容ヲ排出シ硼酸軟膏又ハデルマトール膏、チオノール膏ヲ貼用ス

第三度及第二度ノ重キモノハ醫治ヲ受クルヲ可トス

筒單ナル凍傷膏トシテ左記處方ノモノヲ賞用ス但シ粘膜ニ觸レサル樣注意スヘシ

炭酸クレオソート	一、〇
樟腦	一、〇
ペルバルサム	五、〇
黃色ワセリン	五〇、〇 (三共製)

コレハ手足ヲ洗ヒタル後皮膚面ヲ乾カシ薄ク塗リ込ムトキハ有效ナリ

七、失　神

コレハ種々ノ原因ヨリ來タル學校ニ於テハ腦貧血、腦充血稀レニハ腦震盪テアル

1、腦貧血　先ツ玄暈顏面蒼白冷汗意識消失シテ卒倒ス甚タシキトキハ假死ニ陷ル主トシテ飢餓、睡眠不足、大出血後、高度ノ疲勞、高度ノ精神感動、密閉室內ニ於ケル多人數集合時ニ來タル

處置　衣帶緩解呼吸ヲ容易ナラシメ同時ニ頭部低下安臥、アンモニヤ瓦斯ノ吸入、覺醒後（失神中ハ飮料水ヲ與フヘカラス）赤酒、火酒等ヲ小量ニ與フ

2、腦充血　顏面潮紅耳鳴頭痛玄暈痙攣ヲ起シ卒倒ス主トシテ精神亢奮心臟病、飮酒、夏期過激ナル運動ヨリ起失神狀態長引クトキハ人工呼吸法（後章ニ述フ）ヲ行フヘシ

處置　衣帶緩解頭部高位安臥頭部ノ冷却芥子泥貼用又ハ芥子浴又ハ耳後ニ數條ノ水蛭ヲ貼用ス

3、腰震盪　墜落、衝突、顚倒又ハ打撲ニヨリ起リ易シ顏面チアイゼ皮膚蒼冷呼吸淺表、精神朦朧甚タシキハ人事不省ニ陷ル事アリ

處置　暗室ノ安臥、頭部ノ氷囊、下腹部ノ保溫、アンモニヤ瓦斯ノ吸入醒覺後赤酒又ハ其ノ他ノ亢奮藥ヲ與フ

凡テ卒倒ノトキハ右救急處置ヲ行フト共ニ醫師ニ急報スヘシ

八、日射病、熱射病

強烈ナル日光ノ直射ニヨルヲ日射病ト云ヒ、蒸セ暑キトキニ運動行軍等ヲナシ體溫ノ發生高ク其ノ發散ヲ妨ケラルルトキニ起ルヲ熱射病ト云フ

症狀トシテハ流汗著シク頭痛玄暈呼吸困難意識ノ明了ヲ缺キ應答不確實顏面潮紅脈細少步行蹣跚卒倒シ易ク時トシテ躁狂狀態トナル事アリ

豫防トシテハ原因ヲ避ケ空腹、睡眠不足ニ陷ラサル樣注意スヘシ

處置　樹蔭又ハ屋內ナラハ通風ヨキ處ニ移シ衣帶緩解頭部高位靜臥胸部顏面ノ冷水灌漑時トシテ人工呼吸法ヲ施シ覺醒後ハ亢奮藥ヲ與フ

九、胃痛、腹痛

學校ニ於テ起ルモノハ飮食物ニヨル不攝生、腹部冷却、便秘、寄生蟲、其ノ他中毒等カ原因トナル

處置　平臥安靜ヲ命シ胃痛ニハ心窩部、腹痛ニハ下腹部ニ溫罨法、溫石等ヲ施シ場合ニヨリ溫キ茶又ハ葛湯ヲ與ヲ原因ヲ極メスシテ猥リニ服藥セシムル如キハ注意スヘキ事ナリ殊ニ傳染病ノ疑アルトキハ其處置ヲ過タス醫治ヲ求ムヘシ

十、嘔　吐

主トシテ過食、胃疾患、寄生蟲、其ノ他疾病ノ附隨症トシテ起リ其ノ他船暈、腦病、妊娠、熱性傳染病等ノ原因ニヨル事ハ已ニ周知ノ事ナリ

處置　嘔吐ニ際シテ吐物カ氣道ニ滲入スル事ヲ防クタメニ橫臥セシメテ吐出セシム吐物ヲ入レタル容器ハ患者ヨリ遠ケテ保存シ醫師ノ檢査ニ便ナラシムヘシ嘔吐後ハ絕對安靜ヲ命シ場合ニヨリテ小氷塊ヲ與フヘシコノ場合清涼飮料水ヲ過量ニ與ヘサルヲ可トス吐物等ニハ刺戟サレタル食道口腔其ノ他ノ粘膜ヲ淸淨スル意味ニヨリ番茶ノ

小量ヲ與フルヲ可トス

十一、溺　水

水ニ入リタル際反射的ニ筋痙攣ヲ起シ運動不能トナリ又ハ游泳中ニ急ニ脾筋ノ拘攣ヲ來タシ運動ノ自由ヲ失ヒタルトキ又ハ過失、自殺ノ目的ニ由リ溺水ヲ來タス溺水者ノ多クハ水ヲ嚥下スルタメニ死スルモノ少ナク又ハ泥土其ノ他ノ異物カ氣道ニ入ルタメニ窒息ニ陷ルモノナリ

處置　直チニ水中ヨリ引キ上ケ口腔及鼻腔内ノ泥土等ノ異物ヲ掃ヒ出シ速カニ水ヲ吐カシムヘシ卽チ溺水者ノ腹部ニ枕樣ノモノヲ當テ頭部ヲ低下シ顔ヲ横ニ向ケテ臨腹ヲ壓迫シテ吐出セシムルカ又ハ溺水者ノ復部ヲ救助者ノ膝ニ當テ俯サシメテ水ヲ吐カス又ハ場合ニヨリ人工呼吸法ヲ行フコノ人工呼吸法ヲ行フニ當リテハ溺水後一時間以上ヲ經タルモノニテモ奏效スル事アルヲ以テ根氣ヨク持續シ中途ニテ廢スヘカラス幸ニ蘇生シタルトキハ溫繃中ニ移シ體溫保持ニ勉ムヘシ正氣ニ復シタルトキハ湯茶、コーヒ又ハ小量ノ赤酒ヲ與ヘ後醫治ヲ受クヘシ

十二、人工呼吸法ト其ノ應用

人工呼吸法ハ假死ニ陷リ自ラ呼吸スル事能ハサルモノニ施シコレヲ蘇生セシムル方法ニアル其ノ法ハ先ツ假死者ノ上體ヲ裸ニシテ仰臥セシメ鳩骨部ニ枕ヲ當テテ高クシ次キニ空氣ノ出入ヲ自由ナラシメンカ爲メ舌ヲ引出シテ介者ニ持タシメ施術者ハ假死者ノ腰部ニ跨リ左右ノ手掌ヲ乳嘴ノ下外側ニアテ全力ヲ以テ季肋骨ヲ後上方ニ壓シテ肺中ノ空氣ヲ逸出セシメ次ニ急ニ手ヲ放スト手壓ヲ除カレタル胸廓ハ自然ノ彈力ニヨツテ舊形ニ復スコノ際外氣ハ肺中ニ進入スコレヲ一分間十回以上二十回位ノ速度ニテ假死者ノ自ラ呼吸シ得ルニ至ル迄行フ大抵十數分間ニテ蘇生スルモ時トシテ一時間以上ヲ要スル事アリ僅カ數分間人工呼吸法ヲシテ自然呼吸ヲ營マサルトキニ於テマトヲ中止スルカ如キ事ハ決シテナスヘカラス何處マテモ蘇生セシムト云フ熱心ト忍耐ヲ必要トス又一方醫師ヲ迎ヘシムヘシ人工呼吸法ニハ種々アルモ上述セルモノハ最トモ簡單ナルモノナリ

第十三編　任免

●縣公報ヲ以テ任免公示ノ件

（大正十五年九月二十一日　學務部長ヨリ各市町村長各小學校長各實業補習學校長宛　教第六五五一號通牒）

爾今小學校訓導竝實業補習學校專任校長、教諭、助教諭ノ任免ハ本人ニ辭令ヲ交付スルノミナラス縣公報ヲ以テ公示可相成候條御了知相成度此段及通牒候也

●【一年】現役ニ服スル小學校正教員配置ニ關スル件

（大正十年四月十二日　學第一五五八號通牒）

內務部長ヨリ各郡市長宛

【一年】現役ニ服スル小學校正教員ノ配置ニ關シ別記ノ通リ其筋ヨリ通牒有之候條右教員ノ配當ヲ受ケテ其ノ任用方上申ニ際シテハ充分御考慮相成度此段及通牒候也

記

【一年】現役小學校教員俸給費國庫負擔法實施ノ結果市町村ニ於ケル一年現役小學校教員ノ俸給費ハ國庫負擔トナツタノデアルガ尙斯ノ如キ教員ヲ配當セラレタ市町村ニ於テハ其ノ入營中恩給基金納付ノ義務ヲ負ヒ又萬一死亡シタ場合

ニハ死亡賜金支給ノ義務ヲモ負擔スルノデアル依テ斯カル教員ハ其ノ市町村トノ關係上除隊後モ事情ノ許ス限リ其ノ市町村ニ勤務セシムルヲ穩當トスル次第デアル就テハ（一年）現役ニ服スヘキ教員ノ配當ニ關シテハ貴縣ニ於テモ相當御考慮ノコトト思ハルルモ將來ハ或ハ兒童數ノ增加ニ伴フ學級ノ增設學級編成ノ狀況及現任教員轉免ノ關係等ノ事情ニ依リ次年度ニ於テ教員ノ增員、缺員等ヲ來ス見込アル學校ヲ有スル市町村ニ配置シテ或ハ成ルヘク多クノ學級ヲ有スル市町村ニ配當シテ將來教員ノ配置任用交迭等ニ當ツテ裁量ノ餘地ヲ多カラシムル等夫々機宜ノ方法ヲ執リ斯ノ如キ教員カ除隊後モ引續キ當該市町村ニ勤務シ得ル樣十分ナル御配慮有之度命ニ依リ此段通牒シマス

●專科訓導ヲ准訓導トシテ任用ニ關スル件

（大正十一年六月二十四日）
（學第二九三九號通牒）
內務部長ヨリ各郡市長宛

從來縣下小學校ニ於テ專科訓導ヲ同一學校准訓導トシテ任用シタル例アルモ爾後詮議不相成事ニ閣議決定致候條御了知相成度此段及通牒候也

備考　訓導ト准訓導ト併セ勤務スルトキハ加俸給與上支障アルニ依ル

●代用教員採用內申添付書類ノ件

（大正十五年九月十六日）
（教第六三八一號通牒）
學務部長ヨリ小學校長實業補習學校長宛

教員採用方內申ニ就テハ本人ノ履歷性行等十分調査セラルルハ勿論ノ事ト被存候共特ニ代用教員採用ニ付キテハ本人カ卒業又ハ修業シタル學校長ニ照會シ學業成績證明書竝性行人物等ニ關スル該學校長ノ意見書ヲ添付相成度尙修業後相當年月經過ノ者ニ付キテハ其ノ經歷等十分調査ノ上內申相成度此段及通牒候也

追テ縣下中學校長ニ對シテハ右樣ノ照會アリタル場合ハ詳細取調回答スル樣達シ置キ候間御了知相成度

●無資格教員採用ニ關スル件

（大正十五年九月十六日）
（教第六三八一號通牒）
內務部長ヨリ中等學校長宛

貴校卒業生又ハ修業生ヲ教員ニ採用ノ爲小學校長又ハ實業補習學校長ヨリ在學中ノ學業成績等ニ關シ照會アリタル場合ハ本人ノ學業成績竝性行等教員トシテ適否ヲ判定スヘキ參考資料ヲ與ヘラレ度此段及通牒候也

●職員採用及增俸內申ノ件

（大正十二年六月二十三日）
（學第三〇二九號通牒）
內務部長ヨリ各縣立學校長宛

職員ノ採用及ヒ增俸ヲ要スル場合ハ爾今左記要項ヲ具シ內申相成度依命此段及通牒候也

記

職員採用內申所要事項

一、採用調

1　新任ノ場合

學校名	職名	俸給	氏名

2　轉任兼任ノ場合

轉任學校名	俸給	現任學校名	職名	俸給支給年月日	氏名

二、擔任教科竝每週時數

三、採用ヲ要スル事由

四、履歷書

書式左ノ如シ（俸給特別處分ニ付文部大臣ノ指揮ヲ承クルヲ要スルモノニ在リテハ二通提出ヲ要ス）

履歷書　（用紙美濃罫紙）

本籍

現住所

族籍舊氏名

位勳功學位爵　氏　名　㊞

年月日	學業	免許狀	任免	賞罰	學校官衙

備考

一、履歷書ニハ學業。試驗合格。免許狀。官職。俸給。手當。叙位。叙勳。賞罰。非職。休職。恩給。退隱料。賜金。從軍。服役。外國派遣。歸朝。其ノ他職務ニ關シ受ケタル辭令等總テ年月日順ヲ以テ記載ノコト

二、官廳學校等ノ廢置。官制改正。官等俸給令改氏名等ノ事項ハ朱書ノコト

五、身元證明書（初任者ニ限ル）

明治三十三年勅令第一三四號教員免許令第五條ノ各號ニ該當セサル者タルコトヲ證明シタルモノ

六、身體檢査書（現ニ奉職中ノ者ハ之ヲ要セス）

大正九年文部省令第一六號身體檢査規程ニ依リ調製シタルモノ但シ採用內申ノ際診斷シタルモノヲ要ス

七、豫算及現在職員調

俸給豫算月額	職員定員	職員現在數		内申俸給月額	内申俸給ト差引タル俸給額
		有資格	無資格		豫算殘額

八、俸給特別處分ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ事由ノ詳細職員增俸內申所要事項

一、增俸調

增俸額	現俸額	現俸受給	職氏名
何級俸（何圓）	何級俸（何圓）	年月日	
何級俸（何圓）	何級俸當分何圓		

二、增俸ヲ要スル事由

三、豫算及現在職員調（採用內申ノ分ニ同シ）

四、俸給特別處分ニ付文部大臣ノ指揮ヲ承クルヲ要スル者ニ在リテハ詳細其ノ事由ヲ具シ履歷書（採用內申ノ分ニ同シ）添付ヲ要ス

●實業補習學校教員資格昇進內申ニ關スル件

（昭和三年五月二十六日）
（教第二四九九號通牒）

學務部長ヨリ各實業補習學校長宛

從來實業補習學校教員資格昇進ニ關シテハ其ノ都度內申相成候處今後ハ每年六月末日及十二月末現在ヲ以テ該當者調査ノ上左記要項ヲ具シ內申相成度此段及通牒候也

記

一、氏名
一、出身學校名又ハ教員免許資格
一、實業補習學校助教諭勤務年數
一、實業補習學校勤務ニ關スル履歷
一、實業補習學校勤務ノ成績

●公立實業補習學校助教諭心得ニ關スル件

（大正十年四月八日
三重縣令第三十九號）

大正十年四月一日ニ於テ現ニ公立實業補習學校教員中教諭又ハ助教諭以外ノ職ニ在ル者ニ對シ別ニ辭令書ヲ交付セサルトキハ當該學校ノ助教諭心得ヲ命シタルモノトス

●青年訓練所指導員進退ニ關スル件

（大正十五年九月二十日
教第六四一七號通牒）

學務部長ヨリ各公立青年訓練所主事宛

標記ニ關シテハ青年訓練所令及同規程施行細則竝同處務規程ニヨリ夫々內申可相成筈ニ候處右ニ準據セサルカ爲ニ其ノ內申書類不備ノモノ多ク處理上遺憾不鮮候條左記留意相成度爲念及通牒候也

記

一、現ニ公立學校敎員ノ職ニ在ル者ヲ指導員ニ囑託セムトスル場合ハ青年訓練所令及同規程施行細則第二十條ニヨリ主事ニ於テ內申ヲ要スルト共ニ其ノ手當額ニ關シテハ同處務規程第十三條ニヨリ管理者ノ意見書添付ヲ要ス（內申樣式同細則第八號）

一、右以外ノ者ヲ指導員ニ囑託セムトスル場合ハ前項ノ外本人ノ履歷書、身體檢査書及施行細則第十九條ニヨル市町村長ノ身分證明書添付ヲ要ス

一、指導員ノ願出解職ニ關スル內申ニハ本人ノ願書添付ヲ要ス

一、指導員ノ死亡及改姓名ノ場合ハ其ノ旨主事ヨリ屆出ヲ要ス

●退官退職又ハ休職者再就職ニ關スル件

（大正十二年十一月二十六日
學第四五八六號依命通牒）

內務部長ヨリ鄙市長縣立學校長宛

今般退官退職又ハ休職ヲ命セラレタル文官又ハ官吏ノ待遇ヲ受クル者ノ再就職ノ場合ニ於テハ別紙ノ通閣議決定相成候趣ニテ其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條貴部內學校敎員ノ進退ニ關シテハ左記ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

記

一、自己ノ都合又ハ病氣ニ因リ退官若クハ退職シ又ハ事務ノ都合ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ハ爾後三ケ月以上ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ採用セサルコト

一、特別ノ事情ニ依リ採用ヲ必要トスル場合ニ於テハ豫メ其ノ事情ヲ具シ繼伺スルコト

一、退官退職又ハ休職ヲ命セラルル際昇級シタルモノ再就職ノ場合ニ於テハ其昇級ハ之ヲ認メサルコト

以　上

（別　紙）

文官又ハ官吏ノ待遇者再就職ノ場合ニ於ケル制限

一、自己ノ都合又ハ病氣ニ依リ退官若クハ退職シ又ハ事務ノ都合ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ハ爾後三ケ月以上ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ採用セサルコト

一、特別ノ事情ニ依リ採用ヲ必要トスル場合ニ於テハ其事情ヲ詳細ニ具シ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クルコト

一、退官退職又ハ休職ヲ命セラルル際所定ノ年限ニ達セスシテ特ニ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ昇給シタルモ再就職ノ場合ニ於テハ其昇給ハ之ヲ認メサルコト

以　上

●軍籍ニアル公立學校職員召集ニ關スル件

（明治三十八年一月十七日）
（三重縣令第三號）

判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケサル公立學校職員ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然退職者トス

本令ハ市町村立小學校教員ニ適用セス

●公立學校職員又ハ市町村立小學校正教員ノ休職者ニ關スル件

（大正七年十二月二十日）
（學第四〇六九號通牒）

内務部長ヨリ各郡市長各縣立學校長宛

公立學校職員分限令第八條第二項又ハ小學校令施行規則第百二十三條ニ依ル公立學校職員又ハ市町村立小學校正教員ノ休職者ニ關シテハ自今左記ニ依リ御處理相成度依命此段及通牒候也

追テ本年四月一日以後ノ分ニ關シテハ此際取纏本月二十七日迄ニ御報告相成度此段申添候

左　記

一、公立學校職員及市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ（陸軍六週間現役兵ニ服スル者ヲ除ク）又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ其ノ入隊ノ日ヲ以テ休職トナリタルモノトス其ノ復職ニ關シテハ郡市長又ハ縣立學校長ニ於テ其ノ事故止ミノ事由及俸給額ヲ具シ上申スヘシ

二、前項ノ服役者又ハ應召者アリタル時ハ其ノ都度本人職氏名入隊年月日竝ニ所屬部隊名ヲ具シ速ニ報告スヘシ

●教員異動ニ關スル件

（大正十年四月十四日）
（學第一六五號通牒）

内務部長ヨリ縣立學校長宛

近時中等學校ニ於ケル教員異動ハ學校增設又ハ擴張ニ伴ヒ常ニ不足ヲ訴フル狀況ニ有之自然教員ノ異動不鮮爲ニ生徒教養上殊ニ遺憾トスル次第ニ付爾今特別ノ場合ヲ除ク外就任二ケ年以上經過セサル者ニ對シテハ轉任詮議不相成候條右御含置相成度依命此段及通牒候也

追テ特別ノ事情ヲ有スル場合ハ其ノ内容詳細具申相成度申添候

第十四編　官等俸給及諸給

●市町村立小學校教員等ノ增給辭令ニ關スル件

（大正九年三月三十日三重縣訓令甲第九號）

【郡役所】市役所
町村役場　縣立學校
郡市町村立學校　公立幼稚園
公立圖書館

市町村立小學校教員、公立學校職員、公立幼稚園保姆、公立圖書館職員ニ對スル增給辭令ハ自今縣公報ニ登載シ本人ニ辭令書ヲ交付セス但シ新任、兼任、轉任、休職、退職ノ場合ハ此ノ限ニアラス

●教員增俸ニ關スル件

（昭和二年五月教第三六九九號通牒）

學務部長ヨリ南牟婁支廳長各市長各市町村立小學校長各市町村立實業補習學校長宛

標記ノ件ニ關シテハ客年八月十一日付敎第五三三四號ヲ以テ通牒相成居リ候處自今定期增俸ハ每年六月、十二月ノ二期ニ於テ執行ノコトニ變更候條右御了知相成度候也

追テ本年三月ノ分ニ就テモ來ル六月ノ期ニ於テ詮議可相成筈ニ付申添候

●市町村立小學校敎員加俸給與ニ關スル細則

（明治四十二年七月九日三重縣令第四十五號）

沿革　明治四四年四月縣令第二五號、大正三年五月同第二〇號、一五年七月同第一〇六號、昭和二年八月同第八六號改正

第一條　正敎員及准敎員ノ勤續年數ハ之ヲ通算ス

第二條　市町村立小學校敎員加俸令第三條ニ依リ年功加俸ヲ受ケタル後成績特ニ佳良ナリト認メタル者ニハ勤續五年ヲ加フル每ニ本科正敎員ニ在リテハ年額拾八圓乃至參拾六圓專科正敎員及准敎員ニ在リテハ年額拾貳圓乃至拾八圓ヲ加給ス

市町村立尋常小學校ノ本科正敎員ニシテ多級學校ノ一學年ヨリ四學年、五學年又ハ六學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ年額四拾八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトアルヘシ

僻隅地ノ市町村立尋常小學校ニ勤務スル本科正敎員ニハ年額參拾六圓以下專科正敎員及准敎員ニハ年額拾八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトアルヘシ

第三條　加俸ハ病氣又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤スルモ減給スルコトナシ

第四條　加俸ノ支給ヲ停止シ若ハ止メタルトキハ月割ヲ以テ當月分マテヲ計算ス

第五條　加俸ハ年額ヲ二分シ每年九月三月ノ二回ニ之ヲ給ス但シ休職、退職ヲ命シ又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ加俸ヲ止メタルトキハ其ノ際之ヲ支給ス

第六條　特別加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ學校ニ轉任スルトキ又ハ第二條第二項ノ擔任學級ヲ變更セラレ若ハ高等科ノ學級ヲ擔任スルニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ其ノ加俸ヲ失フモノトス

特別加俸ヲ受クル者ニシテ同一學校ノ僻隅地ニアラサル箇所ノ勤務ニ轉シタル場合亦同シ

第七條　市町村立小學校長ハ所屬敎員ニシテ每年四月末日現在ニ於テ市町村立小學校敎員加俸令第三條ニ該當スル者アリト認ムルトキハ第一號樣式ニ依リ五月十日限リ知事ニ報告スヘシ

第八條　市町村立小學校長ハ所屬敎員ニシテ市町村立小學校敎員加俸令第七條ニ該當スル者アリト認ムルトキハ其ノ都度知事ニ報告スヘシ第二條第二項ノ加俸ヲ受クル者ノ擔任學級ヲ變更シタルトキ竝第二條第三項ノ加俸ヲ受クル者ニシテ高等科ノ學級ヲ擔任スルニ至リタルトキ及第六條第二項ノ場合亦同シ

第九條　年功加俸、特別加俸ヲ受クル者ハ每年九月及三月第二號樣式ノ仕譯書ヲ作リ其ノ月十日迄ニ知事ニ差出スヘシ但シ代理者ヲ以テ支給ヲ受ケムトスル場合ニハ第三號樣式ノ仕譯書ニ委任狀又ハ委任屆ヲ添付スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

勤續教員ニ關スル調書

勤續年月又ハ（初給後）（第一次加給後）	生年月	勤務學校名	職名	氏名

（備考）

一、本縣內ノ市町村立小學校ニ五年以上勤續シ未タ年功加俸ヲ受ケサルモノ又ハ年功加俸ヲ受ケタル後五年以上ニ達シタルモノニツキ調査スルコト

一、本科正教員、專科正教員、准教員各別表ニ調製スヘシ

一、初給ノ分ト加給ノ分トハ各別表ニ調製スヘシ

第二號樣式

一金何程

何郡市何學校

何　某

種別	年	支給期間	支給金額	正准教員ノ區別
	円	自何年何月至何年何月	円	正
		自何年何月至何年何月		准

（備考）

一、年功加俸ト特別加俸トハ各別ニ調製スヘシ

一、種別ノ欄ニハ加俸令第何條第何項ニ依リ給與ヲ受クル等加俸ヲ受クル原由ヲ記スヘシ

一、新ニ加俸ノ支給ヲ受クル者ハ其ノ發令年月日ヨリ加俸令第三條第二項、第七條第四項ニ依リ加俸年額ノ增加シタル者、同令第六條ニ依リ加俸ノ支給ヲ停止セラレ又ハ止メラレタル者若ハ死亡退職轉任等ノ事故ニ依リ前期ノ支給額ニ異動アル者ハ各其ノ事由ヲ備考トシテ仕譯書ニ附記スヘシ

第三號樣式

一金何程

何郡市何學校

何某外何名及自分共

何　某

內譯

種別	年額	支給期間	支給金額	正准教員ノ區別	在職校名	姓名
	円		円	正		
				正（專）		
				准		

（備考）

一、前ニ同シ

●僻陬地小學校指定ノ件

（大正四年十月二十六日三重縣告示第三百二十四號）

沿革　大正五年七月告示第二四六號、一〇年四月同第一五一號、同第一五九號、一二年一月同第二六號、一四年六月同第二八三號、一五年五月同第三二四號、昭和二年一二月同第六三一號、五年三月同第一八〇號改正

市町村立小學校教員加俸令第七條第三項及第四項ニ依リ縣內僻陬地小學校左ノ通指定ス本指定ノ際現ニ給與スル僻陬地ニ係ル加俸ハ仍五年間本指定ノ爲廢止若ハ減額セラルルコトナシ

僻陬一等地ノ小學校

一志郡

太郎生尋常高等小學校　川上尋常小學校　多氣尋常高等小學校　同丹生俣分教場　與原尋常小學校

小原尋常小學校　柚原尋常高等小學校

飯南郡

波瀨第一尋常高等小學校　波瀨第二尋常高等小學校　森第一尋常高等小學校蓮分教場　森第二尋常小學校

多氣郡

大杉尋常高等小學校　領內尋常高等小學校　同南分教場　栗谷尋常小學校

度會郡

七保村第三尋常小學校　西尋常小學校　迫間尋常高等小學校　相賀尋常高等小學校　礫尋常高等小學校　五ケ所尋常高等小學校中津濱分教場　中島村南部尋常高等小學校

名賀郡

矢持尋常高等小學校　奥鹿野尋常小學校　高尾尋常高等小學校　長瀬尋常高等小學校

志摩郡

神島尋常高等小學校　菅島尋常高等小學校　石鏡尋常小學校　本浦尋常小學校　國崎尋常小學校

北牟婁郡

錦尋常高等小學校　相賀尋常高等小學校便ノ山分教場　赤羽尋常高等小學校第一分教場　早田尋常高等小學校　行野尋常小學校

南牟婁郡

曾根尋常小學校　梶賀尋常小學校　遊木尋常小學校　北檜杖尋常小學校　片川尋常小學校　小森尋常小學校　青柳尋常小學校　和氣尋常高等小學校　入鹿尋常高等小學校　西山尋常高等小學校　神上尋常高等小學校　三木尋常高等小學校　古江尋常小學校　矢ノ川尋常小學校　大峯尋常小學校　育生尋常高等小學校　三木里尋常高等小學校　荒坂尋常高等小學校甫母分教場　淺里尋常小學校　和田尋常小學校

僻陬二等地ノ小學校

員辨郡

清水尋常高等小學校　十社尋常高等小學校川原分教場　同貝野分教場　中里尋常高等小學校鼎分教場

笠田尋常高等小學校市ノ原分教場

鈴鹿郡

加太尋常高等小學校越川分教場　野登尋常高等小學校阿坂山分教場

安濃郡

河内尋常高等小學校

一志郡

下ノ川尋常高等小學校　境尋常小學校　竹原尋常高等小學校八手俣分教場　伊勢地尋常高等小學校

飯南郡

森第一尋常高等小學校　川俣第二尋常小學校　川俣第三尋常高等小學校

宮前尋常高等小學校赤桶分教場　粥見第二尋常小學校　粥見第一尋常高等小學校相津分教場

多氣郡

荻原尋常高等小學校　同下眞手分教場　三瀨谷尋常高等小學校第一分教場　同第二分教場　波多瀨尋常小學校

度會郡